

Oracle® Hyperion Financial Reporting

User's Guide

リリース 11.1.2.3.00

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことにより起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて	7
第 1 章 EPM Workspace の使用方法	9
EPM Workspace について	9
Financial Reporting と Disclosure Management の統合	9
第 2 章 Financial Reporting のプリファレンスの設定	11
注釈印刷プリファレンスの設定	12
第 3 章 Financial Reporting ドキュメントのユーザー POV の設定	15
次元メンバーの管理	16
次元プロパティの表示	16
選択メンバーの配置	16
第 4 章 Financial Reporting のユーザー POV の別名と説明の表示	19
第 5 章 アーティファクトのインポート	21
アーティファクトのインポート	21
Financial Reporting ファイルのインポート	22
第 6 章 Financial Reporting アーティファクトのエクスポート	23
アーティファクトのエクスポート	23
Microsoft Office への Financial Reporting レポートとスナップショットのエクスポート	24
第 7 章 Financial Reporting の関連コンテンツ・サーバーの変更	27
第 8 章 Financial Reporting データベース接続の変更	29
Analytic Services と Planning 詳細の変更	30
Analytic Services から Planning 詳細への変更	30
Planning 詳細から Analytic Services への変更	30
第 9 章 Financial Reporting のデータベース接続の管理	33
データベース接続の追加	34
Essbase サーバーへの各種アクセス方法	35
アプリケーション名とデータベース名の選択	35

データベース接続の編集	36
データベース接続の削除	36
第 10 章 Financial Reporting の使用方法	37
概要	37
EPM Workspace タスク	37
ドキュメントの操作	39
表示の有効化	39
Financial Reporting レポートとブックのプレビュー	39
データベース接続へのログオン	39
レポートの表示	40
レポートとブックの印刷	41
ユーザー POV の変更	41
プロンプトへの応答	42
展開機能の使用方法	43
関連コンテンツの使用方法	43
メンバーの選択	44
グリッド POV のメンバーの変更	46
スナップショットの表示	47
ブックの表示	47
スナップショット・ブックの表示	48
第 11 章 Financial Reporting バッチとブックのドキュメントの設計	49
概要	49
ドキュメントの設計について	49
バッチ	50
ブック	50
ドキュメントの設計	51
ブックの作成	51
メンバーの選択	56
「使用可能」領域	57
特殊メンバーの割当て	58
プロンプトの詳細	59
ユーザーの POV をブックの POV のメンバーにする	59
関数を使用したメンバーの割当て	60
条件に基づいた複数のメンバーの選択	60
メンバーの検索	61
選択したメンバーのプレビュー	62
FRExecute の構文	62
FRExecute の使用に関する考慮事項および推奨事項	64

Microsoft Word 内のハイパーリンクの作成	65
ブックの保存	67
ブックおよびスナップショット・ブックを開く	68
ブックとスナップショット・ブックの名前変更	69
ブックとスナップショット・ブックのプレビューおよび印刷	69
ブックから生成された PDF ファイルの機能	69
ブック・プロパティの設定	70
ブックでの関連コンテンツの動作	72
ハイパーリンクおよび FReXecute の動作の処理	73
ブックのコンテンツとデザインの編集	75
ブックへのドキュメントの追加	75
ブックの目次への見出しテキストの追加	76
目次テキストの設定	76
表紙の追加	78
ブック・エディタでの URL の追加	78
Oracle BI EE サーバーから URL の追加	79
汎用 URL の追加	79
Oracle Universal Content Management の URL の追加	80
Public Sector Planning and Budgeting でのブックの使用	81
Public Sector Planning and Budgeting 意思決定パッケージと Financial Reporting の使用	81
予算台帳のカスタマイズ - 例	83
予算台帳 - 全体的なプロセス	83
テキスト・ファイルの印刷	84
Microsoft Word テンプレート	84
ブックとスナップショット・ブックのエクスポート	85
バッチの設計	85
バッチのプロンプトの定義	86
バッチを開く	88
第 12 章 バッチのスケジュール設定	89
実行するバッチのスケジュール	89
ログオン情報の提供	90
バッチ視点(POV)用のメンバーの選択	91
バッチ宛先の指定	91
バッチのスケジュールの電子メール・アドレスの選択	94
バッチ・バーストのスケジュール	94
バースト宛先ファイルについて	95
バースト・ファイルの選択	96
バースト・リストのプレビュー	96

バースト出力ラベルの指定	96
バッチ・スケジューラ操作	97
バッチの削除	98
エクスポート済ファイルの取得	99
スケジュール済バッチの詳細の表示	99
コマンド・ライン・スケジューラのためのバッチ・ファイルの準備	100
スケジュール済バッチのログオン情報の変更	100
HTML ブックを Web 表示用を開く	101
HTML Web 出力例の表示	101
バッチ・プロパティの新規バッチへのコピー	103
バッチ・プロパティの変更	103
スナップショットとスナップショット・ブックに対するファイルのアクセス権の割当て	103
第 13 章 注釈サービス	105
注釈の表示および非表示	106
注釈の作成	106
式のセル上にある注釈の動作	107
注釈要約の表示	108
注釈詳細の表示	108
注釈の検索	109
コンテキスト検索	110
詳細検索	110
注釈権限の設定	111
注釈への返答	111
注釈の削除	112
注釈の印刷のプリファレンスの設定	112
用語集	113
索引	139

ドキュメントのアクセシビリティについて

Oracle のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc> を参照してください。

Access to Oracle Support

Oracle サポート・サービスでは、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

1

EPM Workspaceの使用方法

この章の内容

EPM Workspace について	9
Financial Reporting と Disclosure Management の統合	9

EPM Workspace について

EPM Workspace は、Oracle Hyperion Planning, Fusion Edition、Oracle Hyperion Financial Management, Fusion Edition、Oracle Hyperion Profitability and Cost Management, Fusion Edition、Oracle BI アンサー、Oracle BI インタラクティブ・ダッシュボード、Oracle BI デリバーおよび BI Publisher を含むほとんどすべてのデータ・ソースから、スケジュールまたはオンデマンドによる高度にフォーマット設定された財務および事業報告作成機能を提供する、Financial Reporting のコンテンツへのアクセスに使用する Web ユーザー・インタフェースです。

Web アプリケーションの配置場所が変更されました。ドキュメントのこの場所への参照はすべて次のように更新されます。変更前: MIDDLEWARE_HOME/user_projects/epmsystem1/domains/domainName 変更後:

EPM_ORACLE_INSTANCE/domains/domainName ここで、domainName は WebLogic ドメインの名前です。Web アプリケーションに関する ODL のログの場所が変更されました。ドキュメントの参照はすべて次のように更新されます。変更前: MIDDLEWARE_HOME/user_projects/epmsystem1/diagnostics/logs/ 変更後: EPM_ORACLE_INSTANCE/domains/EPMSYSTEM/servers/serverName/logs ここで、serverName は WebLogic 管理対象サーバーの名前です。

注： 製品ガイドでは、サード・パーティ製品のリリース番号またはバージョン番号への参照は無視してください。システム要件については、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System の動作保証マトリックスを確認してください。これは http://www.oracle.com/technology/software/products/ias/files/fusion_certification.html (Business Intelligence 内)にあります。

Financial Reporting と Disclosure Management の統合

Hyperion Financial Reporting に含まれている Oracle Hyperion Disclosure Management 製品では、監督官庁に提出する報告用パッケージをまとめることができます。こ

のパッケージには、財務諸表や附属明細書および注記が、Microsoft Excel、Microsoft Word または Oracle Hyperion Financial Reporting レポートなどの形式で含まれます。

Oracle Hyperion Disclosure Management の最初のリリースでは、エンタープライズ・レベルの XBRL マッピング、XBRL タクソノミの管理、編集および表示、インスタンス・ドキュメントの作成、検証および表示機能を持つ、XBRL の完全な作成および管理ソリューションが提供されました。Financial Reporting ドキュメントを Workspace で表示する際、ユーザーは、再利用可能なタクソノミ要素マッピングを Hyperion Financial Management、Planning および Essbase 内で可能にする XBRL タクソノミ・マッピング・ツールを使用して、データ・ソース・レベルのマッピングを実行できます。

▶ XBRL マッピング・ツールを表示するには:

- 1 Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace で、レポートを選択します。
- 2 メニューから、「表示」、「XBRL マッピング・ツールの表示」の順に選択します。パネルの右側にマッピング・ツールが表示されます。

2

Financial Reportingのプリファレンスの設定

この章の内容

注釈印刷プリファレンスの設定	12
----------------------	----

Oracle Hyperion Financial Reporting の「プリファレンス」ダイアログ・ボックスには、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace プリファレンスを設定するための「全般」タブとクライアントのプリファレンスを設定するための Financial Reporting Studio タブの 2 つのタブがあります。

▶ Financial Reporting のプリファレンスを設定するには:

- 1 「ファイル」を選択し、「プリファレンス」を選択して「Financial Reporting」を選択します。
- 2 「全般」タブから「HTML プレビュー」または「PDF プレビュー」を選択して、ドキュメントをプレビューするときのデフォルト・プリファレンスを指定します。
- 3 「ユーザー POV」から次のことを行います。
 - 「オン」を選択してレポートを実行する前にユーザー POV を表示するか、「オフ」を選択してユーザー POV を非表示にします。デフォルト設定は「オフ」です。
 - 「メンバーの設定」を選択して、ユーザー POV を使用するとき使用可能にするデータベース接続およびメンバーを選択します。「ユーザーの POV の設定」ダイアログ・ボックスが表示されます。詳細は、[15 ページの「Financial Reporting ドキュメントのユーザー POV の設定」](#)を参照してください。
- 4 「同じタイプのプロンプトをマージする」を選択して一度だけ返答するか選択解除して複数回繰返されるプロンプトおよび変数に連続的に返答します。

注： EPM Workspace の「同じタイプのプロンプトをマージする」の設定が優先されます。しかし、EPM Workspace で「同じタイプのプロンプトをマージする」を設定しないと、JConso1.exe ファイル内のデフォルト設定が使用されます。JConsole の情報については、Oracle Hyperion Financial Reporting Workspace 管理者ガイドのプロパティ情報に関する項を参照してください。
- 5 「クエリー準備モード」から:
 - 「Smart View」を選択し、レポートを Oracle Hyperion Smart View for Office ファイルとしてエクスポートします。

- Smart View がコンピュータに配置されていない場合は、「単純 Excel」を選択します。この場合、エクスポートされたファイルが Microsoft Excel で開きます。
 - 「使用不可」を選択して、レポートが HTML プレビューを使用して表示されている場合に、クエリー準備リンクを非表示にします。
- 6 「注釈の印刷の詳細」を選択して注釈を印刷する方法を指定します。12 ページの「注釈印刷プリファレンスの設定」を参照してください。
- 7 3 桁ごとの区切り文字を選択します。オプションは、カンマ(,)、ピリオド(.)、アンダースコア(_)、およびスペースです。
- 8 小数点区切り記号に小数点を表す文字を選択します(たとえば、1,000.06)。オプションは、カンマ(,)、ピリオド(.)、アンダースコア(_)、およびスペースです。
- 9 Oracle Essbase の日付値が Financial Reporting レポートに出現する場合に、その値を正しくレンダリングするには、「日付値フォーマット」ドロップダウンから日付値のフォーマットを選択します。このオプションは、日付値を戻す Essbase データ値をサポートします。このような値のフォーマット方法を指定することができます。グリッド内のセルは、(Essbase に内部的に数値として保管されている)日付値を戻すことができます。セルが値を戻すとき、Financial Reporting はその値を日付として(mm/dd/yyyy のフォーマット)表示する必要があります。このプリファレンスは、使用されるフォーマットを指定します。
- 10 「Financial Reporting Studio」タブからドロップダウン・メニューを使用してデフォルトの Financial Reporting Studio 設定をアクティブ化します。
- 言語 - デザイナ・ラベルに表示する言語。
- 注：** Web ブラウザの言語は、デフォルトでコンピュータの言語に設定されます。言語を変更するには、Web ブラウザのメニューで「ヘルプ」を選択し、言語の変更方法について検索します。
- 単位 - レポート・デザイナのデフォルトの単位。インチまたはセンチ。
 - ガイドライン - レポート・デザイナのバックグラウンド設定。色、スタイル(点または線)、および「ガイドラインにスナップ」設定。
- 11 「OK」を選択します。

注釈印刷プリファレンスの設定

Financial Reporting プリファレンスでは、注釈を印刷する方法または注釈を印刷するかどうかを指定できます。

- **詳細** - 選択するとシステム定義脚注が作成されます。印刷する注釈要素や印刷する注釈返答の数などの印刷オプションを選択できる「脚注の詳細を使用」領域が使用可能になります。汎用フォーマットが適用され、システム定義サイズとフォントが使用されます。
- **テキスト・オブジェクト** - 選択するとレポートのテキスト・オブジェクトの脚注機能を使用して注釈を印刷します。脚注機能は、レポート設計者が作成します。このオプションは、注釈のフォーマットおよび印刷の点でより柔軟性

に富んでいます。たとえば、脚注機能を指定して見出しとコンテンツに異なるサイズ、フォント、および色を適用したグリッド注釈のみを印刷できます。

- 「なし」 - 選択すると、注釈は PDF に脚注として印刷されません。

 - ▶ 注釈印刷プリファレンスを設定するには:
 - 1 「ファイル」を選択し、「プリファレンス」を選択して「Financial Reporting」を選択します。
 - 2 「全般」タブで、「注釈の印刷の詳細」を選択して「注釈印刷のプリファレンス」ダイアログを表示します。
 - 3 「注釈印刷のプリファレンス」ドロップダウンから次のいずれかを選択します。
 - **詳細** - システム定義脚注詳細および注釈の印刷を使用します。汎用フォーマットが適用されます。
 - 「脚注の詳細を使用」で、印刷する注釈要素を選択します。
- 注：**「返答を含める」を選択した場合、「すべて」の返答、「上位」の数の返答、または「下位」の数の返答を含めるか示します。空き領域に印刷する返答の数を入力します。
- **テキスト・オブジェクト** - 注釈のカスタマイズしたフォーマットおよび印刷を使用します
 - 「脚注のテキスト・オブジェクトを使用」で「選択」をクリックして、リポジトリ内でテキスト・オブジェクトを検索します。
 - 「なし」 - 注釈テキスト・オブジェクトは PDF に脚注として印刷されません。
- 4 「OK」をクリックします。

3

Financial Reporting ドキュメントのユーザーPOVの設定

この章の内容

次元メンバーの管理	16
-----------------	----

次元は、しばしば一度もアクセスすることのないメンバーを含みます。ユーザーPOVを設定することで、指定データ・ソースの任意の次元の選択リストを作成できます。この場合、ユーザーPOVから次元にアクセスする際に、選択リスト内のメンバーのみが表示されます。19ページの「Financial Reporting のユーザーPOVの別名と説明の表示」を参照してください。



▶ EPM Workspace の Financial Reporting のユーザーPOVを設定するには:

- 1 「ファイル」を選択し、「プリファレンス」を選択して「Financial Reporting」を選択します。
- 2 「全般」タブの「ユーザーPOV」領域から「メンバーの設定」ボタンを選択します。

ヒント: 「リフレッシュ」をクリックしてデータベース接続のリストを更新します。

- 3 「データベース接続」からデータ・ソースを選択します。
- 4 プロンプトされたらログオン情報を入力して「OK」を選択します。

注: グリッドにサポート詳細またはプランニング・ユニットの注釈が含まれる場合にのみプランニング詳細データソースを使用します。その他の場合、データソースとして Oracle Essbase を使用します。

- 5 「メンバー選択に移動」ボタンをクリックして、ユーザーPOVを使用するとき使用可能にするメンバーを選択します。「ユーザーのPOVのプレビュー」ページが表示されます。
- 6 ビューを展開して使用可能なメンバーを選択し、「選択した項目に追加」ボタンをクリックして、選択したメンバーを「選択」リストに追加します。

注: 「選択」リストは、メンバー選択で指定されたデータベース接続を使用する場合に表示されます。

- 7 「OK」をクリックします。
- 8 「オプション」。「ユーザーのPOVの設定」で「適用」を選択して、別のデータ・ソースのユーザーPOVを設定します。

- 9 「OK」をクリックしてすべての変更を受け入れ、「プリファレンス」ダイアログに戻ります。

次元メンバーの管理

メンバーを管理する手順を次に示します。


- [次元プロパティの表示](#)
- [選択メンバーの配置](#)

次元プロパティの表示

次の手順に従って表示する次元メンバーのプロパティを決定します。

注： 行った変更は、選択した次元にのみ適用されます。各次元は、異なる表示プロパティを持ちます。プロパティのリストは、次元ごとに異なります。


▶ 次元について表示されるプロパティを変更するには:


- 1 「ユーザーの POV のプレビュー」ダイアログに移動します。15 ページの手順 1 を参照してください。
- 2 「ユーザーの POV のプレビュー」ダイアログの「メンバー」タブで、「プロパティの表示」 をクリックします。次元プロパティのリストが表示されます。
- 3 次のいずれかを実行します:
 - チェックされていないプロパティを選択して列をテーブルに追加します。
 - チェックされているプロパティを選択して列をテーブルから除去します。
- 4 望みの列が表示されるまで手順 3 を繰り返します。
- 5 「OK」をクリックして変更を保存します。
- 6 次元プロパティ・テーブルにユーザーが行った選択が表示されます。

選択メンバーの配置

「ユーザーの POV のプレビュー」ダイアログのメンバーは、特定の順序に配置されています。

▶ 選択済メンバー・リストでメンバーの表示順序を変更するには:

- 1 「ユーザーの POV のプレビュー」ダイアログに移動します。15 ページの手順 1 を参照してください。
- 2 「ユーザーの POV のプレビュー」メンバー・ダイアログの「選択済」列で、移動するメンバーを選択します。
- 3 次のいずれかを実行します:
 -  をクリックしてメンバーを上に移動します。

- をクリックしてメンバーを下に移動します。
- 4 ここまでの手順を繰り返して、他のメンバーを移動します。
 - 5 「OK」をクリックしてすべての変更を保存します。

4

Financial ReportingのユーザーPOVの別名と説明の表示

EPM Workspace でメンバーがユーザー POV Financial Reporting ドキュメント内で表示される方法を選択します。メンバーは、メンバーの名前別、別名/説明別、またはメンバー名と別名/説明の両方別に表示されます。メンバー・ラベルの表示方法または次元ラベルを含めるかを指定します。

▶ ユーザー POV 内の別名/説明を表示するには:

- 1 「ファイル」を選択し、「プリファレンス」を選択して「Financial Reporting」を選択します。
- 2 「全般」タブの「ユーザー POV」領域から「メンバーの設定」ボタンを選択します。

ヒント: 「リフレッシュ」をクリックしてデータベース接続のリストを更新します。

- 3 「データベース接続」からデータ・ソースを選択します。
- 4 プロンプトされたらログオン情報を入力して「OK」をクリックします。

注: グリッドにサポート詳細またはプランニング・ユニットの注釈が含まれる場合にのみプランニング詳細データソースを使用します。その他の場合、データソースとして Oracle Essbase を使用します。

- 5 「メンバーのラベルの表示形式」ドロップダウンから、メンバー・ラベルを選択します。使用可能なラベルは、使用するデータ・ソースに基づいて選択されます。
- 6 「次元のラベル」ドロップダウンから、次元ラベルを含めるか含めないかを選択します。
- 7 次のいずれかの作業を行います。
 - 「OK」をクリックして現在の変更を保存し、リポジトリ画面に戻ります。
 - 現在の変更を取消すには「取消し」をクリックします。
 - 「適用」をクリックして変更を保存し、その他のデータベース接続の次元の操作を続けます。

5

アーティファクトのインポート

この章の内容

アーティファクトのインポート	21
Financial Reporting ファイルのインポート	22

リポジトリからレポートおよびブックにインポートできる Financial Reporting アーティファクトは次のとおりです。

- 動的レポート(*.des)
- スナップショット・レポート(*.rpt)
- ブック(*.kbk)
- スナップショット・ブック(*.kbt)
- バッチ・ファイル(*.bch)
- グリッド(*.rog)
- チャート(.roc)
- イメージ(*.roi)
- テキスト(*.rot)
- 行と列のテンプレート(*.ros)

アーティファクトのインポート

リポジトリにアーティファクトをインポートすると、他のユーザーに対してそれらのアーティファクトが使用可能になります。ユーザーにあるアーティファクトの変更を許可する一方で、他の操作を制限できます。

注： MIME タイプが定義されていないアーティファクトをインポートしようとすると、エラー・メッセージが表示されます。管理者に問い合わせて MIME タイプを作成してください。

注： ファイル以外のアーティファクトをインポートするには、「ファイル」、「インポート」の順に選択します。ファイルをインポートするには、[22 ページ](#)の「Financial Reporting ファイルのインポート」を参照してください

Financial Reporting ファイルのインポート

ここでは、Financial Reporting ファイルのインポート手順を示します。

注： 一度にインポートできるファイルは1つのみです。

▶ Financial Reporting ファイルをインポートするには:

- 1 エクスプローラで、アーティファクトを配置するフォルダに移動します。
- 2 「ファイル」、「インポート」、「Financial Reporting ドキュメント」の順に選択します。
- 3 インポートするファイルを選択します。
- 4 「インポート」をクリックします。
- 5 **オプション:** データ・ソース接続を使用するアーティファクトをインポートする場合は、データ・ソース接続の選択を求めるメッセージが表示される場合があります。

6

Financial Reportingアーティファクトのエクспорт

この章の内容

アーティファクトのエクспорт	23
Microsoft Office への Financial Reporting レポートとスナップショットのエクспорт	24

リポジトリからレポート、ブック、および Microsoft Office にエクспортできる Financial Reporting アーティファクトは次のとおりです。

- 動的レポート(*.des)
- スナップショット・レポート(*.rpt)
- ブック(*.kbk)
- スナップショット・ブック(*.kbt)
- バッチ・ファイル(*.bch)
- グリッド(*.rog)
- チャート(.roc)
- イメージ(*.roi)
- テキスト(*.rot)
- 行と列のテンプレート(*.ros)

アーティファクトのエクспорт

エクスプローラから、Financial Reporting アーティファクトのみエクспортできます。ユーザーは Financial Reporting ドキュメント定義をローカル・ファイル・システムにエクспортし、EPM Workspace にインポートできます。たとえば、ユーザーは Financial Reporting アイテムをテスト環境からエクспортしてから、本番環境にインポートできます。

▶ アーティファクトをエクспортするには:

- 1 エクスプローラから、エクспортするアイテムを選択します。
- 2 「ファイル」、「エクспорт」の順に選択します。
- 3 アーティファクトに移動するには:
 1. 「名前」リストから、ファイルまたはフォルダをダブルクリックして開きます。

2. 「検索」からフォルダを選択します。
3. アーティファクト・リストをフィルタするには、「タイプ」で矢印をクリックし、ファイル・タイプを選択します。

ヒント： 階層フォルダを移動するには、「上」ボタンを使用します。

4. エクスポートするアーティファクトを選択し、「OK」をクリックします。
5. 「保存」をクリックします。
6. エクスポートされたアーティファクトの場所に移動し、「保存」をクリックします。

エクスポートを取り消すには、「取消し」をクリックします。

Microsoft Office への Financial Reporting レポートとスナップショットのエクスポート

注： 複数のページを PowerPoint にエクスポートすると、すべてのページが1つのスライドに配置されます。これらが自動的に別々のスライドに配置されるようにするには、PowerPoint で Oracle Hyperion Smart View for Office を使用してレポートをインポートします。

エクスポートの動作

- ページ次元の有無にかかわらず、HTML および PDF レポートは、Microsoft Word または PowerPoint にイメージとしてエクスポートされる際に、最初の物理ページのみがエクスポートされます。ページ次元のあるレポートは次のように動作します：
 - Microsoft Excel へのエクスポート - すべてのページがエクスポートされます。
 - Microsoft PowerPoint へのエクスポート - すべてのページがエクスポートされます。
- ▶ レポートまたはスナップショットを Microsoft Excel、Word または PowerPoint にエクスポートするには：
 - 1 レポートを開く
 - 2 レポートのグリッドをクエリー対応としてエクスポートするには、「クエリー準備モードでエクスポート」を選択します。このオプションはレポートの下部にあります。このオプションを使用してスナップショットをエクスポートすることはできません。
 - 3 その他のエクスポート・オプションを使用するには、「ファイル」、「エクスポート」の順に選択します。
 - 4 次のいずれかのサブメニュー・コマンドを選択します：
 - 現在の財務レポートを HTML フォーマットでエクスポートするには、「Excel」を選択します。

- 現在の財務レポートの現在のページを静的イメージとして Microsoft Word にエクスポートするには、「Word」を選択します。
- 現在の財務レポートの現在のページを静的イメージとして Microsoft PowerPoint にエクスポートするには、「PowerPoint」を選択します。

スナップショットは常に静的イメージとしてエクスポートされます。

「ファイルのダウンロード」ダイアログ・ボックスに、エクスポートされたコンテンツに関するプロファイル情報が表示されます。

注： HTML でのオブジェクトの配置には制限があるため、エクスポートされたオブジェクトが重なる場合があります。その場合は、Microsoft Excel で位置を調整する必要があります。

- 5 選択したモードでファイルが開きます。ファイルをマシンに保存するには、「ファイル」、「名前を付けて保存」の順に選択します。

注： Financial Reporting グリッド・オブジェクトを Excel にエクスポートすると、値がエクスポートされてレポートに表示されます。正確な値を表示するには、エクスポート前にレポートで小数点以下の桁数を設定する必要があります。

7

Financial Reportingの関連コンテンツ・サーバーの変更

EPM Workspace リポジトリ内の選択したレポートとグリッドまたはその両方のサーバーを変更するには、新規 URL または代替変数を指定します。たとえば、開発用サーバーにあるレポートとグリッドを本番用サーバーに移動するときに、関連コンテンツ・サーバーを変更します。

▶ EPM Workspace リポジトリ内の関連コンテンツ・サーバーを変更するには:

- 1 「エクスプローラ」を選択し、「ツール」の「関連コンテンツ・リンクの変更」を選択します。
- 2 「検索」フィールドで、ファイルに移動し、「OK」をクリックします。
- 3 「変更前の関連コンテンツ・サーバー名」で、URL を選択したドキュメントに関連付けられている URL に変更します(その URL が表示されていない場合)。
- 4 「変更後の関連コンテンツ・サーバー名」で次のいずれかのオプションを選択します。
 - URL を使用してサーバーを指定する場合は、「URL」を選択し、テキスト・ボックスにパスとサーバー名を入力します。URL は、http://または https://で始める必要があります。
 - 代替変数を使用してサーバーを指定する場合は、「代替変数」を選択し、ドロップダウンから変数を選択します。
- 5 「OK」をクリックします。見つかった数と置換された数が表示されます。
- 6 「OK」をクリックします。

8

Financial Reporting データ ベース接続の変更

この章の内容

Analytic Services と Planning 詳細の変更.....	30
---	----

EPM Workspace リポジトリのレポートとブックのデータベース接続を変更できます。開発環境サーバーから本番環境サーバーに移行するときデータベース接続を変更します。

変更したデータベース接続の次元が変更前のデータベース接続の次元と異なる場合は、次のようなエラー・メッセージが表示されます。

1012: レポートに無効なグリッドが含まれています。次の次元が見つかりませんでした:
<次元>

次元が一致しないレポートを開いて保存すると、次の処理が行われます。

- 古いデータベース接続にあって新規データベース接続にない次元は除去されます。行または列(あるいはその両方)内の次元とそのメンバーはグリッドから除去されます。除去の結果、行または列に次元がなくなった場合、レポートを実行するには、消去された行または列に有効な次元を追加する必要があります。
- 新規データベース接続にあって古いデータベース接続にない次元は POV に追加されます。

レポートの行と列の両方に少なくとも 1 つの次元がある場合は、レポートを実行したり、エラー・メッセージが表示されたときに開いたりできます。レポートをリポジトリからエクスポートすることもできます。

次元が一致しないときに自動的に変更を行わない場合は、レポートを閉じて元のデータベース接続に切り替えることができます。

レポートまたはブックのデータベース接続を変更するときに、データベースに同じ次元があるかどうかを検証することもできます。このオプションがレポートに対して選択されている状態で次元が一致しない場合は、アクションが失敗したことを示すメッセージが表示されます。同様に、ブック内の特定のレポートについて次元が一致しない場合は、ブック全体のアクションが失敗したことを示すメッセージが表示されます。検証を行わない場合は、レポートとブックのデータベース接続が変更され、次元が一致しない場合でもメッセージは表示されません。ただし、レポートまたはブックを開くか実行するとエラーが発生することがあります。

▶ データ・ソースを変更するには:

- 1 EPM Workspace で、「エクスプローラ」、「ツール」、「データベース接続の変更」の順に選択します。
- 2 「タイプ」フィールドで、レポート・タイプを選択してアイテムを選択し、「OK」をクリックします。「データベース接続の変更」が表示されます。
- 3 アイテムを選択し、「OK」をクリックします。
- 4 「データベース接続の検索」で、変更するデータベース接続を選択します。
- 5 「置換後」でデータベース接続を選択します。

注: 新規データベース接続を作成するには、「新規データベース接続」をクリックします。詳細は、34 ページの「データベース接続の追加」を参照してください。

- 6 複数のアイテムを選択した場合、選択したすべてのアイテムを変更します。
- 7 「OK」をクリックします。

Analytic Services と Planning 詳細の変更

レポートのデータベース接続を Analytic Services から Planning 詳細へ、またはその逆に変更する場合は、いくつかの制限があります。データ・ソースの参照のみが変更され、変換は行われません。

Analytic Services から Planning 詳細への変更

レポートのデータベース接続を Analytic Services から Planning 詳細に変更する場合は、次の事項を考慮する必要があります。

- レポートとブックで定義されている次元と関数に変更先のデータ・ソースに存在する必要があります。次の制限事項が適用されます。
 - 属性次元は Essbase に対してのみサポートされます。
 - Hsp_Rates は次元として使用可能ではありません。
 - リンク・レポート・オブジェクト(LRO)がサポートされていないため、セル・テキスト機能は使用できません。
 - レベル 0 を使用したメンバー選択のみがサポートされます。
- レポートを開く前に、次元が存在することを検証します。グリッドに定義されている次元を Planning 詳細のデータ・ソースで使用可能でない場合は、変更が行われません。無効な関数を使用されている場合はエラーが戻されます。レポート設計者は、無効な関数または次元を除去する必要があります。

Planning 詳細から Analytic Services への変更

Analytic Services レポートには無関係の機能が Planning 詳細レポートに定義されている場合があります。たとえば、Planning の注釈、サポート詳細、順序などです。

サポート詳細がレポートに定義されている場合、その説明は無視されます。Planningの注釈または順序が使用されている場合はエラーが戻されます。レポートを実行するには、レポート設計者が Planning の注釈機能と順序を除去する必要があります。

9

Financial Reportingのデータベース接続の管理

この章の内容

データベース接続の追加.....	34
アプリケーション名とデータベース名を選択.....	35
データベース接続の編集.....	36
データベース接続の削除.....	36

データベース接続マネージャを使用すると、レポート、ブック、保存済レポート・オブジェクト(行/列のテンプレート、グリッド)、バッチおよびスケジュール済バッチを管理できます。レポートとレポート・オブジェクトを開発環境から本番環境に移動したり、本番用サーバーの間で移動したりできます。データベース接続マネージャは、各データベース接続に関する次の情報を提供します。

- 名前 - データベース接続名
- タイプ - データ・ソースのタイプ(Essbase、Financial Management、Planning)。
- 値 - 接続パス

デザイナーは、EPM Workspace を使用してデータベース接続の作成、管理および名前の割当てを行うことができます。

たとえばレポートにグリッドを追加するときなどに、Oracle Hyperion Financial Reporting Studio で求められた場合、既存のデータベース接続を選択できます。データベース接続は、データベース名、ID、パスワードおよびデータソースによって異なるいくつかの値で構成されます。

注： Financial Reporting のこのリリースでは、SAP BW および MS OLAP をデータ・ソースとして使用することはサポートされていません。

表 1 各データベースの有効なデータベース値

データベース	値
Essbase	サーバー。Essbase サーバーへのアクセスについては、35 ページの「Essbase サーバーへの各種アクセス方法」を参照してください。 アプリケーション データベース データ・ソースのタイプ

データベース	値
Financial Management	サーバー。Essbase サーバーへのアクセスについては、 35 ページの「Essbase サーバーへの各種アクセス方法」 を参照してください。 アプリケーション データ・ソースのタイプ
Planning	アプリケーション データベース接続 データ・ソースのタイプ

データベース接続の管理の詳細は、次を参照してください。


データベース接続の管理の詳細は、次の各トピックを参照してください。

- [34 ページの「データベース接続の追加」](#)
- [36 ページの「データベース接続の編集」](#)
- [36 ページの「データベース接続の削除」](#)

データベース接続の追加

データベース接続を作成すると、データベース接続は「データベース・マネージャ」ダイアログ・ボックスのリストに追加されます。

▶ データベース接続を追加するには:

- 1 EPM Workspace で、「エクスプローラ」を選択します。次に、「ツール」を選択し、「データベース接続マネージャ」を選択します。
- 2 「新規」をクリックします。
- 3 「データベース接続のプロパティ」で「データベース接続名」を入力します。
- 4 データソースの「タイプ」を選択します。
- 5 残りの値は、選択したデータ・ソースによって異なります。[表 1](#)を参照して各データ・ソースで表示される値を確認してください。
- 6 アプリケーションとデータベース名を追加するには、 をクリックして追加します。[35 ページの「アプリケーション名とデータベース名の選択」](#)を参照してください。

注： アプリケーション参照ボタンを使用すると、アプリケーションおよび対応するデータベースのツリー・ビューが表示されます。アプリケーションは親、データベースは子として表示されます。アプリケーションまたはデータベースを検索できます。データベースに関連付けられていないデータ・ソースでは、アプリケーションのみがリストされます。

- 7 「OK」をクリックします。
- 8 データベース接続のプロファイルが「データベース接続マネージャ」ダイアログのリストに追加されます。

Essbase サーバーへの各種アクセス方法

「データベース接続マネージャ」で、「サーバー」フィールドを使用すると、様々な方法で Essbase サーバーにアクセスできます。2つのモード(埋込みモードまたは3層 APS モード)のいずれかを使用してアクセスできます。3層 APS モードの場合、Financial Reporting で、EssbaseJAPIServer プロパティを使用して JConsole の APS サーバー・マシン名を定義します。すべての API 呼出しはそのサーバーを介して送信されます。

- 両方のモードで、直接 Essbase サーバーを指定します- Host[:Port]。たとえば EssServer1:1423 です。
- 両方のモードの Essbase クラスタ名では、次のいずれかの行えます:
 - Essbase クラスタ名を直接指定します。たとえば、EssCluster1 です。Financial Reporting では、実行時にクラスタ名をサーバー名に内部的に解決します。
 - Essbase クラスタ名を含む APS URL を入力します。たとえば、http://host:port/aps/Essbase?ClusterName=EssCluster1 で、この host:port は Essbase クラスタ名を解決するための APS サーバーです。フェイルオーバーは Essbase クラスタ内の Essbase サーバー全体でサポートされています。
- 3層モードでのみ、APS クラスタ名を入力できます。たとえば、APSCluster1 です。

APS クラスタ名およびメンバーは Essbase 管理ユーティリティで定義されています。この方法は、APS クラスタ内の Essbase サーバー全体でフェイルオーバーおよびロード・バランシングをサポートします。

アプリケーション名とデータベース名の選択

「アプリケーションの選択」ダイアログには、アプリケーションおよび対応するデータベースのツリー・ビューが表示されます。アプリケーションは親、データベースは子として表示されます。アプリケーションまたはデータベースを検索できます。

▶ アプリケーション名とデータベース名を選択するには:

- 1 リストをスクロールして選択対象を特定するか、アプリケーション名またはデータベース名を「アプリケーション/データベース」フィールドに入力します。

注: データベースに関連付けられていないデータ・ソースでは、アプリケーションのみがリストされます。

- 2 データベースに関連付けられているデータ・ソースについては、データベースを選択して「OK」をクリックします。データベースに関連付けられていないデータ・ソースについては、アプリケーションを選択して「OK」をクリックします。

データベース接続の編集

データベース接続は必要なときに編集できます。

▶ データベース接続を編集するには:

- 1 EPM Workspace で、「エクスプローラ」、「ツール」、「データベース接続マネージャ」の順に選択します。
- 2 「データベース接続マネージャ」で、編集するデータベース接続を選択し、「編集」をクリックします。
- 3 変更を行い、「OK」をクリックします。

データベース接続の削除

データベース接続は必要なときに削除できます。

▶ データベース接続を削除するには:

- 1 EPM Workspace で、「エクスプローラ」、「ツール」、「データベース接続マネージャ」の順に選択します。
- 2 「データベース接続マネージャ」で、除去するデータベース接続を選択し、「削除」をクリックします。
- 3 情報メッセージが表示されます。「はい」を選択して削除します。
- 4 データベース接続が「データベース接続マネージャ」から除去されます。

10

Financial Reportingの使用方法

この章の内容

概要	37
EPM Workspace タスク	37
ドキュメントの操作	39
表示の有効化.....	39
Financial Reporting レポートとブックのプレビュー	39
データベース接続へのログオン	39
スナップショットの表示.....	47
ブックの表示.....	47
スナップショット・ブックの表示	48

概要

EPM Workspace では、レポートやブックなどの Financial Reporting ドキュメントをエクスペローラ・モジュールからプレビューできます。レポートやブックは HTML フォーマットまたは PDF フォーマットでプレビューできます。

注： テキストは、グリッドのセル内で自動的に折り返されます。PDF レポートの印刷プレビューを行うと、長いテキストを含むテキスト・セルは自動的に右隣のセルにマージされます(そのセルが空の場合)。HTML レポートをプレビューすると、マージ機能が設計時に適用された場合を除き、テキスト・セルは自動的にマージされません。行の高さは自動的にすべてのテキストを表示するように調整されます。

注： レポートまたはブックを表示するには 5 つのファイル権限が必要です。詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace 管理者ガイド』を参照してください。

EPM Workspace タスク

プレビュー以外に、EPM Workspace から次のタスクを実行できます。

- レポートおよびブックの要素のカスタマイズ。たとえば、レポートまたはブックの実行前または実行後に POV を変更します。

- レポート、スナップショット・レポート、XML(レポート定義ファイル)、PDF、HTML、Word、Excel または PowerPoint のエクスポート。
- 関連コンテンツを使用した、Financial Reporting レポートおよび EPM Workspace の URL へのリンク。
- Financial Reporting ドキュメントのサブスクリプションによる、レポート変更時の電子メール通知の受信およびお気に入りへの通知の追加。
- Financial Reporting ドキュメントに対する権限の変更。
- 電子メール受信リストの整理。

エクスペローラ・モジュールから使用可能なレポートとブックのタイプは次のとおりです。

- レポート - データ・ソースからデータが移入されます。ユーザーはメンバーを選択してカスタマイズできます。
- スナップショット - 特定の時点の静的データが格納されています。データは保存時に移入されます。
- ブック - 動的レポートとオプションで目次のセットが格納されています。レポートは、指定されたすべてのメンバーの組合せについて実行されます。
- スナップショット・ブック - スナップショット・レポートとオプションで目次のセットが格納されています。複数の POV について表示できます。

デザイナーは EPM Workspace 機能をレポートとブックに組み込んでビューアがタスクを実行できるようにします。

表 2 EPM Workspace の機能

	レポート	スナップショット	ブック	スナップショット・ブック
プロンプト	はい	いいえ	はい	いいえ
ユーザーの POV	はい	いいえ	いいえ	いいえ
XML、HTML および PDF	はい	はい	はい	はい
ページ軸	はい	はい	はい	はい
展開機能	はい	いいえ	いいえ	いいえ
関連コンテンツ	はい	はい	はい	はい
グリッドの POV	はい	いいえ	いいえ	いいえ
データ・セキュリティ ¹	はい	いいえ	はい	いいえ
リンクの電子メール送信	はい	はい	はい	はい

¹ データ・ソース・セキュリティが適用されます。

ドキュメントの操作

Financial Reporting では、ビューアを使用してレポートとブックのユーザー POV を変更できます。

表示の有効化

注： EPM Workspace で PDF ファイルを表示するには、Acrobat Reader がインストールされている必要があります。

▶ Microsoft Internet Explorer を使用して、EPM Workspace の PDF レポートを表示するには:

- 1 Microsoft Internet Explorer を開きます。
- 2 「ツール」、「インターネットオプション」の順に選択します。
- 3 「インターネットオプション」で、「全般」タブを選択し、「閲覧の履歴」の「設定」を選択します。
- 4 「設定」で、「保存しているページの新しいバージョンの確認」の「Web サイトを表示するたびに確認する」を選択します。
- 5 「OK」を 2 回クリックします。

Financial Reporting レポートとブックのプレビュー

選択したレポートまたはブックを PDF プレビューまたは HTML プレビューで表示できます。レポートまたはブックを右クリックし、「ファイル形式を指定して開く」を選択し、プリファレンス(「PDF プレビュー」または「HTML プレビュー」)を選択します。

データベース接続へのログオン

レポートで使用するデータ・ソースに、ユーザー名とパスワードを持つユーザーとして定義されている必要があります。たとえば、Essbase をデータ・ソースとして使用するレポートを表示する場合は、Essbase に定義されているユーザー・アカウントでデータベース接続にログオンする必要があります。

通常、ログオンは自動的に行われます。しかしながら、データベースに登録されていない場合は、「データベース接続のプロパティ」ダイアログ・ボックスからのログオンを求めるメッセージが表示されます。このダイアログ・ボックスには、レポート・デザイナーによって割り当てられたデータベース接続名が表示されます。ユーザー名とパスワードは管理者に確認してください。

▶ データベース接続にログオンするには:

- 1 「データベース接続のプロパティ」で、ユーザー名とパスワードを入力します。
- 2 「OK」をクリックします。

レポートの表示

レポートにユーザー POV の次元が含まれている場合、それらの次元は、レポートやブックの上に表示されます。ユーザー POV に次元を設定すると、次元の変更が可能になり、次元の変更により POV が変更されます。また、次元を変更するにはレポートまたはブックの再生成が必要になります。

注： リポジトリでは、レポートまたはブックを実行する前に、現在のユーザー POV の設定ページを表示できます。現在のユーザー POV の設定は、レポートまたはブックの実行後に編集できます。

PDF で表示するレポートは、ユーザー POV を使用して生成され、PDF で出力されます。複数のページ・メンバーを含むレポートは、すべてのページ・メンバーに対して生成され、EPM Workspace に Acrobat Reader で表示されます。HTML レポートはユーザー POV を使用して生成されます。

▶ レポートを表示するには:

- 1 「エクスプローラ」を選択します。
- 2 「ファイル」の「開く」を選択し、「ドキュメント」を選択します。
- 3 レポートまたはブックを選択します。

注： 「プリファレンス」の設定に従い、ファイルが PDF または HTML で開きます。

ヒント： また、リポジトリでレポートまたはブックを右クリックし、「ファイル形式を指定して開く」を選択し、「HTML プレビュー」または「PDF プレビュー」を選択することもできます。

- 4 「オプション:」ユーザー POV の設定のプレビュー・ダイアログが表示された場合は、設定を変更し、「OK」をクリックします。

ページが表示された場合は、「ユーザー POV」が Financial Reporting の「プリファレンス」で選択されています。

- 5 レポートの上部にある POV バーで、次元を選択して「メンバー選択」を開きます。別のメンバーを選択して「OK」をクリックします。

レポートのコンテンツに POV の変更が反映されます。

- 6 「表示」の「ユーザーの POV のプレビュー」を選択します。
- 7 「ユーザーの POV のプレビュー」で、「選択」をクリックして次元選択を変更します。

- 8 「メンバー選択」で、別のメンバーを選択し、「OK」をクリックします。

レポートがリフレッシュされます。

レポートとブックの印刷

任意のタイプのレポートまたはブックを印刷できます。動的なレポートとブックの場合、データがリフレッシュされます。スナップショット・レポートおよびスナップショット・ブックの場合、データはリフレッシュされません。

▶ レポートを印刷するには:

- 1 EPM Workspace のリポジトリで、レポートを右クリックして、「ファイル形式を指定して開く」を選択し、「PDF プレビュー」を選択します。

プロンプトに応答し、必要に応じて変更を加えます。

- 2 Acrobat Reader コントロールの「印刷」アイコンをクリックし、「印刷」ダイアログで印刷プリファレンスを設定します。

注: PDF 出力は、エンドユーザーが使用できるように完全にフォーマット済です。

▶ ブックを印刷するには:

- 1 EPM Workspace のリポジトリで、ブックを右クリックして、「PDF のブック全体」を選択し、すべてのレポートを含むブック全体の PDF を作成します。

プロンプトに応答し、必要に応じて変更を加えます。

注: ブックに HTML コンテンツが含まれ、「PDF のブック全体」を選択すると、表示および印刷されたブックには HTML コンテンツが含まれません。これは予期された動作です。

- 2 Acrobat Reader コントロールの「印刷」アイコンをクリックし、「印刷」ダイアログで印刷プリファレンスを設定します。

▶ ブックのレポートを印刷するには:

- 1 目次ビューで、ブック内のレポートをクリックします。
- 2 Acrobat Reader コントロールの「印刷」アイコンをクリックし、「印刷」ダイアログで印刷プリファレンスを設定します。

ユーザー POV の変更

ユーザー POV はレポート・グリッドに定義されていない次元のメンバーを指定するもので、設計時に指定された動的なレポートとブックに使用可能です。レポートやブックの実行前にユーザー POV のメンバーを変更できます。その後レポートやブックを実行して、新規メンバー・データを表示できます。レポートやブックの実行後にユーザー POV を編集することもできます。レポートやブックの実行後にユーザー POV を編集することもできます。

レポートまたはブックを HTML で表示する場合、ユーザー POV は、コンテンツ領域のレポートまたはブックの目次の上に表示できます。

各次元またはメンバーはリンクになっています。リンクを選択すると、「メンバー選択」ページが表示され、そのページで次元のメンバーを選択できます。次元のメンバーはツリー・ビューに表示されます。ツリー・ビューは次元のメンバーの階層表示です。デフォルトでは、ツリー・ビューには最上位メンバーのみ表示されます。メンバーを展開してその子を表示できます。ユーザーに親メンバーへのアクセス権がない場合、子階層はツリーにレンダリングできず、大規模なフラット・リストが表示されます。

注： 多くの場合、Financial Management の次元には複数の最上位ノードが含まれます。

注： ツリー・ビューは完全アクセス権を持つ管理者に限定されています。アクセス権が限定されたユーザー(非管理者)には、フラット・リストが表示されます。


次のメソッドでメンバーを検索できます。

- データ・メンバーの行を展開し、視覚的に検索します。「すべての行を展開」ボタンを使用すると、すべての行を展開できます。
 - 「検索」テキスト・ボックスを使用して、メンバーまたは別名と説明で検索します。検索条件には、*や?などのワイルドカードを使用できます。
- ▶ レポートまたはブックを実行する前にユーザー POV の設定をプレビューするには:
- 1 「ファイル」を選択し、「プリファレンス」を選択して「Financial Reporting」を選択します。
 - 2 「ユーザー POV」領域で、「オン」を選択します。
 - 3 レポートで使用可能にするメンバーを制限するには、「メンバーの設定」をクリックします。プリファレンスの設定の詳細は、第 2 章「Financial Reporting のプリファレンスの設定」を参照してください。

プロンプトへの応答

レポートは、プロンプトを含むように設計されている場合があります。プロンプトは、レポートまたはレポートを含むブックを表示するときに表示されます。プロンプトに応答し、プロンプト・リストからメンバーを選択することで要求された情報を指定します。プロンプトは手動で編集できます。プロンプトに別名が含まれている場合は、別名をメンバー名に変換します。

- ▶ レポートまたはブックのプレビュー時にプロンプトに応答するには:
- 1 EPM Workspace リポジトリで、プロンプトを含むレポートまたはブックに移動します。

- 2 レポートまたはブックを右クリックし、「ファイル形式を指定して開く」を選択し、「HTML プレビュー」または「PDF プレビュー」を選択します。
- 3 次のいずれかのアクションを行います:
 - 「選択」テキスト・ボックスに、既知の場合はそれぞれのプロンプトのメンバー名を入力します。テキスト・ボックスを使用できない場合、プロンプトには別名が含まれています。テキスト・ボックスを編集するには、既存のテキストの上に入力します。各メンバーをカンマ(,)で区切ります。
 - メンバー名が不明な場合は、「メンバー選択に移動」をクリックします。「メンバー選択」が表示されます。メンバーを選択して、「OK」をクリックします。
- 4 「オプション:」変更を元に戻すには、「プロンプトに回答」の「リセット」をクリックします。
- 5 表示するレポートを実行するには、「OK」をクリックします。

展開機能の使用法

展開機能は HTML レポートで表示するときのみ使用可能で、ブックでは使用できません。レポート参照者がメンバーの子とそれに対応するデータを表示できるようにします。展開機能が使用可能になっている行と列には、右向きの三角形が表示されます。その三角形をクリックすると、関連付けられている詳細が表示されます。展開機能を実行すると、展開対象として選択した行と列の近くにページが配置されます。展開機能は設計時に設定されます。

- ▶ 展開機能を使用するには、次のアクションを行います。
 - 行または列の右向きの三角形をクリックして、次のレベルの詳細を表示します。
複数回クリックして、複数のレベルの詳細を表示できます。
 - 展開した行または列の下向きの三角形をクリックすると、メンバーが縮小されます。

関連コンテンツの使用法

関連コンテンツは、他の Financial Reporting ドキュメントと他の Hyperion サーバーのドキュメントにリンクします。関連コンテンツはレポート設計者によって設定され、設計者の指定に応じて HTML でのみ使用できます。関連コンテンツのリンクを表示するには、グリッド値をクリックします。グリッド値には、デフォルトで下線が付いています。

関連コンテンツ用に選択されたセルのメンバーは、ユーザー POV に渡され、関連コンテンツ・レポートで使用されます。したがって、関連コンテンツ・レポートのコンテキストは、プライマリ・レポートで選択されたセルです。たとえば、「マージン」行と「ボストン」列のセルを選択した場合、Financial Reporting によってユーザー POV の会計次元が「マージン」に、エンティティ次元が「ボストン」に設定され、関連コンテンツ・レポートが表示されます。詳細は、『Oracle Hyperion Financial Reporting Studio ユーザー・ガイド』を参照してください。

関連コンテンツのルールは次のとおりです。

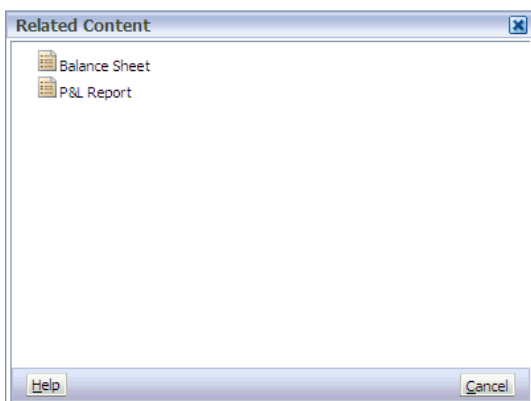
- オブジェクトに対して1つのアクション(HTML)のみ使用可能になっている場合、アクションは「関連コンテンツ」ページに表示されません。
- デフォルト・アクション(HTML)は、オブジェクト・ラベルの横に表示されません。
- フォルダは「関連コンテンツ」領域に表示されます。
- オブジェクトレベルのセキュリティは、レポートの表示が要求されたときにフォルダ内で監視されます。

▶ 関連コンテンツを使用するには:

1 レポートで関連コンテンツのリンクをクリックします。

関連コンテンツのリストで1つのレポートが選択され、1つのアクションのみ指定されている場合は、レポートが開きます。複数のレポートが選択されているか、複数のアクションが指定されている場合は、別のブラウザ・ウィンドウに「関連コンテンツ」ページが表示されます。

2 「関連コンテンツ」が表示された場合は、リンクをクリックします。




クリックしたリンクがフォルダでない場合は、クリックされたドキュメントまたはアクションの組合せが表示されます。







メンバーの選択

レポートでは、データの取得や表示するメンバー数の指定にメンバー選択を使用します。特定のメンバーを検索することもできます。

メンバー選択のタスクは次のとおりです。

表3 「メンバー選択」 Web ページのアイテム

アイテム	説明
	「メンバー選択」ダイアログ・ボックスに対して加えられた変更を取り消します
「検索」ボタン	検索のタイプを選択する場合に使用します。メンバー名、別名テーブルにある説明または名前、特定のテーブルにあるメンバーの名前、説明または別名でメンバーを検索して表示できます。検索するには、「検索」をクリックします。
「検索」テキスト・ボックス	検索条件を入力します(大文字と小文字は区別されません)

アイテム	説明
	検索条件と一致するメンバーを表示します
ワイルドカードを使用	<p>「検索」テキスト・ボックスでワイルドカードを使用できるようにします(デフォルトで選択されています)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ?は1つの文字を表します。 ● *は複数の文字を表します。 <p>注: 検索条件にスペースを含める場合は、検索語句を二重引用符で囲みます。たとえば、「*IC Offset*」を検索する場合は「"*IC Offset*"」と入力します。「IC Offset*」のように"*"ワイルドカードを末尾にのみ指定する場合、二重引用符は必要ありません。</p>
1 ページ当たりの行数	<p>メンバー・リストに表示するページ当たりの行数を指定します(デフォルトでは20)。メンバー数が行数を超える場合は、「メンバー選択の編集」ヘッダーのボタンを使用して行をスクロールします。</p> <p> - 次のページ</p> <p> - 前のページ</p>
	1つ以上のメンバー・プロパティを表示します
	階層のすべての行メンバーを子レベルまで展開します
	すべての行を縮小

ユーザー POV のメンバーの選択

「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを使用して、レポートとブックのメンバーを選択できます。選択した次元を使用してメンバーを検索したり、そのメンバーのレポートやブックを実行したりできます。

▶ ユーザーの POV のメンバーを選択するには:

- 1 ユーザー POV を含むレポートまたはブックを開きます。
- 2 次元またはメンバーのリンクをクリックします。「メンバー選択」が表示されません。
- 3 プラス符号(+)をクリックして子を表示します。
- 4 メンバーを選択し、「OK」をクリックします。

メンバーのレポートが実行されます。レポート・コンテンツに POV の変更が反映されます。

メンバーの検索

「メンバー選択」ページで、ユーザー POV のメンバーを検索したり選択したりできます。

▶ メンバーを検索するには:

1 「検索」リストから条件を選択します。

検索オプションのリストはレポート・データ・ソースに基づいています。

2 「検索」ボックスにテキストの全体または一部を入力します。*や?などのワイルドカードを含むテキストを使用できます。デフォルトでは「ワイルドカードを使用」が選択されています。

ヒント: スペースを含むメンバーを検索するには、二重引用符を使用します。

3 「検索」をクリックして検索結果を表示します。

4 メンバーを選択し、「OK」をクリックします。メンバーのレポートが実行されます。

ページ・メンバーの変更

ページ・メンバーは、レポートの設計時に複数のメンバーがグリッドのページ軸に割り当てられている場合にのみ変更できます。ページ・メンバーを変更すると、異なるレポート・ビューが表示されます(HTML レポートのみ)。ページ・メンバーの変更後、レポートがリフレッシュされ、新規ページ・メンバーが移入されます。

▶ ページ・メンバーを変更するには:

1 Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace で、グリッドにページ軸のメンバーがあるレポートを開きます。

2 「ページ」でメンバーを選択します。レポートが実行され、選択したメンバーのデータが表示されます。

注: PDF の場合、ページ・メンバーのデータは別々のページに表示されません。

グリッド POV のメンバーの変更

レポートのグリッドには、グリッド POV の次元を含めることができます。各次元のデフォルト・メンバーを使用するか、新規メンバーを選択してレポートを実行できます。

▶ グリッド POV のメンバーを変更するには:

1 グリッド POV を表示する HTML レポートを開きます。

2 次元またはメンバーのリンクをクリックします。

3 「メンバー選択」で、メンバーを選択して「OK」をクリックします。選択したメンバーのレポートが実行されます。

スナップショットの表示

スナップショットはレポートに似ていますが、スナップショットには特定の時点のデータが含まれるため、データが動的に取得されません。したがって、データレベルのセキュリティはデータ・ソースから引き継がれません。

スナップショットを HTML または PDF で表示できます。印刷サーバーが使用可能でない場合、スナップショットは HTML リンクとしてのみ使用できます。

▶ スナップショットを表示するには:

- 1 EPM Workspace リポジトリで、「エクスプローラ」、「表示」、「表示するアイテムのタイプ」の順に選択します。次に、「Hyperion」を選択し、「Financial Reporting スナップショット・ブック」または「Financial Reporting スナップショット・レポート」を選択します。
- 2 スナップショット・レポートを右クリックし、「ファイル形式を指定して開く」を選択し、「HTML プレビュー」または「PDF プレビュー」を選択します。

ブックの表示

EPM Workspace にブックを表示できます。

ブックは、HTML または PDF で表示できます。PDF の場合、ブック全体またはブック内の個々のレポートを表示できます。レポート名を選択すると、ブックで指定されているすべてのメンバー組合せのレポートが生成されます。レポートをブックに追加したり、メンバーを変更したりできます。

ブックの実行前にユーザー POV をプレビューできます。ブックを表示すると、ユーザー POV と目次が表示されます。ユーザー POV では、レポート・グリッドで定義されていない次元のメンバーを指定します。ユーザー POV のメンバーを変更してからブックを実行して、新規メンバーのデータを表示できます。

目次を使用して、表示するレポートを検索したり、オプションを設定したりできます。

注： ブックの生成や表示にかかる時間は、ブックのサイズによって異なります。ブックはいつでも取り消すことができます。

▶ ブックを表示するには:

- 1 EPM Workspace リポジトリのファイルのリストで、「表示」を選択し、「表示するアイテムのタイプ」を選択します。次に、「Hyperion」を選択し、「ブック」を選択します。
- 2 ブックを右クリックし、「ファイル形式を指定して開く」を選択し、「HTML プレビュー」または「PDF プレビュー」を選択します。

注： ブックに HTML コンテンツが含まれ、「PDF のブック全体」を選択すると、表示および印刷されたブックには HTML コンテンツが含まれません。これは予期された動作です。

- 3 オプション: 「現在のユーザー POV の設定」 ページが表示された場合は、設定を変更し、「OK」をクリックします。

このページが表示された場合は、ユーザー POV が Financial Reporting の「プリファレンス」ダイアログ・ボックスで選択されています。

- 4 「オプション:」 「ブックの目次」 ページで、ユーザー POV を変更し、新規 POV のレポートを表示します。
- 5 特定のドキュメントを表示するには、ドキュメントをハイライトして「レポートの表示」をクリックします。

スナップショット・ブックの表示

EPM Workspace にスナップショット・ブックを表示できます。

スナップショット・ブックは、HTML または PDF で表示できます。スナップショット・ブックを PDF で表示する場合、スナップショット・ブック全体または個々のスナップショット・レポートを表示できます。

スナップショット・ブックを表示すると、目次が表示されます。目次を使用して、表示するスナップショット・レポートを検索したり、オプションを設定したりできます。

▶ スナップショット・ブックを表示するには:

- 1 リポジトリで、「表示」を選択し、「表示するアイテムのタイプ」を選択します。次に、「Hyperion」を選択し、「スナップショット・ブック」「」を選択します。
- 2 スナップショット・ブックを右クリックし、「ファイル形式を指定して開く」を選択し、「HTML プレビュー」または「PDF プレビュー」を選択します。
- 3 「オプション:」 「目次」 ページで、ユーザー POV を変更し、新規 POV のレポートを実行します。
- 4 「ブックの目次」で、レポートのリストを確認し、使用するメンバーを含むレポートを検索します。
- 5 次のいずれかのアクションを行います:
 - HTML スナップショット・ブックの場合、「ファイル」をクリックし、「ファイル形式を指定して開く」を選択して「HTML プレビュー」を選択します。
 - PDF スナップショット・ブックの場合、「ファイル」をクリックし、「ファイル形式を指定して開く」を選択します。次に、「PDF プレビュー」を選択して個々のスナップショット・レポートを表示するか、「PDF のブック全体」を選択してスナップショット・ブック全体を表示します。

注: ブックに HTML コンテンツが含まれ、「PDF のブック全体」を選択すると、表示および印刷されたブックには HTML コンテンツが含まれません。これは予期された動作です。

この章の内容

概要	49
ドキュメントの設計について	49
ドキュメントの設計	51
ブックの作成.....	51
メンバーの選択	56
Microsoft Word 内のハイパーリンクの作成	65
ブックの保存.....	67
ブックおよびスナップショット・ブックを開く	68
ブックとスナップショット・ブックの名前変更	69
ブックとスナップショット・ブックのプレビューおよび印刷	69
ブック・プロパティの設定.....	70
ブックのコンテンツとデザインの編集.....	75
ブックへのドキュメントの追加	75
ブックの目次への見出しテキストの追加.....	76
目次テキストの設定	76
表紙の追加.....	78
ブック・エディタでの URL の追加	78
テキスト・ファイルの印刷.....	84
ブックとスナップショット・ブックのエクスポート.....	85
バッチの設計.....	85
バッチのプロンプトの定義.....	86
バッチを開く.....	88

概要

EPM Workspace では、バッチの作成、管理およびスケジュール設定、ブックの作成、管理および実行を行うことができます。また、メンバー選択の詳細設定には、メンバー関数などの機能が用意されています。たとえば、子、子孫、リストなどがあり、これらはブックの編集時に使用できます。

ドキュメントの設計について

Financial Reporting モジュールでは、EPM Workspace の新規ドキュメント・ウィザードを使用したブックおよびバッチの定義と保存、リポジトリ内のブックまた

はバッチのコピーと削除などを行うことができます。ブックまたはバッチを削除するには、そのブックまたはバッチに対するファイル・アクセス権が必要です。

バッチ

デフォルトでは、スケジュールを行うユーザーにリポジトリ内のスナップショットおよびスナップショット・ブックに対するアクセス権が割り当てられます。バッチに対するファイルのアクセス権を持っている場合は、スケジュール時にバッチ内のどのレポートも実行できます。スケジュールを行うユーザーは、スケジュール時に他のユーザーやグループにファイルのアクセス権を割り当てることができます。

スケジュール済バッチには、スケジュール時に変更できるスケジュール済バッチ POV(視点)があります。また、バッチのプロンプト情報を指定することもできます。POV とプロンプト情報により、各ブックとバッチ内のレポートに指定された POV とプロンプトの値が提供されます。バッチは、すぐに処理するか後で処理するようにスケジュールできます。

ブック

Reporting Studio で作成されたレポートまたはスナップショット・レポート、リポジトリ内のその他のアーティファクト(テキスト、HTML、PDF ファイル、Microsoft PowerPoint、Excel、Word ファイルなど)、および URL はブックにまとめることができます。これにより、EPM Workspace から 1 つのセッションで独自の出力を生成できます。ブックは、複数のバージョンのレポートや異なるメンバー選択のレポートを生成するように構成できます。これらのレポートを含んでいるブックを実行すると、含まれているすべてのレポートが一度に実行されます。このブックに含まれているレポートの印刷および表示は、個別に行うことも、ブックとして行うこともできます。

次の 2 つタイプのブックを定義してリポジトリに保存できます。

- ブック - レポート、スナップショット・レポートおよびその他のアーティファクト(テキスト・ファイルや PDF ファイル、Microsoft PowerPoint、Excel、Word ファイルなど)で構成されます。ブックを実行すると、レポート・データがデータベースから動的に取得されます。スナップショット・データは静的なままです。
- スナップショット・ブック - スナップショット・ブックとして保存されたブック。レポートに格納されるデータおよび目次は、ブックの保存時に作成されます。スナップショット・ブックを表示するたびにデータレベルのセキュリティが適用されるわけではありません。データレベルのセキュリティは、スナップショット・ブックの作成時に適用され、スナップショット・ブックを保存したユーザーに設定されているデータレベルのセキュリティに基づきます。

ブックにはブック POV が含まれています。この POV は、ブックに含まれている各レポートのユーザー POV の次元をすべて組み合わせたものです。レポートに定義されていない次元は、デフォルトでユーザー POV のメンバーとなり、次元はブック・エディタのブック POV に表示されます。ユーザー POV をブック POV のメン

バーとして選択することでパラメータを変更することもできます(パラメータはブック定義に格納されないため)。

ブック POV の次元として選択されたメンバーは、ブック POV のその次元を参照する各レポートで使用されます。POV 内のデータ・ソースは、ブック内のレポートで使用されるデータ・ソースと同じです。

注： ブックをバッチの一部としてスケジュールすると、ユーザー POV を参照する次元は、スケジュール済バッチの POV によってコントロールされます。

ブックとスナップショット・ブックで実行できるタスクは次のとおりです。

- バッチを使用して、一連のブックをグループ化し、処理する
- ブックまたはスナップショット・ブックへのリンクを電子メールで送信する
- ブックのデータ・ソースを変更する
- ブックまたはスナップショット・ブックを削除する
- ブックおよびスナップショット・ブックをリポジトリ以外のファイル・システムからインポートする
- ブックおよびスナップショット・ブックをエクスポートする
- 子、子孫、リストのメンバー関数などのメンバー選択の詳細機能を実行する

ドキュメントの設計

EPM Workspace では、タスクの選択ウィザードを使用してブックやバッチを作成できます。詳細は、次の各項を参照してください。

- [51 ページの「ブックの作成」](#)
- [85 ページの「バッチの設計」](#)

ブックの作成

注： Financial Reporting は、Financial Reporting レポートおよびテキスト・データを含む予算台帳を PDF フォーマットまたは配置可能な HTML Web サイト形式で作成する機能により、Public Sector Planning and Budgeting をサポートします。詳細は、『Oracle Hyperion Public Sector Planning and Budgeting ユーザー・ガイド』を参照してください。簡単な概要については、[81 ページの「Public Sector Planning and Budgeting でのブックの使用方法」](#)を参照してください。

EPM Workspace でブックを作成、編集および保存できます。ブックを作成するには、管理者および設計者の権限が必要です。

EPM Workspace では、HTML フォーマットまたは PDF フォーマットでブックをレビューできます。この場合、対話型の目次が表示され、ブックのドキュメント

を開くことができます。また、ブックはブック全体を 1 つの PDF としてプレビューすることもできます。この場合、ブックのすべてのコンテンツが 1 つの PDF にまとめられ、目次が付けられます。ブックには、レポート、スナップショット・レポートおよびサード・パーティのドキュメント(PDF ファイル、テキスト・ファイル(.txt)ファイル、HTML ファイル、Microsoft Excel、Microsoft PowerPoint および Microsoft Word ファイルなど)を含めることができます。サード・パーティのドキュメントは目次に表示され、Financial Reporting ドキュメントと同様に開くことができます。「PDF のブック全体」を指定してブックを開くと、それらのドキュメントも PDF ファイル内に含まれます。

バッチ・スケジューラを使用してブック出力を生成する場合、ブックは PDF 出力で生成されるか、静的 HTML Web サイト出力用に生成されます。HTML Web サイトは、組込みの検索機能や、レイアウトおよびページのカスタマイズ用のテンプレートを使用する機能をサポートします。Financial Reporting Workspace 管理者ガイドのブック HTML 出力レイアウトの管理に関するトピックを参照してください。

ブック出力には、PDF および HTML 用に次の機能があります(他に指定されている場合を除く)。

- 目次にセクションおよびサブセクションが含まれたブックを定義する機能
- HTML のみ: レイアウトおよびページのカスタマイズ用のテンプレートを使用する機能。Oracle Hyperion Financial Reporting Workspace 管理者ガイドのブック HTML 出力レイアウトの管理に関するトピックを参照してください。
- Microsoft Word ドキュメント内に、FRExecute 関数を使用して Financial Reporting レポートを挿入する機能。62 ページの「FRExecute の構文」を参照してください。
- Microsoft Word のハイパーリンク・オプションを使用して、Oracle Universal Content Management を介して、リポジトリおよびサード・パーティのドキュメントにあるレポートまたはファイルへのリンクを Microsoft Word ドキュメント内に挿入する機能。65 ページの「Microsoft Word 内のハイパーリンクの作成」を参照してください。
- Oracle Universal Content Management および Oracle Business Intelligence Enterprise Edition を使用してサード・パーティのドキュメントをブックに追加する機能。

注： ブック検索では、「<123>」などの「<>」文字で囲まれたテキスト以外の特殊文字に対して正常に動作します。この場合、文字「<」、「>」または「123」について個別に検索できます。

ブックには、次を含めることができます:

- Financial Reporting ドキュメント(動的レポートとスナップショット・レポートの両方)。
- サード・パーティのドキュメント
 - Microsoft Word - 次を含められます:

- FRExecute 関数を使用した埋込み Financial Reporting レポート。詳細は、[62 ページの「FRExecute の構文」](#)を参照してください。
 - Smart View クエリー
- Microsoft Excel
- Microsoft PowerPoint
- PDF ファイル
- HTML ファイル
- テキスト(.txt)ドキュメント
- URL リンク。URL は、ブラウザ、または Oracle Business Intelligence Enterprise Edition および Oracle Universal Content Management サーバーからコピーできます:
- 見出しテキスト

ブック出力には、Financial Reporting レポート内の関連コンテンツを含めることができます。関連コンテンツの機能については、『Oracle(R) Hyperion Financial Reporting Studio, Fusion Edition ユーザー・ガイド』を参照してください。ブックでの関連コンテンツの動作については、[72 ページの「ブックでの関連コンテンツの動作」](#)を参照してください。

上のリストの URL を除き、ブックのファイルを選択するには、それらがリポジトリ内に格納されている必要があります。サード・パーティのドキュメント(Microsoft および PDF ファイル)は、目次に表示され、Financial Reporting ドキュメントと同じ方法で開くことができます。「PDF のブック全体」としてブックを開くと、それらのドキュメントも PDF ファイル内に含まれます。

注： ブックをスナップショット・ブックとして保存すると、展開機能は除去されます。関連コンテンツのリンクは HTML ブックで使用できます。

ブックへのレポートの追加

レポートをブックに追加する場合、レポートにメンバー選択用のプロンプトが含まれていることがあります。プロンプトは、ブックの実行時に定義されます。また、レポートをブックに追加する場合、ブック POV の次元を複数のメンバーに設定できます。ブックを実行すると、レポートは各メンバーを反復処理します。たとえば、North、South、East、West、Actual および Budget が選択された場合、ブックにはこのレポートの 8 つのバージョンが含まれます(N、S、E、W の Actual、N、S、E、W の Budget)。ブック内のすべてのレポートで同じメンバー選択が使用されている場合は、印刷出力をメンバー選択に基づいて丁合いです。これにより、たとえば東部または予算のレポートをすべてグループ化できます。

メンバー選択による丁合は、次のいずれかの条件が存在する場合は使用できません。

- 章のメンバーの選択が、ブック内のすべての表示可能な章と一致しない(例: DisplayInTOC == true)
- すべての章メンバーの選択が単一メンバーに設定されている

- 章がインデントされている
- ブックに他の章のメンバー選択と一致しないブック・メンバー選択を含む外部コンテンツが含まれる
- ブックにスナップショット・レポートが含まれる

同じデータ・ソースが使用されている場合、メンバー選択はレポート間でコピーできます。これにより、共有メンバーを複数回選択する必要がなくなります。

ブックでの Microsoft Word ドキュメントの使用方法

Microsoft Word ドキュメントでは、Word 製品に含まれている書式設定機能をすべて使用できます。

目次のカスタマイズ

ツリー構造の見出しおよび小見出し付きの目次が、ブックにまとめられたドキュメントに対して作成されます。この階層内でコンテンツの追加、移動または削除、およびレイアウトのフォーマットを行うことができます。インデントの増減を行い見出し構造を変更できます。メンバー選択をブック内のその他のレポートにコピーできます。

ブックに目次が作成されます。印刷された目次内のレポートをレポートまたはメンバー選択に基づいて丁合いです。たとえば、次の2つのブックを作成できます。

Book 1 : Balance Sheet (New York, Boston), (Q1, Q2) Cash Flows (New York, Boston), (Q1, Q2)

Book 2 Balance Sheet (Actual, Budget), (Q1, Q2) Cash Flows (New York, Boston), (Q1, Q2)

印刷されたブック内のレポートをレポートに基づいて丁合いですする場合、メンバー選択の各セットの最初のレポートが実行され、次に2つ目のレポートが実行されます。次のブックが作成されます。

Book1 Table of Contents

Balance Sheet

New York, Q1

New York, Q2

Boston, Q1

Boston, Q2

Cash Flows

New York, Q1

New York, Q2

Boston, Q1

Boston, Q2

印刷されたブック内のレポートをメンバー選択に基づいて丁合いです場合、メンバー選択の各レポートが実行されます。次のブックが作成されます。

Book1 Table of Contents

Balance Sheet

New York, Q1

Cash Flows

New York, Q1

Balance Sheet

New York, Q2

Cash Flows

New York, Q2

Balance Sheet

Boston, Q1

Cash Flows

Boston, Q1


Balance Sheet

Boston, Q2



Cash Flows

Boston, Q2

▶ ブックを作成するには:

- 1 EPM Workspace を起動します。
- 2 「ファイル」の「新規」を選択し、「ドキュメント」を選択します。
コンテンツ領域に「1. タスクの選択」ウィザードが表示されます。
- 3 「レポートを収集してブックを作成」を選択し、「次へ」をクリックします。
- 4 「手順 2: ファイルの選択」で、レポートとその他のアーティファクトをフォルダから選択し、 をクリックします。

ヒント: 複数の連続したレポートを選択するには、[Shift]キーを押します。
複数の連続しないレポートを選択するには、[Ctrl]キーを押します。

- 5 「オプション:」ブックからレポートを除去するには、レポートを選択し、 をクリックします。ブックからすべてのレポートを除去するには、 をクリックします。

注: リポジトリ内のレポートまたはその他のアーティファクトを移動、削除または名前変更すると、そのアイテムは次回ブックを開いたときにブックから除去されます。それらのアイテムをブックに含めるには、再度追加する必要があります。

- 6 完了したら、「終了」をクリックして「ブック・エディタ」を開きます。

注： 目次に次元を表示するには、ブック・エディタで次元名を選択します。
次に下部のパネルで、「表示」を選択します。

7 「オプション:」 ブック POV のメンバー選択を追加または変更します。

1. 「名前」列で、次元をダブルクリックして「メンバー選択」を表示します。
2. メンバーを選択します。
3. 「OK」をクリックします。

8 「オプション:」 「ブック・エディタ」で、レポートのメンバー選択をあるレポートから別のレポートにコピーします。

注： メンバー選択は、ユーザー POV の次元が同じレポート間でのみコピーされます。

1. コピーするメンバーが含まれているレポートを選択します。
2. 「編集」を選択し、「メンバー選択のコピー」を選択してレポートを選択します。

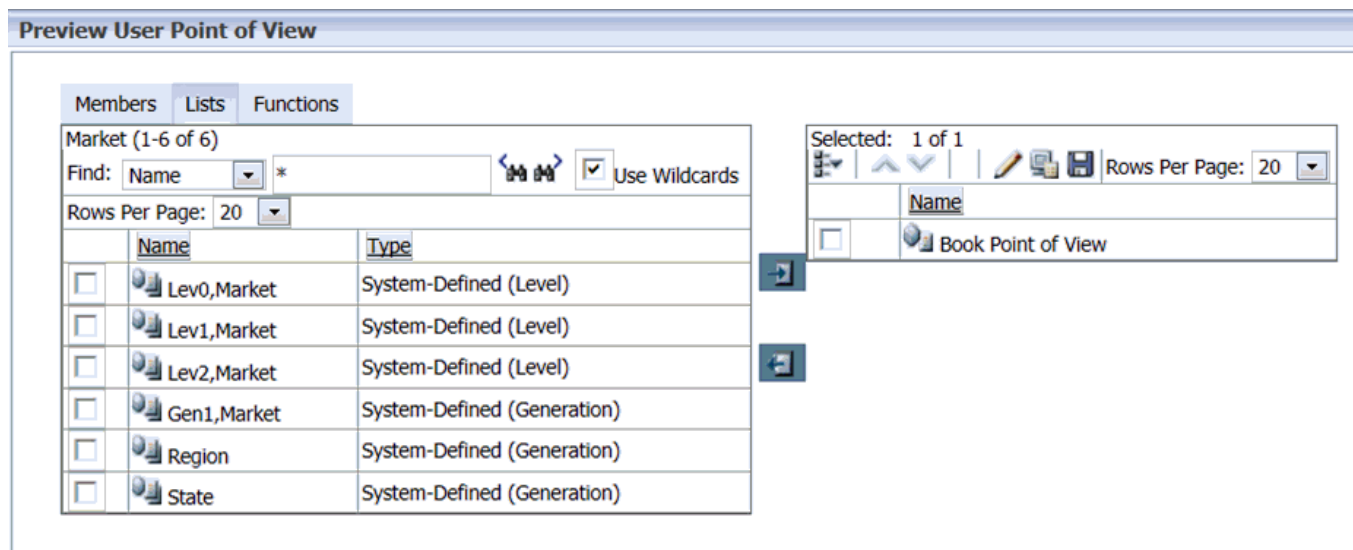
9 ファイル名と説明を指定してブックを保存するには、「ファイル」、「保存」の順に選択します。

メンバーの選択


ブック・エディタでブックを操作する場合は、ブック POV のメンバーを変更および選択できます。メンバーの選択、メンバー・リストの作成および保存、データベース接続からメンバーを動的に取得する関数の選択を実行できます。

次の図は、製品次元の「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを示しています。左パネルには、「メンバー」、「リスト」および「関数」タブが表示されます。メンバー・リストと関数の詳細は、『Oracle Hyperion Financial Reporting Studio ユーザー・ガイド』を参照してください。「メンバー」タブでは列見出しを追加できます。

図 1 「メンバー選択」ダイアログ・ボックス



注： ディレクトリには、代替変数が配置されています。

- ▶ 「メンバー」タブの左パネルに列見出しを追加するには、「プロパティの表示」
「」を選択し、列名を選択します。
- ▶ 表示されていない階層を表示するには:
 - 1 「メンバー」タブの「使用可能」ボックスで階層次元をクリックします。
 - 2 「階層」ドロップダウン・リストをクリックし、階層を選択します。
 - 3 「OK」をクリックします。

注： 「使用可能領域」の下のプロパティは、Entity 次元について Hyperion Financial Management の期間別組織のレポートを作成する場合にのみ表示されます。親および親に属しているエンティティの両方が表示されません。

レポートを実行するときは、エンティティ名が表示されます。親の名前は表示されません。

「使用可能」領域

「メンバー選択」ダイアログ・ボックスには、「メンバー」、「リスト」、「関数」という3つのナビゲーション・タブがあります。左パネルでは、個々のメンバー、メンバー・リストおよびメンバーを動的に選択する関数を表示できます。

「メンバー」タブ

「メンバー」タブは、選択した次元に関連付けられているメンバーを表示します。デフォルトでは、次元のメンバーはツリー・ビューで表示されます。これは指定した次元のメンバーの階層ビューです。フラット・リストでもメンバーを表示で

きます。デフォルトでは、ツリー・ビューはトップレベルのメンバーのみを表示します。トップレベルのメンバーを展開して、その子孫を表示できます。

「リスト」タブ

「リスト」タブは、クエリーの実行やレポートのメンバーの選択に使用されるメンバー・リストを表示します。表示されるリストのタイプは、データベース接続に基づきます。メンバー・リストは次のようにできます:

システム・リスト - ユーザー・リストの作成時にデータベースに事前に定義されます。メンバー、メンバー・リストおよび関数を含めることができます。システム・リストは、データベース接続として Essbase、Oracle Hyperion Planning または Oracle Hyperion Financial Management を使用するときに表示できます。

ユーザー・リスト - ユーザー自身で作成するリスト。印刷プレビューまたは Web プレビューを選択すると、ユーザー定義のリスト内のメンバーが、リスト作成時に指定した順序で表示されます。ユーザー・リストは、データベース接続として Oracle Essbase を使用するときに表示できます。詳細は、『Oracle Hyperion Financial Reporting Studio ユーザー・ガイド』を参照してください。

動的リスト - DynamicMemberList 関数で使われる定義済みのリスト。動的リストは、データベース接続として Oracle Hyperion Financial Management を使用する場合にのみ使用できます。詳細は、『Oracle Hyperion Financial Reporting Studio ユーザー・ガイド』を参照してください。

「関数」タブ

レポートのメンバーの選択時またはメンバー・リストへのメンバーの追加時に使用する関数を指定できます。関数を使用すると、メンバーや関連メンバーをデータベース接続から取得できます。1 つ以上の関数を指定でき、関数パラメータを編集できます。詳細は、『Oracle Hyperion Financial Reporting Studio ユーザー・ガイド』を参照してください。

特殊メンバーの割当て

「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスを使用して、特殊メンバー(プロンプト、Same As 関数、現在の POV、ユーザーの POV 用のメンバー)を選択します。

- **プロンプト** - ユーザーにメンバーの選択を求め変数のように動作します。プロンプトを使用すると、ユーザーがレポートの実行時に選択できる次元メンバーをレポート・ライターでフィルタできます。
- **Same As 関数** - 列または行のメンバーを選択するのに、他の列または行と同じ設定を使う場合に使用します。
- **現在の POV** - レポートの実行時に特定の次元のメンバーを指定する POV の変数として動作します。
- **ユーザーの POV** - ブック POV のメンバーとして選択できます。パラメータはユーザーが変更できます。

プロンプトの詳細

「プロンプトの詳細」では、ブック用に選択できるメンバーを制限できます。別のメンバー・ラベルを指定することもできます。メンバー・ラベルとして、説明 (Financial Management データベース接続の場合)、別名 (Analytic Services または Planning データベース接続の場合)、メンバー名と説明またはメンバー名と別名を使用できます。たとえば、製品ラインのみ表示する場合は、「メンバー選択」で Product のメンバーとして Product の「プロンプト」を選択し、「プロンプトの詳細」で特定の製品ラインを選択します。レポートを実行するユーザーはその製品ラインから選択します。

▶ メンバーの選択用のプロンプトを設定するには:

- 1 「メンバー選択」の「メンバー」タブで「プロンプト」を選択し、「OK」をクリックすると、「プロンプトの詳細」ダイアログが表示されます。
- 2 「オプション」: プロンプトに応答するときを選択できるものを、特定のデフォルト・メンバーかメンバー・リスト(またはその両方)に制限するには、次のいずれかのアクションを行います。
 - メンバー名がわかっている場合は、「デフォルト・メンバー」にメンバー名を入力するか、「デフォルト・メンバー」検索ボタンをクリックします。プロンプトに複数のメンバーを指定した場合、これらのメンバーをカンマで区切る必要があります。

注: 「デフォルト・メンバー」を空白のままにすると、レポートの実行時に「プロンプトに応答」ダイアログ・ボックスにデフォルト・メンバーが表示されません。その場合、ユーザーは、デフォルトを受け入れるのではなくメンバーを指定する必要があります。

 - メンバー・リストがわかっている場合は、「選択リスト」ボタンをクリックして、メンバーのリストを選択します。プロンプト用に複数のメンバー・リストを指定する場合は、メンバー・リストをカンマで区切る必要があります。
- 3 「プロンプト用のメンバーを選択するダイアログ・ボックスに表示されるラベル」ドロップダウン・リストで、レポートの実行時に「プロンプトに応答」ダイアログ・ボックスに表示されるラベルの種類を選択します。
 - データベース接続が Analytic Services または Planning の場合は、「メンバー」、「別名」の順に選択するか、または「メンバー - 別名」を選択します。
- 4 「OK」をクリックします。

ユーザーの POV をブックの POV のメンバーにする

レポートをブックに追加すると、レポート定義内のユーザーの POV にある次元がブックの POV に適用されます。ブック・エディタでは、ブックの POV のメンバーはデフォルトでユーザーの POV になります。

ヒント： リポジトリをブックでフィルタするには、「表示」を選択し、「表示するアイテムのタイプ」を選択します。次に、「Hyperion」を選択し、「ブック」を選択します。

▶ ユーザーの POV をブックの POV のメンバーにするには:

- 1 EPM Workspace の「リポジトリ」で、ブックを右クリックして、「ファイル形式を指定して開く」を選択し、「エディタ」を選択します。ブック・エディタが表示されます。
- 2 ブックの POV のビュー・ペインで、ユーザーの POV を設定する次元をクリックします。
- 3 「メンバー選択」で、「ユーザーの POV」を選択します。「」
- 4 「OK」をクリックします。

関数を使用したメンバーの割当て


関数を使用し、そのパラメータを編集して動的にメンバーを選択できます。関数パラメータの使用法および編集の詳細は、『Oracle Hyperion Financial Reporting Studio ユーザー・ガイド』を参照してください。

条件に基づいた複数のメンバーの選択

条件に基づいてメンバーを選択できます。条件は、メンバー、ブール演算およびコマンドの式を作成して定義します。

ブール演算子を使用すると、レポートのメンバーの組合せを正確に指定できます。これはデータが大量の場合に役立ちます。AND、OR、UNION および NOT ブール演算子を式のコマンドと組み合わせて使用して、メンバー選択を絞り込みます。

▶ 条件を指定して複数のメンバーを選択するには:

- 1 「メンバー選択」で、「選択済」領域にある「詳細設定オプションの表示」 をクリックします。

注： 条件を定義するには、「選択済」ボックスに、少なくとも 2 つのメンバーが表示されている必要があります。

- 2 次の演算子や記号を 1 つ以上使用して、式を作成します:

- NOT ブール演算子を選択して式を作成します。NOT は選択した条件の逆を意味します。
- 式に開始文字を追加するには、左カッコ "(" を入力します。
- 式に終了文字を追加するには、右カッコ ")" を入力します。
- 「演算子」列をクリックし、次の中から演算子を選択します。
 - AND – すべての条件が満たされる必要がある場合
 - OR – 複数の条件のうち 1 つが満たされる必要がある場合

- UNION-データを組み合わせる場合

注： 3つのメンバーを使用する場合は、二重カッコを使用する必要があります。たとえば、Marketの子孫を選択し、East、WestおよびSouthを除外する場合は、メンバー選択の詳細設定のクエリーを"Descendants of Market AND NOT (East AND NOT (West AND NOT SOUTH))"とする必要があります。

3 「OK」をクリックします。

メンバーの検索




編集するメンバーを検索できます。検索にはテキスト文字列またはプロパティ(名前と説明)を使用します。同時検索を実行する場合、区切り記号として空白スペースを使用できます。空白スペースを含む完全一致を検索するには、文字列を二重引用符で囲みます。

リストまたは関数を検索するには、「次を検索」ボタンまたは、「前を検索」ボタンを使用してこの機能をアクティブにする必要があります。

注： Financial Management では、エンティティを検索する場合、親とエンティティを検索する必要があります(たとえば D62VIELO.D62475LO)。エンティティのみを検索する場合は、エンティティの前にワイルドカードを付ける必要があります(たとえば、*D62475LO)。

メンバーを検索するためのオプションは次のとおりです:

表 4




オプション	説明
検索	検索する文字を入力するか、リストから保存済の検索条件文字列を選択します。検索文字列の一部、1つの単語または複数の単語を検索文字列として入力できます。
	クリックすると、検索条件に一致するメンバーが表示されます。
ワイルドカードを使用	<p>「検索」ボックスにテキストとワイルドカード記号(*と?)を入力してメンバーを検索できます。「ワイルドカードを使用」はデフォルトで表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 疑問符(?)は、任意の1文字を表します。 ● アスタリスク(*)は、任意の複数の文字を表します。 <p>注： 検索条件にスペースを含める場合は、検索語句を二重引用符で囲みます。たとえば、*IC Offset*は"*IC Offset*"と指定します。*"ワイルドカードを末尾にのみ指定する場合は、語句を二重引用符で囲む必要はありません。</p>
	「リスト」タブまたは「関数」タブで、検索条件に一致する前のアイテムを強調表示します。
	「リスト」タブまたは「関数」タブで、検索条件に一致する次のアイテムを強調表示します。

▶ メンバーを検索するには:

- 1 「メンバー選択」ダイアログのタブで、「検索」テキスト・ボックスにテキストを入力します。

注: ワイルドカード・オプションが使用可能になります。

- 2 次のいずれかのアクションを行います:


- 「メンバー」タブで検索を実行する場合は、「検索」ボタン  をクリックします。
- 「リスト」タブまたは「関数」タブで検索を実行する場合は、「次を検索」 または「前を検索」 をクリックします。

- 3 「OK」をクリックします。

- 4 一致するアイテムが見つかった場合、「検索結果」ダイアログにリストが表示されます。メンバー選択に追加するアイテムを選択し、「OK」をクリックします。

選択したメンバーのプレビュー

選択したメンバーをプレビューできます。メンバーには、評価済メンバー・リストまたは関数からリストまたは関数の結果を含めることができます(該当する場合)。

▶ メンバーをプレビューするには、「メンバー選択」で、右パネルにある「選択項目のプレビュー」 をクリックします。

FRExecute の構文

FRExecute 関数を使用すると、Financial Reporting レポートまたはレポート・セクションを Microsoft Word または HTML ドキュメントに埋め込むことができます。レポート、レポート・タイプ(動的またはスナップショット)を含めるか、グリッド、チャート、ページ、テキスト・ボックス、テキスト領域またはセルなどのレポート内の選択領域を指定できます。FRExecute 関数の構文は次のとおりです:

```
FRExecute (ReportName [Type={1,2}; ComponentType={1,2}; ComponentName={Grid1,Grid2,Chart1,Chart2,Chart3}; Page={1,2,...;.} Cell=FRFormula)
```

この場合:

ReportName は、レポートの名前です。

Type1 は動的レポートで、Type2 はスナップショット・レポートです。

ComponentType1 (オプション)はグリッドで、ComponentType2 (オプション)はチャートです。

ComponentName (オプション)は、グリッドまたはチャートの名前です。

Page (オプション)はページ番号です。

Cell (オプション)は、日付セルの式です。セルの構文は、`cell=cell[row,col]`または`cell=[row,col]`です

- row は、Financial Reporting Studio レポート・デザイナーの行を参照する 1 以上の数値です。
- col は、Financial Reporting Studio レポート・デザイナーの列を参照する A 以降の文字です。レポートの列数が 26 を超える場合、それらの列には 2 文字使用されます(例: AA、AB、AZ、AAA、AAB など)。

注： 設計時の行が 2 タプル以上と評価された場合、サブタプルを指定できません。たとえば、4 つの子(東部、西部、南部、中部)がある、マーケットの子のメンバー選択を持つ行 2 を参照する場合、4 つのすべてのタプルの合計が戻されます。また、各タプルは次のように参照できます: 東部/列 A を参照する場合 `Cell[2(1),A]`、南部/列 A を参照する場合 `Cell[2(3),A]`。

注： レポートのサイズを制限するには、FRExecute 関数を Microsoft Word のテキスト・ボックス内に配置します。

次の例では、動的な値を持つレポート全体が戻されます:

```
FRExecute (ReportName; Type=1)
```

次の例では、動的レポートのページ 2 が戻されます。

```
FRExecute (ReportName; Type=1; ComponentType=1; ComponentName=Grid2; Page=2)
```

次の例では、動的レポートのすべてのページが戻されます:

```
FRExecute (ReportName; Type=1; ComponentName=Grid2)
```

次の例では、ページ 2 のデータ・セルが戻されます。ページが選択されていない場合は、最初のページのデータ・セルが戻されます。

```
FRExecute (reportFullName; Type=1;  
ComponentType=1; ComponentName=Grid2; Page=2; Cell=Cell[2,B])
```

または

```
FRExecute (reportFullName; Type=1;  
ComponentType=1; ComponentName=Grid2; Page=2; Cell=[2,B])
```

次の例では、ページ 2 のチャートが戻されます。ページが選択されていない場合は、すべてのページの chart1 が戻されます。

```
FRExecute (reportFullName; Type=1;  
ComponentType=2; ComponentName=Chart1; Page=2)
```

注： HTML ドキュメントまたは Word ドキュメントで、"FRExecute" (小文字、大文字または両方が混在したものを含む)は FRExecute コマンドのキーワードです。FRExecute"は、ファイル・コンテンツまたはファイル名の一部として使用することはできません。そうしないと、予期しない結果が生じる可能性があります。

注： FRExecute を含む Microsoft Word テキスト・ボックスにレイアウトを適用する際に、折返しスタイルの場合は「四角形」を選択でき、水平方向の配置の場合は「左」または「右」のみを選択する必要があります。

注： FRExecute および出力を適用した図は、[リンクおよび FRExecute を含むページの図](#)および[リンクおよび FRExecute を含む出力の図](#)を参照してください。

FRExecute の使用に関する考慮事項および推奨事項

FRExecute に関する考慮事項は次のとおりです:

- HTML ドキュメントでは、Web ページを作成するために FRExecute 関数がサポートされています。PDF 印刷では、FRExecute がある Microsoft Word のみがサポートされています。
- 次の 8 文字は FRExecute コマンドでは使用できません: ; () & < > " '。
- FRExecute がテキスト・ボックス内にある場合、結果は、指定されたテキスト・ボックスのサイズに制限されます。コンテンツがテキスト・ボックスより大きい場合、スクロール・バーが表示されます。FRExecute を、テキスト・ボックスではなく Microsoft Word のページに追加した場合、サイズにかかわらず、結果全体が出力されます。
- FRExecute 内で[Enter]キーを使用すると、その位置からテキストが折り返されます。
- FRExecute は、同じフォント、サイズおよび色にします。
- FRExecute は、任意のテキスト行の位置に挿入できます。
- FRExecute 関数をテキスト・ボックス内で使用する場合、他のテキストまたは FRExecute 関数と組み合わせないでください。
- Microsoft Word を使用してテキスト・ボックスの書式を設定する場合、HTML 出力では左揃えまたは右揃えのみがサポートされます。
- FRExecute を Word 以外のコンポーネント(表、イメージなど)に挿入する場合、「水平方向の配置」オプションは左または右に設定する必要があります。
- ドキュメントは、*.doc、*.htm または*.html で保存できます。Microsoft Word ドキュメントにテキストと FRExecute のみが含まれる場合、パフォーマンス向上のために*html で保存できます。
 - FRExecute は、任意の汎用.html ファイル(任意のファイル・タイプで使用可能なファイル)に追加できます。

Microsoft Word 内のハイパーリンクの作成

次からドキュメントの URL のコピーおよび貼付けを行って、ハイパーリンクを Microsoft Word ドキュメント内に挿入できます:

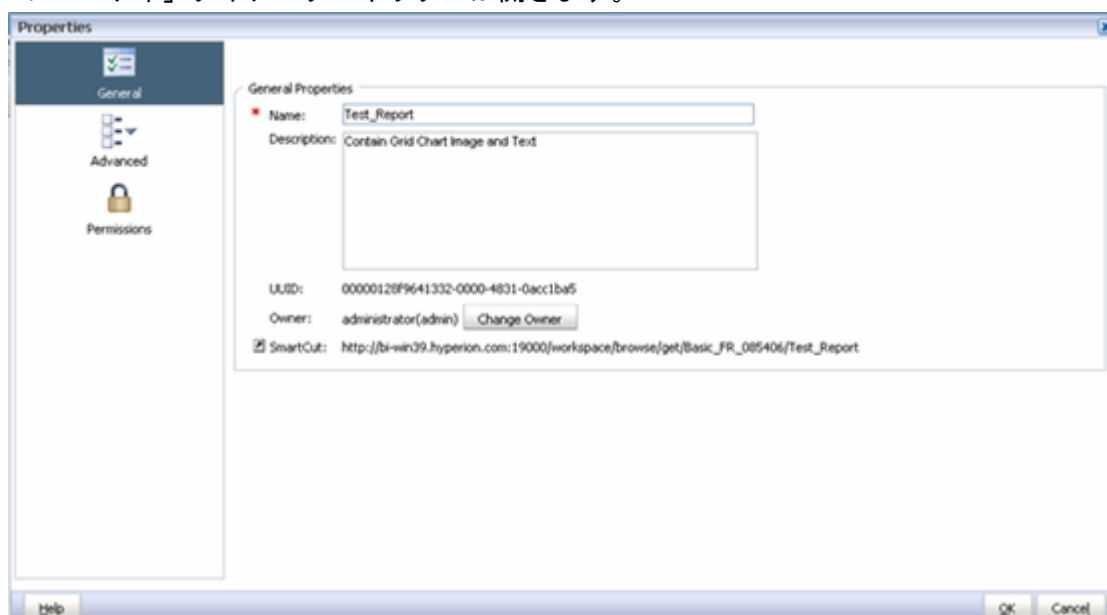
- Workspace リポジトリにある Financial Reporting レポートまたは任意のファイル
- Oracle Universal Content Management の任意のファイル

ブックを作成すると、すべてのレポート(FRExecute およびハイパーリンクに指定されたレポート)のすべての POV が、適切な章に含まれます。

注: ブックの HTML プレビューまたは PDF プレビューでハイパーリンクを含む.doc または.html ドキュメントを選択すると、「HTML の目次に関連コンテンツを含める」が設定されている場合でも、ハイパーリンクのコンテンツは表示されません。

▶ Microsoft Word ドキュメントにハイパーリンクを作成するには:

- 1 EPM Workspace で、ハイパーリンクとして適用する Financial Reporting レポートまたはファイルを右クリックし、「プロパティ」を選択します。
- 2 「プロパティ」ダイアログ・ボックスが開きます。



- 3 「SmartCut」ラベルの右にドキュメントの URL をコピーして、EPM Workspace を終了します。
- 4 Microsoft Word ドキュメントを開きます。URL を貼り付けるには、リンクを表示する Microsoft Word ドキュメント内で右クリックし、「ハイパーリンク」を選択します。
- 5 「表示するテキスト」・フィールドに、リンクに関連付ける説明を入力します。
- 6 「アドレス」フィールドに、先ほど EPM Workspace でコピーした URL を貼り付けます。
- 7 「OK」をクリックします。

- 8 Microsoft Word ドキュメントを .doc または .html ファイルで保存します。 .html ファイルでドキュメントを保存すると、パフォーマンスが向上します。リンクおよび出力を適用した図は、[リンクおよび FRExecute を含むページの図](#)および[リンクおよび FRExecute を含む出力の図](#)を参照してください。


注： リンクを使用した動作の処理については、73 ページの「[ハイパーリンクおよび FRExecute の動作の処理](#)」を参照してください。

リンクおよび FRExecute を含むページの図

Contents

- Chapter1.....1
- Chapter2.....1

Chapter1



```

FRExecute(/hong/report1;-
componentType=1;componentName=Grid1
;Page=2)

```

This-is-a-test-Microsoft-Word-document.

This-is-a-test-Microsoft-Word-document.

This-is-a-test-Microsoft-Word-document.

This-is-a-test-Microsoft-Word-document.

This-is-a-test-Microsoft-Word-document.

This-is-a-test-Microsoft-Word-document.

This-is-a-test-Microsoft-Word-document.

[Repository-File-Link](#)

Chapter2

This-is-a-test-Microsoft-Word-document.

[FR-Report-Link](#)

```

FRExecute(/hong/report1;-
componentType=1;componentName=Grid1)

```

This-is-a-test-word-document;this-is-a-test-Microsoft-Word-document;this-is-a-test-document.

[Stellent-IDC-Link](#)

This-is-a-test-Microsoft-Word-document;this-is-a-test-document;this-is-a-test-document.

リンクおよび FReXecute を含む出力の図

Department of Finance Welcomes You to the

CALIFORNIA BUDGET 2009-10

Entire Site

FRLinksample.doc Scenario, Product

- FRLinksample.doc Scenario, Product
 - Chapter1
 - Chapter2
 - Repository File Link
 - FR Report Link(Scenario, Product)
 - Stellent IDC Link

Contents

Chapter1

	Sales	COGS	Margin
East	6,720	3,026	3,694
West	10,564	4,943	5,621
South	4,082	1,757	2,325
Central	9,838	4,304	5,534
Market	31,204	14,030	17,174

Page: Feb

This is a test Microsoft Word document.

This is a test Microsoft Word document.

This is a test Microsoft Word document.

This is a test Microsoft Word document.

This is a test Microsoft Word document.

This is a test Microsoft Word document.

This is a test Microsoft Word document.

[Repository File Link](#)

Chapter2

This is a test Microsoft Word document.

[FR Report Link](#)

This is a test word document; this is a test Microsoft Word document; this is a test document.

[Stellent IDC Link](#)

This is a test Microsoft Word document; this is a test document; this is a test document.

	Sales	COGS	Margin
East	6,570	3,007	3,563
West	10,436	4,899	5,537
South	3,976	1,718	2,258
Central	9,703	4,269	5,434
Market	30,685	13,893	16,792

Page: Jan

ブックの保存

ブックは、レポート、Microsoft Word ドキュメント、スナップショット・レポートまたはレポートとスナップショット・レポートの集まりとしてリポジトリに保存できます。既存のブックは、「名前を付けて保存」コマンドを使用して保存することで複製できます。

▶ ブックを保存するには:

- 1 EPM Workspace リポジトリで、ブックを右クリックして「ファイル形式を指定して開く」を選択します。次に、「エディタ」を選択してそのブックを「ブック・エディタ」で開きます。

- 2 「ファイル」を選択し、「保存」または「名前を付けて保存」を選択します。
- 3 名前と説明を入力し、フォルダを選択して「保存」をクリックします。ブックを実行すると、レポートのデータは動的になります。

注： ブック・エディタ内からブックをスナップショット・ブックとして保存できません。かわりに、スナップショット・ブックを保存するには、ブックを実行し、「ブックの目次」ページで「ファイル」、「名前を付けて保存」の順に選択します。

- 4 リポジトリに移動して、ブックまたはスナップショットのファイル権限を設定します。

ブックおよびスナップショット・ブックを開く

ブックを保存したら、ブックを開いて HTML フォーマットまたは PDF フォーマットで管理、印刷またはプレビューできます。ブックをプレビューすると、ブック内のレポートのリストとともに目次が表示されます。スナップショット・ブックをプレビューすると、目次はプリファレンス設定に従って PDF または HTML ファイルとして表示されます。スナップショット・ブックは変更できませんが、プレビュー、印刷および表示できます。

▶ ブックまたはスナップショット・ブックを開くには:

- 1 EPM Workspace リポジトリで、ブックまたはスナップショット・ブックに移動し、「ファイル」の「ファイル形式を指定して開く」「」を選択します。
- 2 次のいずれかのアクションを行います:
 - ブックを PDF で表示するには、「PDF プレビュー」を選択します。
 - ブックを HTML で表示するには、「HTML プレビュー」を選択します。
 - ブックの印刷バージョンを表示するには、「PDF のブック全体」を選択します。
- 3 コンテンツ領域に「ブックの目次」が表示され、ブラウザの下部のタブにはブック名と「表示」が表示されます(たとえば、「TestBook - 表示」)。レポート、スナップショットまたはメンバーの名前は、「ブックの目次」の適用されるすべての行に表示されます。
- 4 「ブックの目次」でレポートまたはスナップショットを選択し、「レポートの表示」をクリックします。レポートまたはスナップショットが HTML フォーマットまたは PDF フォーマットでコンテンツ領域に表示され、タブの説明にレポート名と POV が表示されます。
- 5 ブックまたはスナップショット・ブックを閉じるには、「ファイル」>「閉じる」>「現在」を選択します。

ブックとスナップショット・ブックの名前変更

ブックまたはスナップショット・ブックを保存するか複製を作成したら、ファイル名を変更できます。

▶ ブックまたはスナップショット・ブックの名前を変更するには:

- 1 エクスプローラで、ブックを右クリックし、「名前変更」を選択します。
- 2 名前を入力します。
- 3 「保存」をクリックします。

ブックとスナップショット・ブックのプレビューおよび印刷

ブックとスナップショット・ブックを印刷前に PDF フォーマットまたは HTML フォーマットでプレビューできます。ブックの目次で、ブック内の個々のレポートを選択して PDF または HTML でプレビューするか、すべてのレポートを含むブック全体を PDF で表示できます。

ブック全体またはスナップショット・ブック全体を印刷したり、ブックまたはスナップショット・ブック内の個々のレポートを印刷することもできます。ブックを印刷する場合は、ブック内のレポートのデータが取得されてブックが印刷されます。スナップショット・ブックを印刷する場合は、ブックをスナップショット・ブックとして保存したときにデータがすでにレポートに保存されています。

ブックを実行する前に、ユーザー POV をプレビューして変更することができます。これにより、ユーザー POV のメンバーが適切かどうかを、出力の表示後ではなくレポートまたはブックの実行前に確認できます。

ブックから生成された PDF ファイルの機能

ブックから生成された PDF ファイルでは、次の機能が使用可能です。

- PDF とプレーン・テキスト・ファイルのサポート。ブック内の"外部コンテンツ"として、Excel、Word、PowerPoint、PDF およびプレーン・テキスト・ファイルを含めることができるようになりました。
- Financial Reporting レポートから抽出された(セル・テキストなどの)セル・ドキュメントの添付ファイル(Microsoft Office、PDF およびテキスト・ファイル)は、PDF 出力に含まれます。
- Financial Reporting レポートに関連付けられたすべてのセル・ドキュメントは、ブックの目次にサブアイテムとして表示されます。
- PDF ブックマークは、Adobe Reader の左側に表示されます。ブックマークを使用すると、ブックの任意の章にジャンプできます。
- リンク・アイテムを含む目次。目次のアイテムをクリックすると、そのアイテムの最初のページが表示されます。

- 連続したページ番号。Financial Reporting レポート、スナップショット、Excel、Word、PowerPoint およびプレーン・テキスト・ファイルに、連続したページ番号が表示されます。

注： 連続したページ番号設定を有効にするには、ブックのプロパティで「連続したページ番号」を選択する必要があります。埋込み PDF ファイルには、連続したページ番号を実装できません。

- ページの合計数。連続したページ番号と同様に、Financial Reporting レポート、スナップショット、Excel、Word、PowerPoint およびプレーン・テキスト・ファイルに、ページの合計数が表示されます。たとえば、レポートが 3 ページでブックのコンテンツが 10 ページとします。レポートで<<PageCount ()>>テキスト関数が使用されると、3 ではなく 10 が表示されます。
- プレーン・テキスト・ファイルの印刷方法は、FR_TextTemplate.doc を変更することでカスタマイズできます。

注： ブックを印刷する前に、次の項で説明するようにブック・プロパティのオプションを設定する必要があります。

ブック・プロパティの設定

ブック・エディタの右側のパネルにある「ブックの設定」を使用して、「全般」および「目次」の 2 つのカテゴリのプロパティを設定できます。

- 「全般」カテゴリ: ブックのグローバル設定を指定します。用紙サイズの設定、連続したページ番号の設定、ページ番号に目次を含める設定、レポートに基づく目次の丁合いまたはメンバー選択に基づく目次の丁合いの設定、バッチ出力に関連コンテンツを含める設定、開始ページ番号の指定、および組み込みコンテンツ処理(FRExecute およびハイパーリンク)を可能にする設定を行うことができます。
- 「目次」カテゴリ: 印刷出力に目次を含め、ページの向きの設定を行うことができます。

▶ ブックの「全般」プロパティを変更するには:

- 1 「エクスプローラ」のリポジトリで、ブックを右クリックして、「ファイル形式を指定して開く」を選択し、「エディタ」を選択します。
- 2 右側のペインのリストから、「ブックの設定」を選択します。「全般」で、これらのプロパティを編集できます。
 - 「用紙サイズ:」 印刷出力の用紙サイズを選択します。
 - 「連続したページ番号:」 ページ番号を連続して設定する場合は「はい」を、ドキュメントごとに番号を開始する場合は「いいえ」を選択します。

注： ページ番号を印刷する前に、ブック内の各レポートのヘッダーまたはフッターでページの番号設定を指定する必要があります。

- 「ページ番号に目次を含める:」 連続した番号に目次を含める場合は「はい」を、除外する場合は「いいえ」を選択します。
- 「丁合基準:」 レポートに基づいて丁合いするには「レポート」を選択します。メンバー選択に基づいて丁合いするには「メンバー選択」を選択します。
- 「バッチ出力に関連コンテンツを含める:」 バッチ出力に関連コンテンツを含める場合は「はい」を、除外する場合は「いいえ」を選択します。

注: ブックの「ブックの設定」プロパティが「バッチ出力に関連コンテンツを含める」に設定されており、ブック全体を1つのPDFで生成する場合、生成されるPDFに関連コンテンツのリンクがすべて含まれます。関連コンテンツ・リンクのオブジェクトはリンク元のレポートに続いて表示されます。関連コンテンツ・リンクのオブジェクトは、常にブックの目次に含まれます。リンク元のレポートの子として表示されます。同じオブジェクトが複数回リンクされているか、異なるレポートからリンクされている場合、そのオブジェクトは一度のみ含まれ、目次に1回のみ表示されます。

- 「開始ページ番号」: ブックの開始ページ番号を入力するか、既定値を使用します(ページ 1)。
- 「組み込みコンテンツ処理の有効化:」 FRExecute 関数およびハイパーリンクの Word、HTML および URL オブジェクトの処理をオンにする場合は「はい」を選択します。FRExecute 関数およびハイパーリンクの Word、HTML および URL オブジェクトの処理をオフにする場合は「いいえ」を選択します。FRExecute 関数またはハイパーリンクがない Microsoft Word オブジェクトを含むブックには「いいえ」を選択します。組み込みコンテンツ処理の動作については、[73 ページの「ハイパーリンクおよび FRExecute の動作の処理」](#)を参照してください。

▶ ブックの「目次」プロパティを変更するには:

- 1 「エクスプローラ」・リポジトリで、ブックを右クリックして「ファイル形式を指定して開く」を選択します。次に、「エディタ」を選択してブック・エディタを開きます。
- 2 右側のペインのドロップダウン・リストから、「ブックの設定」を選択します。次の「目次」トピックを編集できます。
 - 「印刷出力に含める:」 印刷出力時に目次を含める場合は「はい」を、除外する場合は「いいえ」を選択します。

注: HTML プレビューまたは PDF プレビューの場合、このオプションは適用されません。ブックのプレビューには常にブックの目次が含まれます。

- 「向き:」 目次の向きとして「縦長」または「横長」を選択します。

ブックでの関連コンテンツの動作

ブック・エディタで「静的ブック HTML および PDF に関連コンテンツを含める」を選択した場合の関連コンテンツに関する追加情報を、次に記載します。

- このプロパティを true に設定した場合に、静的ブック HTML 出力が生成されると、ブック内で見つかった関連コンテンツのリンクが追跡されます:
 - 関連コンテンツのリンクが追跡されると、リンク内の URL が調べられます。
 - URL が現在のリポジトリにあるレポートまたはスナップショット・レポートを参照している場合、そのレポートが実行され、結果が静的ブック HTML 出力に含まれます。レポートがスナップショット・レポートの場合は、リポジトリからロードされて含まれます。レポートの実行時に、ユーザーが手動でリンクをクリックしたように、関連コンテンツ・リンクが含まれていたセルの POV が使用されます。
 - URL がリポジトリ内のレポートまたはスナップショット・レポートに対するリポジトリ・スマート・カットを参照している場合、URL が「関連コンテンツ」ダイアログで選択されたリポジトリ・オブジェクトへのリンクである場合と同じように処理されます。
 - URL がレポートまたはスナップショット・レポートではないリポジトリ・オブジェクト(Word ドキュメント、HTML ファイル、PDF ファイルなど)に対するリポジトリ・スマート・カットを参照している場合、そのオブジェクトがリポジトリから取得され、静的ブック HTML 出力に含まれます。
 - URL が Oracle Universal Content Management ドキュメントを参照している場合、そのドキュメントが取得され、静的ブック HTML 出力に含まれます。
 - URL が Oracle BIEE のドキュメントを参照している場合、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition のドキュメントが取得され、静的ブック HTML 出力に含まれます。
 - URL が、追跡される URL のリストにある URL を参照している場合、URL の実行によって返された HTML が取得され、静的ブック HTML 出力に含まれます。
 - セル・ドキュメントを持つセルが処理されます。
 - セル・ドキュメントが物理ファイルの場合、そのファイルが静的ブック HTML 出力に含まれます。
 - セル・ドキュメントが URL の場合、その URL は、関連コンテンツのリンクとして指定されたときと同じように処理されます。

注： セルに関連コンテンツのリンクが複数ある場合、それらの関連コンテンツのリンクはすべて、同じように処理されます。セルにリンクが複数ある場合、HTML ドキュメント内の標準のハイパーリンクが表示されます。しかし、ユーザーがそのハイパーリンクをクリックすると、使用可能なリンクのリストが表示されます。

ハイパーリンクおよび FReXecute の動作の処理

Microsoft Word のリンクの動作は、関連コンテンツの動作に非常に似ています。ブック・エディタでは、章レベルで「HTML の目次に関連コンテンツを含める」オプションを使用して、.doc または.html タイプの章でのハイパーリンクの処理方法を制御できます。

FReXecute レポートに関連コンテンツが含まれる場合、「FReXecute 処理の有効化」を使用すると「HTML の目次に関連コンテンツを含める」との依存関係が存在します。次の表に、ハイパーリンクおよび関連コンテンツを含む FReXecute の予期される動作を示します：

注： .doc または.html ドキュメントに FReXecute およびハイパーリンクが含まれない場合、「FReXecute 処理の有効化」および「HTML の目次に関連コンテンツを含める」の設定は不要です。

ケース 1: .doc または.html ドキュメントに、関連コンテンツがある FReXecute およびハイパーリンクが含まれる

表 5 .doc および.html ドキュメントに、関連コンテンツがある FReXecute およびハイパーリンクが含まれる

If:	「組み込みコンテンツ処理の有効化」 = 「はい」	「組み込みコンテンツ処理の有効化」 = 「いいえ」	「HTML の目次に関連コンテンツを含める」 - 「はい」	「HTML の目次に関連コンテンツを含める」 - 「いいえ」	次が処理されます:
	X		X		<ul style="list-style-type: none"> ● FReXecute およびその関連コンテンツ ● ハイパーリンク
	X			X	<ul style="list-style-type: none"> ● FReXecute ● ハイパーリンク
		X	X		ハイパーリンク
		X		X	(処理は行われません)

表 6 .doc および.html ドキュメントに、関連コンテンツがある FReXecute が含まれ、ハイパーリンクは含まれない

If:	「組み込みコンテンツ処理の有効化」 = 「はい」	「組み込みコンテンツ処理の有効化」 = 「いいえ」	「HTML の目次に関連コンテンツを含める」 - 「はい」	「HTML の目次に関連コンテンツを含める」 - 「いいえ」	次が処理されます:
	X		X		FReXecute およびその関連コンテンツ
	X			X	FReXecute(関連コンテンツなし)
		X	X		(処理は行われません)
		X		X	(処理は行われません)

表7 .doc および.html ドキュメントに、ハイパーリンクのみが含まれる

if:	「組み込みコンテンツ処理の有効化」 = 「はい」	「組み込みコンテンツ処理の有効化」 = 「いいえ」	「HTML の目次に関連コンテンツを含める」 - 「はい」	「HTML の目次に関連コンテンツを含める」 - 「いいえ」	次が処理されます:
	X		X		ハイパーリンク
	X			X	(処理は行われません)
		X	X		ハイパーリンク
		X		X	(処理は行われません)

And if:

- FROExecute 処理の有効化 = 「はい」
- HTML の目次に関連コンテンツを含める = 「はい」

Then:

- FROExecute の関連コンテンツおよびハイパーリンクが処理されます。

And if:

- FROExecute 処理の有効化 = 「はい」
- HTML の目次に関連コンテンツを含める = 「はい」

Then:

- FROExecute の関連コンテンツおよびハイパーリンクが処理されます。

And if:

- FROExecute 処理の有効化 = 「はい」
- HTML の目次に関連コンテンツを含める = 「はい」

Then:

- FROExecute の関連コンテンツおよびハイパーリンクが処理されます。

And if:

- FROExecute 処理の有効化 = 「はい」
- HTML の目次に関連コンテンツを含める = 「はい」

Then:

- FROExecute の関連コンテンツおよびハイパーリンクが処理されます。

ブックのコンテンツとデザインの編集

ブック・エディタは、ブックのコンテンツと出力の表示を変更するためのオプションを備えています。ショートカット・メニューには、次のオプションが含まれません。

- 編集 - URL または見出しテキストを編集します。URL または見出しテキストが選択されている場合、有効化されます。
- 削除 - 選択したオブジェクトをブックから削除します。メンバーが選択されている場合、無効化されます。
- 上へ移動 - 選択したオブジェクトを上へ移動します。
- 下へ移動 - 選択したオブジェクトを下へ移動します。
- インデントを増やす - 選択したオブジェクトのレベルを増やします。次元が選択されている場合、またはオブジェクトが最後のレベルである場合、このオプションは無効化されます。
- インデントを減らす - 選択したオブジェクトのレベルを減らします。次元が選択されている場合、またはオブジェクトがレベル 1 である場合、このオプションは無効化されます。
- メンバー選択 - 「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを表示します。次元が選択されている場合、このオプションは有効化されます。56 ページの「メンバーの選択」を参照してください。
- メンバー選択のコピー - レポート間でメンバーをコピーします。メンバー選択は、ユーザー POV の次元が同じレポート間でのみコピーされます。
- 切り取り - 選択したオブジェクトを移動用にマークします。メンバーが選択されている場合、このオプションは無効化されます。
- 貼付け - マークされたオブジェクトを貼り付けます。メンバーが選択されている場合、無効化されます。

ブックへのドキュメントの追加

ブック・エディタで、アーティファクトをリポジトリからブックに追加できます。

注： メンバーが選択されている場合、このオプションは無効化されます。

▶ ブックにアーティファクトを追加するには:

- 1 ブック・エディタで、ブックのアーティファクトをハイライトします。
- 2 右側のパネルにある「ドキュメントを追加」トピックで、ブックに追加するドキュメントに移動して、「追加」をクリックします。

ハイライトしたアーティファクトの下にドキュメントが表示されますが、別の場所に移動できます。

▶ ドキュメントを別の場所に移動するには:

- 1 ドキュメントを右クリックします。

- 2 メニューから「上へ移動」または「下へ移動」を選択して、ドキュメントを配置します。

注： また、現在の場所から新しい場所にドキュメントをドラッグするか、「切り取り」および「貼付け」を使用して移動します。

ブックの目次への見出しテキストの追加

ブック・エディタで、ブックの目次に見出しを追加できます。

注： メンバーが選択されている場合、このオプションは無効化されます。

▶ ブックの目次に見出しを追加するには:

- 1 ブック・エディタで、ブックのアーティファクトをハイライトします。
- 2 右側のパネルにある「見出しテキスト」に見出しテキストを入力して、「追加」をクリックします。

ハイライトしたアーティファクトの下に見出しテキストが表示されますが、別の場所に移動できます。

▶ 見出しテキストを別の場所に移動するには:

- 1 見出しテキストを右クリックします。
- 2 メニューから「上へ移動」または「下へ移動」を選択して、見出しテキストを配置します。

注： また、現在の場所から新しい場所に見出しテキストをドラッグするか、「切り取り」および「貼付け」を使用して移動します。

目次テキストの設定

ブック・エディタでは、「テキストの表示」列に目次の各アーティファクト・エントリに対してテキストが反映されます。目次のデフォルト・テキストはアーティファクト名、またはメンバーの場合はメンバー名です。たとえば、ブックのアーティファクトがレポートの場合、レポート名が表示されます。ブックのアーティファクトが外部ファイル(Microsoft Word ドキュメントなど)の場合、リポジトリのファイル名が表示されます。

ブック・エディタの下部にあるパネルに、ブックのデフォルトのプロパティが表示され、アーティファクトのテキスト設定および目次の処理設定を変更できます。たとえば、選択したアーティファクト名をアーティファクトの説明またはカスタマイズされたテキストに変更するか、または選択したアーティファクトにテキストを何も表示しないようにすることができます。その他のプロパティは読取り専用です。

▶ アーティファクトの目次テキストを設定するには:

- 1 「エクスプローラ」・リポジトリで、ブックを右クリックして「**ファイル形式を指定して開く**」を選択します。次に、「**エディタ**」を選択してブック・エディタを開きます。
- 2 ブック・エディタで、アーティファクトをハイライトして下部のパネルにスクロールします。次のように編集します。
 - 「表示:」目次にアーティファクトを表示する場合、ドロップダウンから、「名前」(アーティファクト名)、「説明」(リポジトリに存在する場合)または「カスタム・テキスト」で選択します。テキストを非表示にするには、「表示しない」を選択します。

注: 「カスタム・テキスト」を選択すると、「テキストの表示」フィールドが有効になり、テキストを入力できます。

注: Value 関数をカスタム・テキストに含めて、次元のメンバー・ラベルをカスタム・テキストに挿入できます。

構文: <<value (dimension-name)>>

例: <<Value (Product)>>または<<Value (Year)>>

Value 関数を使用すると、ブック・デザイナーで作成される目次がよりすっきりと整理されます。たとえば、第1四半期(Qtr1)の子について実行された2つのレポートをブックに含めることができます。カスタム・テキストに<<Value (Year)>>関数を含め、メンバー選択を非表示にします。次の例では、損益計算書と貸借対照表に期(Period)と年(Year)が追加されます。

Profit and Loss for <<Value (Period)>> <<Value (Year)>>および Balance Sheet for <<Value (Period)>> <<Value (Year)>>と指定して目次の表示形式を変更します。(変更前):

Profit & Loss Statement	
Jan, 2008	1
Balance Sheet	
Jan, 2008	2
Profit and Loss Statement for Jan 2008	1
(変更後): Balance Sheet for Jan 2008	2

- 「テキストの表示」。カスタム・テキストを入力します。
- 「HTMLの目次に関連コンテンツを含める」。このオプションは、ブック・エディタでレポートを選択する際に使用できます。FRExecute およびハイパーリンクを含む処理の動作については、73ページの「[ハイパーリンクおよび FRExecute の動作の処理](#)」を参照してください。
- 「メンバー選択」。ブック・エディタでメンバーを選択した場合、このオプションを使用できます。POVのメンバーを変更するには、エントリ・フィールドをクリックして「ユーザーのPOVのプレビュー」ダイアログを表示し、メンバーを選択して「OK」をクリックします。

表紙の追加

任意のブックに表紙を追加できます。「PDF のブック全体」を選択すると、目次の前に表紙が表示されます。表紙として、次のいずれかのファイル・タイプを選択できます。

- Financial Reporting レポート
- PDF ファイル
- Microsoft Word
- Microsoft Excel
- Microsoft PowerPoint

注：「HTML プレビュー」または「PDF プレビュー」が選択されている場合、または HTML Web サイトの目次では、表紙は表示されません。

▶ アーティファクトを表紙として選択するには:

- 1 「エクスプローラ」・リポジトリで、ブックを右クリックして「**ファイル形式を指定して開く**」を選択します。次に、「**エディタ**」を選択してブック・エディタを開きます。
- 2 ブック・アーティファクトの一覧から表紙用のアーティファクトを選択し、オブジェクト設定を含む下部ペインに移動します。
- 3 「値」列で「表紙」の行の矢印をクリックして、「はい」を選択します。

選択したアーティファクトがブック・アーティファクト・リストの一番上に移動し、表紙であることを示す星のマークが付けられます。

ブック・エディタでの URL の追加

Oracle Universal Content Management、Oracle BI EE またはその他の汎用サーバーから、URL をブックに追加できます。URL をブックに追加するには、各方法でプロパティ・ファイルの設定が必要です:

- **http:// protocol プロトコルを使用する Oracle Universal Content Management Server の場合** - 構文は次のとおりです: `StellentServer=http://<ホスト名><ポート><ID>`。例: `StellentServer=http://localhost:19000`

注： Oracle Universal Content Management を使用する場合、`http://`プロトコルのみプロパティの設定が必要です。`idc://`プロトコルでは、プロパティの設定は不要です。

- **OBIEE Server の場合** - 構文は次のとおりです: `OBIEEServer=http://<ホスト名>:<ポート>`。例: `OBIEEServer=http://localhost:9704`

注： Oracle Universal Content Management および Oracle BI EE の場合、Oracle Access Manager で保護されたドキュメントにはアクセスできません。

- 汎用サーバーの場合 - 構文は次のとおりです:
 - HTTPProxyHost=<ホスト名>。例: HTTPProxyHost=www-proxy.us.oracle.com
 - HTTPProxyPort=<ポート>。例: HTTPProxyPort=80

注: URL をブック・エディタに追加するには、すべてのデータ・ソースのユーザー名とパスワードが同じである必要があります。

注: プロパティの詳細は、EPM Workspace Financial Reporting 管理者ガイドを参照してください。

Oracle BI EE サーバーから URL の追加

OBIEEServer プロパティ設定の定義を完了したら、URL をブック・エディタに追加できます。

▶ URL を追加するには:

- 1 Oracle Business Intelligence Enterprise Edition で、追加する URL をコピーします。
- 2 EPM Workspace の「リポジトリ」で、ブックを右クリックして、「ファイル形式を指定して開く」を選択し、「エディタ」を選択します。
- 3 ブック・エディタで、アーティファクトをハイライトします。
- 4 右側のパネルの「URL」トピックの下に、URL を貼り付けるか、入力します。
- 5 「追加」をクリックします。URL が、選択したアーティファクトの下に表示されます。

注: 右クリック・メニューをクリックして「上へ移動」または「下へ移動」を選択することで、URL を移動できます。

汎用 URL の追加

HTTPProxyHost および HTTPProxyPort プロパティ設定の定義を完了したら、URL をブック・エディタに追加できます。

▶ URL を追加するには:

- 1 追加する URL をコピーするか書き留めます。
- 2 EPM Workspace の「リポジトリ」で、ブックを右クリックして、「ファイル形式を指定して開く」を選択し、「エディタ」を選択します。
- 3 ブック・エディタで、アーティファクトをハイライトします。
- 4 右側のパネルの「URL」トピックの下に、URL を貼り付けるか、入力します。
- 5 「追加」をクリックします。URL が、選択したアーティファクトの下に表示されます。

注： 右クリック・メニューをクリックして「上へ移動」または「下へ移動」を選択することで、URL を移動できます。

Oracle Universal Content Management の URL の追加

2つのタイプの Oracle Universal Content Management プロトコル(http://または idc://)の URL を追加できます。選択したプロトコルによって、URL の追加方法が決まります:

注： http://プロトコルでは、JConsole のプロパティ HTTPProxyHost と HTTPProxyPort を定義する必要があります。idc://プロトコルでは、これらのプロパティの設定は必要ありません。

- http://-URL は、「ドキュメント URL」フィールドに貼付けできます。Oracle Universal Content Management ユーザー ID およびパスワードを入力するための「ログオン」ダイアログが表示されます。
- idc://-Oracle Universal Content Management ホスト名、idc ポート番号およびドキュメント ID を「ドキュメント URL」フィールドに入力します。構文は次のとおりです: idc://<example>:<port number>.<document ID>。例: idc://vacorda08.us.oracle.com:4444.DM0000213

注： ホスト名、ポート番号およびドキュメント ID の検索の詳細は、[80 ページの「Oracle Universal Content Management のプロパティ値の検索」](#)を参照してください。

Oracle Universal Content Management のプロパティ値の検索

Oracle Universal Content Management の idc://プロトコルを使用してブック・エディタで URL を作成するには、ホスト名、ポート番号およびドキュメント ID が必要です。

▶ ホスト名を検索するには:

- 1 Oracle Universal Content Management のナビゲーション・ペインで、「管理」>「idc の構成」を選択し、「idc の構成情報」を表示します。
- 2 HTTP サーバー・アドレスに表示されている、.com で終わるホスト名を書き留めます。例: www.oracle.com。

▶ idc ポート番号を検索するには:

- 1 Oracle Universal Content Management のナビゲーション・ペインで、「管理」>「管理サーバー」を選択します。
- 2 「idc」をクリックします。
- 3 ナビゲーション・ペインで、「全般構成」を選択します。

- 4 追加構成変数フィールドの「IntradocServerPort」の値を書き留めます。例:

IntradocServerPort=4444

▶ ドキュメント ID を検索するには:

- 1 Oracle Universal Content Management にアップロードされたドキュメントの ID は、Oracle Universal Content Management サーバーで生成されます。ナビゲーション・ペインで、「検索」を選択します。
- 2 元のタイトル、生成された ID、作成者またはリリース日で検索できます。
- 3 検索結果に一致する値が表示されます。
- 4 ID を書き留めます。例: DM000213。

値を収集したら、Oracle Universal Content Management の URL について、ブック・エディタでそれらの値を追加できます。例: vacorda.us.oracle.com:4444/DM000213

Public Sector Planning and Budgeting でのブックの使用 方法

連邦政府および州政府は、該当年度における企業経営の基盤となる公式承認済の予算をまとめた予算台帳を義務付けています。予算台帳には政府の予算データが要約され、昇給や新採用、戦略的な新計画、資金需要、その他の主な支出に関する詳細が記載されます。会計年度案の特定の日付で州知事または大統領に承認された収益および資本予算が、関連する会計および業務情報とともに詳述されています。Public Sector Planning and Budgeting には、Financial Reporting で作成された一連の一般レポートが含まれており、予算台帳の作成を補助します。予算編成プロセスが完了すると、管理者はインターネットに台帳を掲載して一般に公開したり、経営陣、行政管理予算局、知事執務室などで閲覧したりできます。

Public Sector Planning and Budgeting 意思決定パッ ケージと Financial Reporting の使用

Oracle Hyperion Public Sector Planning and Budgeting 意思決定パッケージは、財務情報と、特定のアクションまたは提案済ポリシーのサポートされている理由を連結します。意思決定パッケージは、資金調達を要求を、その理由を示す説明とサポート情報とともに表し、確認および承認プロセスを通じて送信可能です。たとえば、治安の向上が自治体の意思決定パッケージとなり、その意思パッケージには消防署や警察署が定義する予算要求が含まれるというような例が考えられます。予算要求は、意思決定パッケージを実現するためのライン・アイテムのコストや合計金額を表します。意思決定パッケージの詳細については、Oracle Hyperion Public Sector Planning and Budgeting User's Guide を参照してください。

Oracle Hyperion Public Sector Planning and Budgeting 意思決定パッケージのレポートを、URL として Financial Reporting に追加します。ブックを実行すると、意思決定パッケージのレポートが PDF ファイルとしてブックに含まれます。

▶ 意思決定パッケージのレポートを Financial Reporting ブックに追加するには:

- 1 ブック・エディタで、意思決定パッケージのレポートを追加するブックを開きます。
- 2 「URL」で、「意思決定パッケージ」をクリックして、ドロップダウン・メニューから Planning Oracle Hyperion Planning アプリケーションを選択し、「追加」をクリックします。

「意思決定パッケージ」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 3 「意思決定パッケージ」で、次のタスクを実行して、Financial Reporting で使用する意思決定パッケージを探します。
 - 「シナリオ」で、意思決定パッケージのシナリオを選択します。
 - 「バージョン」で、意思決定パッケージのバージョンを選択します。
 - 「オプション:」 「年」で、コピーするデータを含む意思決定パッケージの年を選択します。
 - 「通貨」で、意思決定パッケージの通貨を選択します。
 - 「実行」をクリックします。

シナリオ、年およびバージョンに関連付けられている意思決定パッケージが表示されます。

- 4 「オプション」: フィルタとして属性を使用して意思決定パッケージを見つけるには、次のタスクを実行します:
 - 「意思決定パッケージ・フィルタ」の各属性について、属性情報を入力または指定します。たとえば、予算日という属性を使用して、その日までに意思決定パッケージおよびその予算要求を完了して最終的な承認の準備を行う必要がある日付を収集する場合は、その日付を入力します。
- 5 「使用可能な意思決定パッケージ」で、Financial Reporting で使用する意思決定パッケージを選択します。
- 6 それらを「選択された意思決定パッケージ」に移動します。
- 7 Financial Reporting 予算台帳でレポートして表示する元の意思決定パッケージのデータの種類を示します。

レポート	説明
意思決定パッケージのリスト	使用可能なすべての意思決定パッケージおよび意思決定パッケージ内の予算要求が表示されます。「レポート・タイプ」から「詳細」を選択して、意思決定パッケージおよび予算要求に関する詳細情報を表示します。
エンティティ別意思決定パッケージ費用	エンティティ内のすべての意思決定パッケージおよびその予算要求の合計支出を表示します
エンティティ別意思決定パッケージ	エンティティ内のすべての意思決定パッケージを表示します。「レポート・タイプ」から「詳細」を選択して、意思決定パッケージが必要な理由や実装に関連する予算要求が必要な理由を説明する理由条件など、意思決定パッケージと予算要求に関する詳細情報を表示します。

- 8 「保存」をクリックして、変更を保存します。
「取消し」をクリックして変更を破棄します。

予算台帳のカスタマイズ - 例

管理者は、次の方法で予算台帳をカスタマイズできます:

- 章と副章を含む目次を定義する。
- 説明的なテキスト、ドキュメント、画像、またはハイパーリンクを添付する。
- テーブルを挿入する。
- パッケージを PDF または HTML フォーマットでエクスポートする、またはリポジトリにスナップショットとして保存する。
- 事前定義されているレポートを次の目的に利用できます。
 - 勘定科目行の詳細とバージョンの比較
 - 従業員レベル
 - 主な支出に関するギャップ分析
 - 次元別の成長テーブル

管理者は、事前定義されているレポートをカスタマイズしてそれぞれの環境に適したフォーマットでデータを提示することができます。

注: 事前定義されているアプリケーションの次元を変更する場合には、予算台帳でレポートを更新する必要があります。

予算台帳 - 全体的なプロセス

- ブックのセクションとサブセクションを定義して名前を付けます。通常は、Microsoft Word または Financial Reporting を使用します。次のオプションがあります:
 - ユーザーが生成した HTML ファイル、PDF ファイル、および Financial Reporting レポートをセクションとして挿入する
 - Word ドキュメントの編集および予算台帳へのアップロード
 - Public Sector Planning and Budgeting の事前定義済レポートを使用する
 - Planning レポートを追加する
 - 他の Financial Reporting レポートや HTML ファイルへのリンクを追加する
- 目次を作成します。左、上または主ページに配置できます。
- イメージ、内部リンクやネットワーク・リンク、URL、クリップボードからのデータなどを追加します。
- 次元階層を貼り付けるか作成し、所有者を割り当てます。
- Public Sector Planning and Budgeting から、ユーザーが動的にドリルスルーできる勘定科目メンバーを追加します。
- 勘定科目行で追加情報を参照します。
- コメントおよび注釈を追加します。
- 予算台帳およびその他のターゲット・レポートを公開します。

- ブックの実行時に、ブックを PDF、HTML または Word ファイルとして生成します。
 - HTML で生成するには、ブックをバッチ内に生成する必要があります。
- 予算台帳とレポートをパブリック Web サイトなど適切なサイトに公開し、確認できます。
- 予算台帳を複製し、次年度以降に再利用できます。

プロセス管理と承認を通じ、管理コメント、セル・テキスト、関連 URL などの Oracle Universal Content Management の補助的な情報を Planning で転送できます。

テキスト・ファイルの印刷

Microsoft Word アプリケーションではテキスト(.txt)ファイルを印刷できますが、印刷するには、ファイルに.txt 拡張子が指定されている必要があります。これは、セル・ドキュメント、ブックおよび外部コンテンツにテキスト・ファイルを追加する場合の設計上の考慮事項です。

Microsoft Word テンプレート

Microsoft Word テンプレート・ドキュメントの FR_TextTemplate.doc は、Financial Reporting 印刷サーバーの\${home.reports}/bin/フォルダにインストールされます。Financial Reporting 印刷サーバーがテンプレートを見つけると、テキスト・ファイルのコンテンツが Word テンプレートに挿入されます。その後、Word ドキュメントを印刷する既存のルーチンを使用してテキスト・ファイルが印刷されます。印刷ジョブが終了すると、ファイルは保存されずに閉じますが、テンプレートは次のテキスト・ファイルのために保持されます。

Word テンプレートのデフォルト設定

- <<FR_content>>文字列は、唯一の本文のコンテンツです。
- テキストは 10 ポイントの Courier New フォントにフォーマットされます。
- 縦長、余白 1 インチで印刷されます。
- フッターは日時と現在のページ番号を印刷するように設定されています。これらの設定は、Financial Reporting 印刷サーバー経由で印刷されるすべてのテキスト・ファイルに対して更新されます。

テンプレートのカスタマイズ

テンプレートをカスタマイズする前に、必ずテンプレートをバックアップしてください。テンプレートは、Microsoft Word で開くことができます。テンプレートに加えた変更は、次回テキスト・ファイルを印刷するときに適用されます。Financial Reporting 印刷サーバーを再起動する必要はありません。

<<FR_content>>文字列では、挿入するテキスト・ファイル・コンテンツのフォントと段落の設定を指定できます。この文字列は、FR_TextTemplate.doc テンプレートに含める必要があります。

テキスト・ファイルを印刷すると、Financial Reporting 印刷サーバーは FR_TextTemplate.doc を開き、<<FR_content>>文字列を探します。見つかった場合、その文字列がテキスト・ファイルのコンテンツに置き換わります。文字列が見つからない場合、テキスト・ファイルのコンテンツは Word ドキュメントの末尾に挿入され、テンプレート内の既存のコンテンツはテキスト・ファイルのデータの前に表示されます。

Microsoft Word テンプレートを実装する利点

- テンプレートのデフォルト・フォーマットをカスタマイズできます。
- 印刷モード、ページ・サイズなどのテンプレートのページ設定をコントロールできます。
- ページ番号などのテンプレートのフッターをカスタマイズできます。
- 標準の機密条項などのテンプレートのコンテンツを追加できます。
- 会社ロゴなどのテンプレートのイメージまたは背景を追加できます。

ブックとスナップショット・ブックのエクスポート


リポジトリからブックおよびスナップショット・ブックをエクスポートできます。



バッチの設計

バッチを使用すると、複数のレポートとブックを同時に処理できます。バッチは、名前、レポート、ブック、スナップショット・ブックおよびプロンプトで構成されます。プロンプト情報は、現在実行しているバッチの情報です。

保存済のバッチを変更、除去または再スケジュールできます。バッチを複製して、元のバッチと同じプロパティを一部または全部使用できます。

▶ バッチを設計するには:

- 1 EPM Workspace を起動します。
- 2 「ファイル」の「新規」を選択し、「ドキュメント」を選択して、「タスクの選択」ウィザードを表示します。
- 3 「スケジュールを設定するレポートのバッチを作成」を選択し、「次へ」をクリックします。
- 4 「ファイルの選択」で、「タイプ」ドロップダウンを使用して選択項目を「Financial Reporting レポート、スナップショット・レポート、ブックまたはスナップショット・ブック」でフィルタします。
- 5 レポート・タイプを選択し、「をクリックして」「選択アイテム」  パネルに移動します。

- 6 「オプション:」「選択アイテム」からレポート・タイプを除去するには、レポートを選択し、をクリックします。「選択アイテム」からすべてレポートを除去するには、をクリックします。

注： リポジトリ内のレポートを移動、削除または名前変更すると、レポートは次回ブックを開いたときにブックから除去されます。レポートをブックに含めるには、ブックに追加します。

ヒント： 1つのレポート・タイプを複数回選択した場合は、重複するレポート・タイプの新規の名前の入力を求めるメッセージが表示されます。名前を変更したレポート・タイプは、元の名前の後に新規名がカッコで囲まれてバッチ・エディタに表示されます。重複するレポートを破棄するには、「取消し」をクリックします。

- 7 「終了」をクリックしてバッチ・エディタを開きます。
- 8 プロンプトに応答します(42 ページの「プロンプトへの応答」を参照してください)。
- 9 「ファイル」、「名前を付けて保存」の順に選択します。
- 10 フォルダを選択し、名前と説明を入力して「保存」をクリックします。

バッチのプロンプトの定義

プロンプトは、レポートまたはブックのメンバーの要求です。バッチ内のレポートまたはブックにプロンプトが含まれている場合、ユーザーはバッチ・エディタでメンバーを選択できます。

ユーザーがバッチを保存するときに、「プロンプトに回答」ダイアログ・ボックスに、バッチ内のアーティファクトに含まれているプロンプトと変数が表示されません。

同じプロンプトと変数

変数が存在しデータ・ソースへの参照が複数ある場合または同じプロンプトが複数のグリッドに存在する場合は、「プロンプトに回答」ダイアログ・ボックスにドロップダウン・リストが表示されます。このリストから、グリッド、レポートやブック、バッチのどのレベルでプロンプトに回答するかを選択できます。ドロップダウン・リストに表示される選択肢は、「プロンプトに回答」ダイアログ・ボックスがレポートやブックの実行中に表示されているか、バッチ・エディタから表示されているかによって異なります。ドロップダウン・リストは、選択の必要がある場合にのみ表示されます。たとえば、レポート、ブックまたはバッチに1つのプロンプトのみ含まれている場合またはプロンプトが異なる(異なる次元、デフォルト・メンバー、変更リスト)場合、ドロップダウン・リストは表示されません。

変数が存在しデータ・ソースに複数の参照がある場合または同じプロンプトが複数のグリッドに存在する場合は、「プロンプトに回答」ダイアログ・ボックスにドロップダウン・リストが表示されます。このリストから、グリッド、レポート/ブック、バッチのどのレベルでプロンプトに回答するかを選択できます。ドロップ

プルダウン・リストに表示される選択肢は、「プロンプトに回答」ダイアログ・ボックスがレポートやブックの実行中に表示されているか、バッチ・エディタから表示されているかによって異なります。ドロップダウン・リストは、選択の必要がある場合のみ表示されます。同様に、レポート、ブックまたはバッチに1つのプロンプトのみ含まれている場合またはプロンプトが異なる(異なる次元、デフォルト・メンバー、選択リスト)場合、ドロップダウン・リストは表示されません。

レポートを実行中の場合、次の選択肢が表示されます:

- レポート・レベルでプロンプトに回答(デフォルト)
- グリッド・レベルでプロンプトに回答

ブックを実行中の場合、次の選択肢が表示されます:

- ブック・レベルでプロンプトに回答(デフォルト)
- レポート・レベルでプロンプトに回答
- グリッド・レベルでプロンプトに回答

バッチを編集の場合、ドロップダウン・リストに表示される選択肢は、「バッチ・レベルでプロンプトに回答」(デフォルト)、「ブック/レポート・レベルでプロンプトに回答」および「グリッド・レベルでプロンプトに回答」です。

- バッチ・レベルでプロンプトに回答(デフォルト)
- ブック/レポート・レベルでプロンプトに回答
- グリッド・レベルでプロンプトに回答

選択肢は、必要な場合にのみ表示されます。1つの変数またはプロンプトへの複数の参照がある場合、選択肢は表示されません。

ユーザーはプロンプトに一度回答し、同じ値を両方の回答に使用するか、ドロップダウンで「グリッド・レベルでプロンプトに回答」を選択し、「適用」を押してリストされたプロンプトごとに異なる値を入力できます。

「ソース」列には、プロンプトが表示されるアーティファクトが表示されます。同じプロンプトが見つかり、プロンプトへの回答が1つのみ表示される場合は、「ソース」列にアスタリスク(*)が表示されます。これは、プロンプトへの回答がそのタイプのすべてのプロンプトに適用されることを示します。

プロンプトに回答するレベルを選択できる機能は、EPM Workspace でのみ使用可能です。Oracle Hyperion Financial Reporting Studio では、「プロンプトに回答」ダイアログ・ボックスに常にすべてのメンバー選択プロンプトと、各変数への1つの参照が表示されます。

▶ バッチ・エディタでプロンプトを定義するには:

- 1 「ファイル」の「開く」を選択し、「ドキュメント」を選択します。
- 2 バッチ上で右クリックし、「プロンプトに回答」を選択します。
- 3 「プロンプトに回答」ダイアログで、「メンバー選択に移動」ボタンをクリックします。
- 4 「メンバー選択」で、バッチの実行時にレポートで使用するメンバーを選択します。

- 5 「OK」をクリックして「バッチ・エディタ」に戻ります。
- 6 次のいずれかのアクションを行います:
 - オプション: バッチをスケジュールします。
 - 「ファイル」の「保存」を選択してバッチを保存し、「ファイル」の「閉じる」を選択します。

バッチを開く

バッチを開いて編集したりスケジュールを設定したりします。

▶ バッチを開くには:

- 1 「ファイル」の「開く」を選択し、「ドキュメント」を選択します。
- 2 「タイプ」ドロップダウンから「Hyperion」を選択し、「Financial Reporting バッチ」を選択します。
- 3 バッチが格納されているフォルダに移動します。
- 4 バッチ・ファイルを選択し、「開く」をクリックします。

この章の内容

実行するバッチのスケジュール	89
バッチ・バーストのスケジュール	94
バッチ・スケジューラ操作	97

バッチ・エディタを使用して EPM Workspace でバッチを作成、編集および保存します。このタスクを実行するには、グローバル管理者、レポート設計者、スケジューラまたはコンテンツ・パブリッシャの役割が必要です。役割については、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System セキュリティ管理ガイド』の付録を参照してください。バッチは、レポート、ドキュメントまたはブックなど、ドキュメント・セットのグループ化と処理のために使用します。バッチは、HTML または PDF ファイルとして外部ディレクトリにエクスポートできます。エクスポートした出力は PDF フォーマットで電子メールによりユーザーに送信できます。

実行するバッチのスケジュール

バッチは、ただちにまたは後日に実行するようにスケジュールできます。バッチのスケジュールでは、バッチ POV の選択、電子メール通知の設定およびバッチの実行時に生成される出力の宛先を選択します。宛先タイプには、所定のリポジトリ・フォルダへのスナップショットの保存、外部ディレクトリまたは電子メールに添付する PDF ファイルのエクスポートおよび所定の外部ディレクトリへの HTML ファイルのエクスポートを含めることができます(バッチ・バーストでは HTML はサポートされません)。スケジュール済のバッチ・オプションを選択した後、正常実行後に、バッチ・スケジューラからバッチ・キューにバッチが追加されます。

スケジューラのバッチ・バースト機能では、1 データ・ソースに対するバッチ POV で 1 つの次元の複数のメンバーに対するバッチを実行して、生成された PDF を受信者リストに電子メールで送信し、ファイル・システムまたはリポジトリに出力を保存できます。たとえば、New York および Houston に対して実行するようにスケジュールされたバッチでは、New York の出力を jones@cd.com に、Houston の出力を smith@cd.com に送ることができます。バッチ・バーストでは、事前に定義されたテキスト機能をレポート・ラベルおよびフォルダ・ラベルで使用できます。バッチに割り当てられたデフォルト設定を上書きするためにバースト宛先ファイル(91 ページの「バッチ宛先の指定」を参照)を作成できます。

バッチ・スケジューリング・タスクは次のとおりです。

- 91 ページの「バッチ視点(POV)用のメンバーの選択」

- 91 ページの「バッチ宛先の指定」

▶ バッチの実行をスケジュールするには:

- 1 「ナビゲート」、「スケジュール」、「バッチ・スケジューラ」の順にクリックします。
- 2 「バッチ・スケジューラ」で、「ファイル」>「スケジュール設定するバッチ」を選択します。
- 3 バッチの名前と説明を入力します。
- 4 「オプション:」 正常実行後にスケジューラからバッチを削除するには、「出力後に、スケジュール済バッチをスケジューラから削除」を選択します。
- 5 「次へ」をクリックします。
- 6 バッチを選択し、「次へ」をクリックします。必要に応じて、**ログオン情報**が表示されます。ユーザー名とパスワードを入力し、「OK」をクリックします。
- 7 「頻度」ドロップダウンで、バッチの実行頻度を選択します。「すぐに実行」または「オン・デマンドで実行」を選択することもできます。
- 8 スケジュールされた頻度を選択した場合、開始日時と終了日時を選択します。
- 9 「オプション:」 バッチ内のレポートおよびブックのユーザー POV に次元がある場合、「スケジュール済バッチの POV」領域で、その次元のメンバーを設定できます。
- 10 **オプション:** バッチ POV 上の 1 つの次元に含まれる複数のメンバーに対してバッチを実行するためにジョブ・バーストを使用する場合は、「バースト・オプション」領域で実行できます。94 ページの「バッチ・バーストのスケジュール」を参照してください。
- 11 「次へ」をクリックします。
- 12 実行中のバッチ・ファイルの宛先についてデフォルト設定を変更し(89 ページの「実行するバッチのスケジュール」を参照)、「次へ」をクリックします。
- 13 「オプション」。バッチが正常に実行された場合または正常に実行されなかった場合(あるいはその両方)に簡単なメッセージとともに電子メールを受信者に送信するかどうかを指定します。
- 14 「終了」をクリックし、宛先に対して選択した設定とともにバッチ・スケジューラでバッチ・ジョブを保存します。

ログオン情報の提供

スケジュール済バッチを将来実行するにはログオン情報を提供する必要があります。

▶ ログオン情報を入力するには:

- 1 Financial Reporting サーバーのユーザー名とパスワードを入力します。
- 2 使用しているデータベース接続名のユーザー名とパスワードを入力します。
- 3 「OK」を選択します。

バッチ視点(POV)用のメンバーの選択

各スケジュール設定されたバッチは、バッチ内のレポートのすべての関連する次元に基づく POV を持ちます。レポートまたはブックがユーザー POV にメンバーを持たない場合、バッチ POV はありません。バッチがスケジュールに追加されるたびに、ユーザー POV がデフォルト・バッチ POV として指定されます。ユーザー POV 設定は、バッチ POV の各次元のメンバーを指定して上書きできます。バッチ POV で選択したメンバーが適切であることを確認する必要があります。

▶ バッチの POV のメンバーを選択するには:

- 1 「スケジュール済バッチの POV」領域から、メンバーを選択する次元をクリックします。「メンバー選択」が表示されます。
- 2 POV で使用するメンバーを選択し、「OK」をクリックします。
- 3 バッチのバッチ宛先を完了するには、「次へ」をクリックします。

バッチ宛先の指定

宛先領域ではスケジュール済バッチの出力のタイプと場所を指定します。バッチ宛先の出力オプションの次の任意の組合せを選択します。

注： バッチ・バーストは、スナップショット・レポートおよび PDF ファイルへの出力のみサポートします。バッチ・バーストの HTML および MHTML への出力はサポートしていません。

- スナップショット・レポートまたはナップショット・ブック - スナップショット・レポートおよびブックは元のフォルダ(デフォルトの場所)またはリポジトリ内の別のフォルダに保存できます。ユーザー、グループ、および役割にスナップショット・レポートまたはブックを表示するファイル権限を与えることができます。
- PDF にエクスポート - PDF ファイルは外部ディレクトリにエクスポートできます。PDF ファイルは電子メールに添付できます。レポートごとに個別の電子メールを送るか ZIP ファイルで一度に送ることができます。

注： 電子メール出力の最大添付サイズを指定するには、JConsole.exe ファイル内の MaxEmailAttachmentSize プロパティを使用します。JConsoleの詳細は、Oracle Hyperion Financial Reporting Workspace 管理者ガイドのプロパティ情報に関するトピックを参照してください。KB 単位で入力するこの値を使用して、電子メールごとに許される最大添付サイズを超えないようレポートを複数の電子メールに分割します。デフォルトは無制限(0 (ゼロ)または -ve)に設定されています。1 個の PDF ファイルまたは複数ファイルを含むオーバーサイズの添付を送ると電子メールは送られず送信者に通知されます。1 つのオーバーサイズ添付の場合、送信者はそれをスケジューラ・サーバーまたは外部ディレクトリからコピーして手作業で配布できます。複数ファイル添付の場合、送信者はバッチ・スケジューラからバッチを再実行して、ファイルごとに個別の電子メールを送るオプションを選択できます。このプロパティはバーストおよび非バースト出力に適用されます。

- HTML にエクスポート、MHTML にエクスポート - HTML および MHTML ファイルは外部ディレクトリへエクスポートできます。スケジューラ・サーバーに保存される場合、生成されたバッチは ZIP ファイル形式の静的な HTML/MHTML として保存されます。このオプションは、バースト・バッチではサポートされていません。

▶ バッチ宛先を選択するには:

1 「宛先」領域から任意のアクションを選択します。

- **リポジトリ内のスナップショットの保存先:** このオプションを選択すると、「元のオブジェクトと同じフォルダ」および「別のフォルダ」オプションが使用可能になります。次のいずれかのアクションを行います:
 - 「元オブジェクトと同じフォルダ」を選択してスナップショットとスナップショット・ブックをリポジトリ内の元のレポートまたはブックと同じフォルダに保存します。
 - 「別のフォルダ」を選択してリポジトリ内の別の場所に保存します。「フォルダ」をクリックしてリポジトリ内の出力先フォルダを選択し、次に「OK」をクリックします。

注： 「リポジトリ内のスナップショットの保存先」を選択すると、「ファイルのアクセス権」が有効になります。「ファイルのアクセス権」では、スナップショット出力へのアクセス権をユーザーおよびグループに割り当てられます。

- **PDF にエクスポート - Financial Reporting** サーバーの PDF ファイルとしてバッチをエクスポートします。外部ディレクトリにエクスポートするには、ファイル・システムでファイルにアクセスできる場合、「外部ディレクトリにエクスポート」を選択します。レポートを電子メール添付ファイルとして添付するには、「PDF 添付ファイルとして電子メール送信」を選択します。電子メール添付ファイルを圧縮するには、「PDF を zip フォーマットで圧縮」を選択します。注釈をレポートと印刷するには、「注釈の印刷」を選択し、「詳細」を選択して注釈の印刷方法を指定します。12 ページの「注釈印刷プリファレンスの設定」を参照してください。

注： 注釈印刷のプリファレンスは特定のバッチの一度限りの設定です。
これはグローバル・プリファレンスとして保存されません。

生成されたバッチの出力は、HTML 出力とは異なります：

- `template.css` ファイルは無視されます。そのため、テンプレートに定義されたフォーマットは適用されません。
- バッチに `FRExecute` 関数を含む Microsoft Word ドキュメントが含まれる場合、出力結果は、Microsoft Word ドキュメントのデザインによって異なります：
 - `FRExecute` 関数がテキスト・ボックスに入力されている場合、出力結果は、テキスト・ボックスのパラメータに合わせてサイズが調整されます。設計者は、`FRExecute` のコンテンツの範囲に従って、テキスト・ボックスのサイズを指定する必要があります。
 - `FRExecute` 関数がテキスト・ボックスではなく Microsoft ページの上部に入力された場合、出力結果は、Financial Reporting デザインで指定されたとおりに表示されます。
- **HTML にエクスポート - Financial Reporting** サーバーの HTML ファイルとしてバッチをエクスポートします。外部ディレクトリまたはネットワーク・ドライブにエクスポートするには、ファイル・システムでファイルにアクセスできる場合、「外部ディレクトリにエクスポート」を選択します。このオプションは、バースト・バッチではサポートされていません。

注： 「外部ディレクトリにエクスポート」を選択すると、使用可能なドロップダウン・メニューには `JConsole.exe` ファイルに指定されているフォルダ場所が表示されます。`JConsole` の詳細は、Oracle Hyperion Financial Reporting Workspace Administrator's Guide のプロパティ情報に関するトピックを参照してください。これらに使用できる値は、`FolderLabel1`、`FolderPath1`、`FolderLabel2`、`FolderPath2` などです。

- **MHTML にエクスポート - Financial Reporting** サーバーの単一ファイルとしてバッチをエクスポートします。外部ディレクトリまたはネットワーク・ドライブにエクスポートするには、ファイル・システムでファイルにアクセスできる場合、「外部ディレクトリにエクスポート」を選択します。このオプションは、バースト・バッチではサポートされていません。
- **バースト・リストのプレビュー** - 選択すると、CSV バースト・リストをプレビューできます。リストには、ジョブ・バースト・バッチのメンバーに選択されたデフォルト設定が表示されます。

2 「次へ」をクリックします。


- スケジュールしたバッチに、ジョブ・バーストを伴う電子メール PDF 添付ファイルが含まれる場合、「PDF 添付ファイルの電子メール」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- スケジュールしたバッチに、ジョブ・バーストを伴わない電子メール PDF 添付ファイルが含まれる場合、「スケジュール済バッチの詳細」ダイアログ・ボックスが表示されます。

バッチのスケジュールの電子メール・アドレスの選択

スケジュールしたバッチが成功または不成功のとき電子メールを送るようスケジュールを設定できます。電子メールにはバッチのステータスの詳細とオプションとしてバッチの PDF 出力が含まれます。電子メール・アドレスを選択、追加、または削除できます。

バーストされていないバッチの場合、電子メールには通知と PDF 添付ファイルが含まれます。バーストされたバッチの場合、電子メールには通知のみが含まれません。

▶ 受信者電子メールを選択するには:



- 1 バッチ・ウィザードを開始し、電子メール詳細画面に移動します。
- 2 次のいずれかのアクションを行います:
 - バッチの実行が成功した場合の電子メール・アドレスを選択するには、「処理の完了後に詳細を電子メールで送信」を選択し、「**選択**」をクリックします。
 - バッチの実行が失敗した場合の電子メール・アドレスを選択するには、「エラーが発生した場合に詳細を電子メールで送信」を選択し、「**選択**」をクリックします。
- 3 「スケジュールを設定する電子メール受信者の選択」ダイアログの「**使用可能な受信者**」ペインで、電子メール・アドレスを選択して、 をクリックします。
- 4 新しい受信者の電子メール・アドレスを追加するには、「**追加**」をクリックして、「**受信者リストへのアドレスの追加**」に電子メール・アドレスをカンマで区切って追加し、「**OK**」をクリックします。
- 5 受信者の電子メールを除去するには、電子メール・アドレスを選択して「**削除**」をクリックします。
- 6 **オプション**。バッチのジョブ・バーストには「**バースト・リストのプレビュー**」をクリックしてバースト宛先ファイルを表示およびエクスポートします。このファイルには、バーストしたバッチのメンバー用に選択されたデフォルト設定が含まれます。このファイルの詳細は、[95 ページの「バースト宛先ファイルについて」](#)を参照してください。

バッチ・バーストのスケジュール

各スケジュール済バッチに対してジョブ・バーストを使用して次元の 1 つ以上のメンバーにレポートを実行できます。ジョブ・バーストに次元のみを選択すると、バッチ POV のその次元の設定は使用不可になります。選択されていないバッチ POV メンバーはアクティブのまま残り、バッチに含まれます。レポートまたはブックがユーザー POV にメンバーを持たない場合、バッチ POV またはジョブ・バーストはありません。

▶ バッチ・バーストをスケジュールするには:

- 1 バッチ・スケジューラ・ウィザードを使用して、「**開始時刻**」画面に移動します。

- 2 「バースト・オプション」領域で「次元の複数メンバーにバッチを実行」を選択し、ジョブ・バースト用の次元を選択します。
 - 3  をクリックして、ジョブ・バースト用のメンバーを選択します。
 - 4 バースト・ファイルで、このバッチの CSV バースト受信者リストを作成してリポジトリにインポートしている場合、 を選択してファイルを選択します。
 - 5 「メンバーのコピー」をクリックして CSV バーストの受信者リストに定義されているメンバーをメンバーの選択リストに追加します。
- 注：** 選択した次元に対して使用可能なメンバーのみ追加されます。
- 6 「次へ」をクリックします。

バースト宛先ファイルについて

バースト宛先ファイルには、スケジュールしたバッチのデフォルト設定が含まれます。バッチ・ウィザードにより、デフォルト設定を定期的に確認できます。スケジュールしたバッチの出力および権限の例外を指定するために、CSV ファイルとしてバースト・ファイルをエクスポートし、バッチ・ウィザードで定義されたデフォルト設定を上書きできます。CSV バースト宛先ファイルのメンバー設定は、バッチ・ウィザードのメンバー選択に追加できます。たとえば、選択したメンバーに基づいて各レポートに異なるサブフォルダを指定したり、レポートを読み取り専用にしたりできます。選択した次元で有効なメンバーのみがバースト・ファイルに追加されます。

現行バッチのバースト宛先ファイルを編集するには、管理者または設計者がファイルをテキスト・エディタまたは Excel へエクスポートし、すでに表示されていない場合はメンバーを入力し、表内の値を編集します。次元内の各メンバーの値は、サブフォルダ名、Financial Reporting オブジェクト名、電子メール・アドレス、グループ名、役割名、ユーザー名、PDF の外部ルート・フォルダです。

操作が完了したら、バッチ・ウィザードでバッチに適用できるリポジトリ(「ファイル」、「インポート」、「ファイル」の順に選択)にファイルをインポートする必要があります。サンプルのバースト宛先ファイルが Oracle Hyperion Reporting and Analysis インストールの「サンプル」フォルダに保管されています。

注： CSV ファイル内のメンバー名は大文字と小文字が区別され、データ・ソース内の名前と一致する必要があります。ファイル内のメンバー名の大小文字がデータ・ソース内のものと異なる場合、バーストで電子メールが生成されません。

CVS バースト・ファイルを作成してリポジトリにインポートしている場合、それをスケジュール・バッチ用に選択できます。

バースト・ファイルの選択

注： バッチは、バッチ・ウィザードのメンバー選択で選択したメンバーに対してのみ実行できます。CSV ファイルは次元の個別のメンバーのオプションの出力のみに使われます。

▶ バースト・ファイルを選択するには:

- 1 バースト・ファイルを含むフォルダへナビゲートします。
- 2 バースト・ファイルを選択して、「OK」をクリックします。

バースト・リストのプレビュー

バースト・リストには、現在スケジュールされているバッチのデフォルト設定が表示されます。バッチ・ウィザードを進めながら定期的にデフォルト設定を表示し、それを CSV ファイルとしてエクスポートしてスケジュール済バッチの出力と権限例外を指定できます。それによって、スケジュール済バッチに定義されたデフォルト設定が上書きされます。たとえば、選択した次元に基づいて一部のレポートに別のサブフォルダを指定したり、一部のレポートを読み取り専用にしたりできます。現行バッチのバースト宛先ファイルを編集するには、管理者または設計者がファイルをテキスト・エディタまたは Excel へエクスポートし、すでに表示されていない場合はメンバーを入力し、表内の値を編集します。完了したらファイルをリポジトリにインポート(「ファイル」>「インポート」>「ファイル」)する必要があります。そこでそれをスケジュール済バッチに適用できます。サンプル・リストについてはバースト宛先ファイルを参照してください(sample フォルダ内にあります)。



▶ バースト・リストを CSV ファイルとしてエクスポートするには:

- 1 デフォルトとして「CSV としてエクスポート」をクリックします。ファイルは、あれば MS Excel へエクスポートされます。なければ、テキスト・エディタを選択するよう要求されます。
- 2 個別のメンバーの出力オプションと権限を指定します。

注： ファイルに追加されたメンバーでバッチ・ウィザードでも選択されていないものは出力時に無視されます。レポートをユーザーに対してグループまたは役割別に「読み取り専用」にするには、グループ名または役割名を入力します。

バースト出力ラベルの指定

「オブジェクト・ラベル」と「サブフォルダ・ラベル」フィールドを使用して、バースト出力レポート名とサブフォルダ名を特定できます。これらの2つのフィールドには2つのデフォルト・テキスト関数が表示され、レポートとサブフォルダ名を識別できます。

 をクリックして追加テキスト関数を選択します。 をクリックして関数をテストします。バースト・レポートには次の関数を使用できます:

- <<MemberName()>> - バーストするメンバーの名前を戻します。この関数にはパラメータはありません。
- <<MemberAlias()>> - バーストするメンバーの別名を戻します。この関数にはパラメータはありません。
- <<MemberDescription()>> - バーストするメンバーの説明を戻します。この関数にはパラメータはありません。
- <<BatchPovMember("DataSrcName", "DimName")>> - バーストするメンバーの POV メンバーの名前を戻します。ここで、DataSrcName は希望 POV (バッチは2つ以上の POV を指すことが可能)のデータ・ソースの名前で DimName はそのメンバー名を抽出する所定 POV 下の次元の名前です。
- <<BatchPovAlias("DataSrcName", "DimName")>> - バーストするレポートの POV メンバーの別名を戻します。ここで DataSrcName は希望 POV (バッチは2つ以上の POV を指定可能)のデータ・ソースの名前で DimName はそのメンバー別名を抽出する所定 POV の下の次元の名前です。
- <<BatchPovDescription("DataSrcName", "DimName")>> - バーストするレポートの POV メンバーの説明を戻します。ここで DataSrcName は希望 POV (バッチは2つ以上の POV を指定可能)のデータ・ソースの名前で DimName はそのメンバー説明を抽出する所定 POV の下の次元の名前です。

注: POV 関連の関数(BatchPovMember、BatchPovAlias および BatchPovDescription)を追加する場合は、パラメータ値を二重引用符で囲む必要があります。例: <<BatchPovDescription("Essbase sample basic on ProdServer1","Product")>> ここで、"Essbase sample basic on ProdServer1"はデータ・ソース名で、"Product"は次元名です。

- <<FinancialReportingObjectName()>> - バーストする Financial Reporting オブジェクトの名前を戻します。これは通常レポート名です。この関数にはパラメータはありません。
- <<FinancialReportingObjectDescription()>> - バーストする Financial Reporting オブジェクトの説明を戻します。これは通常レポート名です。この関数にはパラメータはありません。
- <<Date("format")>> - オンライン・レポートにデータが記入された日付と時刻、あるいは、スナップショット・レポートを保存したときの日付と時刻を戻します。ここで format は日付と時刻のフォーマットを定義する、引用符に囲まれた文字列です。すべての format 日付/時刻文字は『Oracle Hyperion Financial Reporting Studio ユーザー・ガイド』の関数の使用方法の章を参照してください。

バッチ・スケジューラ操作

バッチ・スケジューラを使用して作業する場合、次のことができます。

- バッチの削除
- エクスポートした出力の取得
- スケジュール済バッチの詳細の表示
- コマンド・ライン・スケジューラのためのバッチ・ファイルの準備
- ログオン情報の変更
- HTML ブックの起動
- HTML Web 出力の表示

バッチの削除

次の方法でバッチを削除できます。

- グローバル管理者、レポート設計者、スケジューラまたはコンテンツ・パブリッシャの役割と適切なファイル権限を持つ場合、バッチをリポジトリから削除できます。
- バッチ・スケジューラからスケジュール済バッチを削除できます。

バッチ・スケジューラからバッチの削除

バッチ・スケジューラ設定時、無事完了していればスケジューラからスケジュール済バッチを削除できるオプションがあります。このオプションを選択しない場合、成功したバッチはバッチ・スケジューラに保存されます。「エラー」ステータスのバッチは常にバッチ・スケジューラに保存されます。

▶ バッチ・スケジューラからスケジュール済バッチを削除するには:

- 1 「ナビゲート」、「スケジュール」、「バッチ・スケジューラ」の順にクリックします。
- 2 「バッチ・スケジューラ」で、削除するバッチを選択します。

ヒント: 複数のバッチを選択するには、CTRL キーを押しながらリスト内の各バッチをクリックします。

- 3 「編集」、「削除」の順に選択します。
- 4 プロンプトされたら「はい」をクリックします。

バッチ・スケジューラ結果の自動削除

指定した未来年齢を超えるバッチを自動的に除去するようバッチ・スケジューラを構成できます。たとえば、1 週間を超えるバッチとスケジューラ・サーバーに格納された関連する結果ファイルを除去できます。

自動削除オプションはデフォルトでオフになっています。Oracle Hyperion Financial Reporting Workspace 管理者ガイドのプロパティ情報に関するトピックを編集して、このオプションを使用可能にできます。関連プロパティは `ScheduledBatchCleanupThreadDelay` および `ScheduledBatchCacheTime` です。

エクスポート済ファイルの取得

スケジュール済バッチを実行したあと、出力ファイル取得オプションを使用して zip 圧縮した HTML または PDF 出力ファイルを取得して名前変更し、zip 圧縮したファイルをスケジューラ・サーバーからローカル・ドライブへロードできます。エクスポート済出力を取得するにはバッチのアクセス権が必要です。

注： バッチをスケジュールした後削除した場合、出力を取得できません。取得は、非バースト・バッチ・ファイルに対してのみ有効です。

▶ 出力を取得するには:

- 1 「ナビゲート」>「スケジュール」>「バッチ・スケジューラ」をクリックします。
- 2 バッチ・スケジューラで、エクスポート済出力を作成して完了したスケジュール済バッチを選択します。
- 3 「アクション」を選択し、「出力ファイルの取得」を選択します。ファイルは ZIP ファイルとして与えられます。
- 4 エクスポートするファイルを選択して「抽出」をクリックし、ファイルをユーザーのマシンのディレクトリまたは Web サーバーへエクスポートします。

スケジュール済バッチの詳細の表示

「詳細の表示」に要約とサーバー・アクティビティが含まれる、特定のバッチの詳細を調べることができます。

▶ スケジュール済バッチの詳細を表示するには:

- 1 「ナビゲート」>「スケジュール」>「バッチ・スケジューラ」をクリックします。
- 2 「バッチ・スケジューラ」でバッチを選択します。
- 3 「アクション」を選択し、「詳細の表示」「」を選択します。「詳細の表示」には次の情報が表示されます。
 - 要約:
 - バッチの宛先
 - サーバー・アクティビティ:
 - バッチの開始時間
 - 例外メッセージ
 - 終了時間と日付
 - バッチが正常に実行されたかどうかおよび電子メールが送られたかどうか
- 4 詳細をクリップボードにコピーするには:
 - 1 「詳細の表示」を右クリックし、「すべて選択」を選択します。
 - 2 「コピー」を右クリックして選択します。
- 5 「閉じる」をクリックします。

コマンド・ライン・スケジューラのためのバッチ・ファイルの準備

外部スケジューラを使用して Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace でバッチ・ジョブをスケジュールできます。バッチの起動処理は、外部スケジューラを使用して自動化します。または、集計の完了後など外部イベントが発生した後でバッチを起動します。詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace 管理者ガイド』を参照してください。

注： Financial Reporting の外部バッチ・コマンド・ライン・スケジューラでは、1 つのバッチ要求のみサポートされます。複数のバッチを処理しようとする、最初の行のバッチのみが外部バッチ・コマンド・ライン・スケジューラにより実行されます。

▶ 既存のバッチ・ファイルをコマンド・ライン・スケジュール用にエクスポートするには:

- 1 「ナビゲート」>「スケジュール」>「バッチ・スケジューラ」をクリックします。
- 2 「バッチ・スケジューラ」で、成功してエクスポート済出力を生成して完了したスケジュール済バッチを選択します。
- 3 「アクション」を選択し、「コマンド・ラインのスケジュール用にエクスポート」を選択します。
- 4 「ファイルのダウンロード」で、XML ファイルを<FR>\bin ディレクトリに mybatch.xml として保存します。ここで mybatch はバッチ入力ファイルの名前です。詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace 管理者ガイド』を参照してください。

▶ コマンド・ライン・スケジューラ用にバッチ・ファイルを作成するには:

- 1 「ナビゲート」、「スケジュール」、「バッチ・スケジューラ」の順にクリックします。
- 2 「バッチ・スケジューラ」で「アクション」を選択して「コマンド・ラインでのスケジュール用ファイルの作成」を選択します。
- 3 「バッチのスケジュール設定」でバッチ・ファイルを選択して「次へ」をクリックします。このダイアログの残りの手順を完了するには、[89 ページの「実行するバッチのスケジュール」](#)を参照してください。
- 4 バッチ作成の最後に、「ファイルのダウンロード」が表示されます。
- 5 XML ファイルを「<FR>\bin」ディレクトリに mybatch.xml として「保存」します。ここで mybatch はバッチ入力ファイルの名前です。詳細は、『Oracle Hyperion Financial Reporting Studio ユーザー・ガイド』を参照してください。

スケジュール済バッチのログオン情報の変更

Oracle Hyperion Financial Reporting サーバーまたはデータベースを変更した場合、スケジュール済バッチの実行時にすべてのスケジュール済バッチで使用する新しいログオン情報を指定できます。

▶ ログオン情報を変更するには:

- 1 バッチ・スケジューラを開き、「ナビゲート」、「スケジュール」、「バッチ・スケジューラ」の順にクリックします。
- 2 「アクション」、「パスワードの変更」の順に選択します。
- 3 変更するログオン情報として、「Financial Reporting サーバー」または「データベース」を選択します。
- 4 変更するログオン情報のユーザー ID、旧パスワードおよび新パスワードを入力します。
- 5 「OK」をクリックします。

HTML ブックを Web 表示用に関く

スケジュール済バッチが HTML 出力として生成された後、「出力ファイルの取得」オプションを使用して、ZIP 圧縮された HTML 出力ファイルを Web 表示用に取得できます。ZIP 圧縮ファイルには、Web サーバーに配置するために必要なものがすべて含まれています。ZIP 圧縮ファイルは、名前を変更してユーザーのマシンや Web サーバーに移動することができます。

▶ ブックを Web 表示用に関くには:

- 1 「ナビゲート」>「スケジュール」>「バッチ・スケジューラ」をクリックします。
- 2 バッチ・スケジューラで、エクスポート済出力を作成して完了したスケジュール済バッチを選択します。
- 3 「アクション」を選択し、「出力ファイルの取得」を選択します。ファイルは ZIP ファイルとして与えられます。
- 4 エクスポートするファイルを選択して「抽出」をクリックし、ファイルをユーザーのマシンのディレクトリまたは Web サーバーへエクスポートします。

注: バッチをスケジュールした後削除した場合、出力を取得できません。取得は、非バースト・バッチ・ファイルに対してのみ有効です。

注: 生成されたバッチの出力は、静的です。

HTML Web 出力例の表示

次のイメージは、静的 HTML として生成され、ブラウザによって起動されたブックを表しています。出力は、カスタマイズされたレイアウト、ユーザー定義コンテンツおよびナビゲーション機能を示しています。イメージ特有の制限により、すべての機能が表示できるとはかぎりません。しかし、HTML ブックには次を含められます:

- ヘッダーおよびフッターのカスタマイズされたページ・レイアウト。ページ・レイアウトは、`template.css` ファイルで定義されます。Oracle Hyperion Financial

Reporting Workspace 管理者ガイドのブックのHTML出力レイアウトの管理に関するトピックを参照してください。

- セクションおよびセクション見出しがネストされた目次ナビゲーション。目次のプロパティは、ブック・エディタで定義されます。75 ページの「ブックのコンテンツとデザインの編集」を参照してください。
- ブック内の位置を示すナビゲーション・トレイル。
- Financial Reporting レポート。レポートには、その他のレポート、URL および外部の Web サイトにリンクされるレポート行やレポート内のその他の領域に追加のナビゲーション・リンクを含められます。
- テキスト・コンテンツおよび FRExecute 関数を含む Word ドキュメント。62 ページの「FRExecute の構文」を参照してください。
- Microsoft Excel および PDF ドキュメント。
- サイト全体、目次またはコンテンツのみを対象にした検索。
- 目次のテキスト見出し。75 ページの「ブックのコンテンツとデザインの編集」を参照してください。

The screenshot shows the 'FY2009 Budget Summary' page from Mass.gov. The page features a header with the title and logo, a search bar, and a navigation sidebar on the left. The main content area includes a table of 'FISCAL YEAR 2009 BUDGET SUMMARY (\$000)' and a bar chart titled 'FY2009 General Appropriations Act'. Callouts point to various elements: 'Header' (top banner), 'Search' (search bar), 'Navigation Display' (left sidebar), 'Table of Contents' (left sidebar), 'Footer' (bottom bar), 'Hyperlinks to Other Reports or URLs' (links above the table), and 'Hyperlinks to Other Reports' (links within the table).

GOVERNMENT AREAS	FY10 GAA	FY10 House2	FY11 House Final	FY11 GAA
Judiciary	496,952	498,932	497,542	478,000
Independents	26,709	353	24,056	343
Administration and Finance	540,999	533,701	510,601	503,111
Energy and Environmental Affairs	15,411	14,822	16,197	16,790
Health and Human Services	10,062	11,024	26,402	24,561
Transportation and Public Works	10,062	5,645	56,123	9,046,323
Housing and Economic Development	2,354	11,024	5,609	7,894
Labor and Workforce Development	10,062	11,024	26,402	343
Education	1,014,490	975,515	864,360	503,111
Public Safety	671,156	662,168	657,402	650,806
Legislative Branch	50,130	63,915	50,000	49,771
TOTAL	2,351,523	2,289,271	2,239,089	11,995,000

バッチ・プロパティの新規バッチへのコピー

バッチ・プロパティを1つのバッチから新規バッチにコピーできます。コピーされたバッチのプロパティを変更し、新規バッチに合わせることもできます。

- ▶ スケジュール済バッチに基づいてバッチ・プロパティを複製および編集するには:
 - 1 「ナビゲート」、「スケジュール」、「バッチ・スケジューラ」の順に選択します。
 - 2 スケジュール済バッチを選択し、「編集」を選択して「プロパティの複製と編集」を選択します。
 - 3 「バッチのスケジュール設定」で次のアクションを行います。
 - リポジトリで新規バッチのプロパティを複製するには、バッチを検索して選択し、「次へ」をクリックします。
 - 選択したスケジュール済バッチのプロパティを複製するには、「次へ」をクリックします。
 - 4 必要に応じて、新規バッチ用にバッチ・プロパティを編集します。たとえば、「開始時刻」または「宛先」の設定を変更できます。
 - 5 「終了」をクリックします。

バッチ・プロパティの変更

ユーザーは既存のバッチのプロパティを変更できます。

- ▶ バッチを変更するには:
 - 1 「ナビゲート」、「スケジュール」、「バッチ・スケジューラ」の順に選択します。
 - 2 「編集」を選択し、「プロパティ」を選択します。
 - 3 「バッチのスケジュール設定」でバッチを選択し、「次へ」をクリックします。
 - 4 変更を加えて「終了」をクリックします。

スナップショットとスナップショット・ブックに対するファイルのアクセス権の割当て

バッチの実行時に、作成したBIカタログ内のスナップショットやスナップショット・ブックの表示を他のユーザーやグループに許可するには、ユーザーやグループにアクセス権を割り当てる必要があります。

- ▶ スナップショットへのアクセス権を割り当てたり除去したりするには:
 - 1 「ナビゲート」>「スケジュール」>「バッチ・スケジューラ」をクリックします。
 - 2 バッチを選択し、「編集」の「プロパティ」を選択します。
 - 3 「バッチのスケジュール設定」で、「バッチのスケジュール設定」ダイアログ・ボックスの「出力先」領域が表示されるまで「次へ」をクリックします。
 - 4 「リポジトリ内のスナップショットの保存先」を選択します。

5 「ファイルのアクセス権」を選択し、「リストの更新」をクリックします。

注： バッチのすべてのユーザー、グループおよび役割を除去した場合、リポ
ジトリ内のバッチによって生成されたスナップショット出力を表示でき
るのは管理者のみです。

6 「ユーザー」、「グループ」または「役割」タブを選択して、目的のユーザー、グ
ループまたは役割を「選択したユーザー、グループ、役割」ペインに移動します。

7 「選択したユーザー、グループ、役割」ペインで、行の「アクセス」ドロップダウ
ンをクリックして、アクセスのレベルを割り当てます。ペインの各行に対してこ
れを行います。

8 「OK」をクリックして「バッチのスケジュール設定」に戻ります。

この章の内容

注釈の表示および非表示.....	106
注釈の作成.....	106
式のセル上にある注釈の動作.....	107
注釈要約の表示.....	108
注釈詳細の表示.....	108
注釈の検索.....	109
注釈権限の設定.....	111
注釈への返答.....	111
注釈の削除.....	112
注釈の印刷のプリファレンスの設定.....	112

Oracle Hyperion Financial Reporting レポートで使用される注釈サービスは、特定のドキュメントとデータについて共有できる情報を取得するためのコラボレーション・ツールを提供します。簡単なメモから完全なスレッド化されたディスカッションに至るまで広範な柔軟性を備え、コラボレーション、コンプライアンス・レポートの作成およびビジネス・プロセスの分析のための基盤を築きます。許可されたユーザーは、注釈の作成や除去および注釈への応答が可能です。注釈はレポート・オブジェクト(グリッド・オブジェクト、テキスト・オブジェクト、チャート・オブジェクトおよびイメージ・オブジェクト)に添付したり、全部または一部の POV を参照したりできます。ブックとスナップショット・ブックでは、レポートに含まれる注釈を選択して表示できます。

注： 注釈は、レポートのヘッダーまたはフッターのオブジェクトには適用できません。

注： スナップショット・レポート内の注釈(目のアイコンで示される)およびスナップショット・ブックやバッチ内の注釈は、読取り専用です。

1つの注釈に複数の添付ファイルを使用したり、URL の参照を使用したりできます。アイコンの上にマウス・ポインタを置くと、添付ファイルのタイトルが表示されます。複数の添付ファイルが存在する場合は、添付ファイルのリストが表示されます。

注釈の要素は次のとおりです。

- 注釈ヘッダー - 件名、作成日、作成者、カテゴリなどの注釈の概要。注釈ごとに1つの要約見出しがあります。
- 本文 - 太字、斜体、下線、色、左揃え、右揃え、中央揃え、両端揃え、インデント、ぶら下げインデントが設定された箇条書きなどを適用するようにフォーマットできます。

注釈の作成者は、アクセス・コントロールと権限のオプションをグループやユーザーに適用できます。

注釈は、単一値、行や列または行や列の範囲に追加できます。

注釈を含むレポートを削除するときに、警告アイコンが表示されます。

設計者は、テキスト・セルやテキスト・オブジェクトをレポートに追加したり、グリッド内の特定の注釈または注釈要素を参照する注釈機能を適用したりできます。この操作は、Financial Reporting Studio を使用して行います。詳細は、『Oracle Hyperion Financial Reporting Studio ユーザー・ガイド』を参照してください。

注釈マネージャでは、管理者は環境全体の注釈の検索と注釈へのアクセス、注釈に関連付けられたコンテキストの変更、メタデータなどのプロパティの変更、システムからの注釈の除去を行えます。詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace 管理者ガイド』を参照してください。

注釈の表示および非表示

注釈を表示または非表示にするには、「表示」メニューを使用します。注釈を表示するには、レポートを選択し、「表示」、**注釈の表示**の順に選択します。注釈を非表示にするには、レポートを選択し、「表示」、「**注釈の非表示**」の順に選択します。

注釈の作成

注釈は、レポート・オブジェクト、グリッド・オブジェクト(式のセルを含む)、テキスト・オブジェクト、チャート・オブジェクト、およびイメージ・オブジェクトに添付でき、全 POV または部分 POV を参照できます。新規注釈は「新規注釈」ダイアログ・ボックスで作成します。「新規注釈」ダイアログ・ボックスの3つのタブで注釈を定義できます。

- 「注釈」タブ - タイトル、説明、および事前定義カテゴリを取りこみます。フォントとフォント・サイズ、箇条書き、番号付け、インデント、色、位置揃えおよび元に戻す/やり直しを指定して、説明テキストをフォーマットできます。
- 「コンテキスト」タブ - オブジェクトおよび次元情報を取りこみます。オブジェクト情報としては、データ・ソースまたはレポート上の任意のオブジェクトが指定可能です。例:
 - データ・ソース - 注釈は、指定データ・ソースを使用して任意の Financial Reporting レポートに添付されます。
 - グリッド: データ・ソース - 注釈は、指定グリッドおよびデータ・ソースに添付されます。

- テキスト、チャート、またはグリッド - 注釈は、オブジェクトに次元がない指定オブジェクトに添付されます。
- 添付ファイル・タブ - 注釈のリンク添付ファイル。注釈としては、ローカル・ドライブ上のファイル、リポジトリ内の任意のオブジェクト、または URL が可能です。

▶ 注釈を作成するには、次の手順に従います

- 1 任意のレポート・オブジェクトを右クリックして「新規注釈」を選択します。「新規注釈」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 2 「注釈」タブで、「タイトル」、「説明」および「カテゴリ」フィールドに値を入力します。箇条書き、番号付け、インデント、色、位置揃えおよび元に戻す/やり直しを指定して、説明テキストをフォーマットできます。
- 3 「コンテキスト」タブでオブジェクトを選択し、適用可能ならば除外する任意の次元を選択解除します。

注： 次元のメンバーを選択するには、次元名をクリックします。

- 4 「添付ファイル」タブで、「ファイル」をクリックしてコンピュータ上にあるドキュメントを添付するか、「レポート」をクリックしてリポジトリからドキュメントを添付するか、「URL」をクリックして Web サイトへのリンクを選択します。
- 5 「OK」をクリックします。レポートに注釈アイコンが表示されます。

式のセル上にある注釈の動作

レポート・ビューアで式のセルを右クリックして新規の注釈を作成できます。注釈のコンテキストには、その式の行または列(あるいはその両方)に出現する次元を除くすべての次元が含まれます。式の行または列(あるいはその両方)に出現する次元は、コンテキストでは「Row X」または「Column Y」(あるいはその両方)に置き換えられます(「Row 3」、「Row 14」、「Column C」、「Column AF」など)。例:

Measures		Year	Year	[A] + [B]
		Product	100-10	
Market	Scenario	45.00	35.50	80.50
East	Scenario	200.25	12.00	212.25
[1] + [2]	Scenario	245.25	47.50	292.25

- 値が 80.50 のセルに注釈を付ける場合、コンテキストは、Measures/Market/Scenario/Column C になります
- 値が 47.50 のセルに注釈を付ける場合、コンテキストは、Measures/Year/100-10/Row 3 になります
- 値が 292.25 のセルに注釈を付ける場合、コンテキストは、Measures/Row 3/Column C になります

「注釈」パネル内の表示では、コンテキストの表示値として、「Row X」または「Column Y」ではなく、式の間または列の見出しが使用されます。例:

Measures		Year	Year	Total Column
		Product	100-10	
Market	Scenario	45.00	35.50	80.50
East	Scenario	200.25	12.00	212.25
Total Row	Scenario	245.25	47.50	292.25

コンテンツの表示値は次のように表示されます:

- 値が 80.50 のセルに注釈を付ける場合、コンテキストは、Measures, Market, Scenario, Total Column になります
- 値が 47.50 のセルに注釈を付ける場合、コンテキストは、Measures, Year, 100-10, Total Row になります
- 値が 292.25 のセルに注釈を付ける場合、コンテキストは、Measures, Total Row, Total Column になります

注: この場合も、注釈のコンテキストには「Row X」および「Column Y」が使用されます。前述の値は、見出しの値を表示するだけの、注釈の単なる表示値です。これは、グリッドにメンバーの別名が表示されている場合、コンテキストの表示値にはメンバーの別名が表示されるという、メンバー名の処理と一貫しています。

いくつかの注意点をあげます:

- セルを右クリックすることでのみ、注釈のコンテキストに式の間または列を含めることができます。
- 「新規注釈」ダイアログのメンバー選択からは、式の間または列にナビゲートできません。
- 「Row」および「Column」という文字は英語のまま、キーワードのように使用されます。各言語には翻訳されません。

注釈要約の表示

初期要約注釈テキストは、注釈アイコンを右クリックして「バブル」内に表示できます。バブル内では、アイコンをクリックして添付、注釈の返答、または適用可能ならば注釈の詳細を表示できます。

注釈詳細の表示

返答および添付ファイルを含む詳細注釈は、注釈リスト・パネルに表示できます。各注釈には次の情報が表示されます。

- ステータス - 表示権のみを示す目アイコン、この注釈はすでにリポジトリ内のオブジェクトに関連していなことを示す感嘆符アイコン、またはこの注釈は表示して返答できることを示す空白を表示します。
- タイトル - 注釈タイトル
- 作成者 - 注釈の作成者
- 説明 - 注釈の説明
- 転記済 - 注釈の作成日
- ソース - レポートで使用しているデータベース
- コンテキスト - 注釈に関連するオブジェクト。オブジェクトがグリッドの場合、次元とメンバーが表示されます。オブジェクトがイメージ、テキスト、またはチャートの場合、レポートのパスとオブジェクト ID が表示されます。
- カテゴリ - 注釈の種類を記述する事前定義カテゴリ。カテゴリとしては、コメント、評価、FYI、雑多、その他、パフォーマンス、およびターゲットがあります。

注釈詳細を表示するには、注釈を含むレポートで次のいずれかを行います:

- 注釈アイコンをクリックし、「詳細の表示」アイコンをクリックして注釈リスト・パネルに注釈を表示します。
- 画面の下の注釈リスト・パネルを探し、パネルの表示へ移動してクリックします。

注釈の検索

「検索」オプションは指定した条件に基づいて注釈のリストを戻します。

▶ 注釈を検索するには:

1. EPM Workspace から画面の下にある注釈パネルを拡大します。
2. 「検索」ドロップダウンから検索メソッドを選択します。
 - すべて - タイトル、作成者、カテゴリ、説明、またはコンテキストをベースにした検索。大文字小文字を区別しないテキスト、後端アスタリスク、およびワイルドカード文字列を使用できます。
 - タイトル - タイトル内のテキストをベースにした検索。大文字小文字を区別しないテキスト、後端アスタリスク、およびワイルドカード文字列を使用できます。
 - 作成者 - 作成者内のテキストをベースにした検索。
 - カテゴリ - カテゴリの検索。ドロップダウン・リストをクリックしてカテゴリを選択します。
 - 説明 - 説明内のテキストをベースにした検索。大文字小文字を区別しないテキスト、後端アスタリスク、およびワイルドカード文字列を使用できます。
 - コンテキスト - コンテキストの検索。検索には、「コンテキスト検索」ダイアログ・ボックスが表示されます。ここでは、データソース、要素名、お

よびオプションで、要素値に基づいて検索を定義できます。110 ページの「[コンテキスト検索](#)」を参照してください。

- 詳細検索 - 検索には、「詳細検索」ダイアログ・ボックスが表示されます。ここでは、タイトル、作成者、説明、転記済日付範囲、カテゴリまたはコンテキストの組合せに基づいた検索を定義できます。110 ページの「[詳細検索](#)」を参照してください。

3. 注釈のコンテンツを表示するには注釈をクリックします。

コンテキスト検索

検索は、データ・ソース、要素名、および要素値をベースに絞りこむことができます。

▶ コンテキスト検索で検索を定義するには:

1 「データ・ソース」ドロップダウンで、データ・ソースを選択します。

注: 既存の注釈に対してデータ・システムが表示されます。注釈がレポート・オブジェクトに設定されているとき fr データ・ソースが表示されます。fr にデータ・ソースが続くときは、特定のレポートのデータ・ソースに設定されている注釈を示します。

2 「要素名」ドロップダウンで、要素を選択します。

注: 選択した要素はリストから除去され、再選択できません。

3 「要素値」で、その値を指定します。複数の値を指定するには、カンマ(,)で各値を分けます。

注: 複数の値の1つのみが満たされている必要があります。

4 さらに検索条件を追加するには、手順 2 と 3 を繰り返します。

注: 複数の要素名を指定する場合、各要素名の値が満たされている必要があります。

5 「検索」をクリックして、結果を表示します。

詳細検索

条件の組合せをベースに検索を絞り込むことができます。

▶ 詳細検索を使用するには:

1 検索ドロップダウンから「詳細検索」を選択します。

2 「詳細検索」ダイアログ・ボックスに検索条件を入力します。

- タイトル - 注釈タイトル。
- 作成者 - 注釈作成者。

- 説明 - 注釈説明。
- 転記済日付範囲 - 注釈の開始日と終了日。「開始」および「終了」ドロップダウンでカレンダー検索選択ができます。
- カテゴリ - 注釈に関連するトピックまたは件名。「カテゴリ」ドロップダウンからカテゴリを選択します。
- コンテキスト - 「コンテキスト検索」を使用して、データ・ソース、要素名および要素値を選択します。「検索」アイコンをクリックして、「コンテキスト検索」ダイアログ・ボックスを表示します。110 ページの「コンテキスト検索」を参照してください。

注釈権限の設定

注釈の作成者は、選択したユーザー、グループ、または役割にアクセス・コントロールおよび権限を設定できます。アクセス・コントロールは、トップ・レベルの注釈(ルート)および以降のすべての返答に適用されます。権限オプションは、ユーザーの注釈に対するアクセスの種類を定義します。アクセスを持つ注釈の表示を整理してコントロールできます。

次の権限オプションがあります。

- アクセスなし - ユーザーは注釈を表示できません。
- ビュー - ユーザーはすべての注釈を表示できますが、注釈の作成および返答はできません。
- 変更 - ユーザーは注釈の作成および返答はできますが、削除はできません。
- フル・コントロール - ユーザーは、リポジトリ・オブジェクトの作成、返答、および関連する管理機能を行うことができます。

▶ 注釈の権限を設定するには、次の手順を行います。

- 1 注釈をクリックし、「詳細の表示」アイコンをクリックして注釈リスト・パネルに注釈を表示します。
- 2 注釈リスト・パネルで注釈アクセス権の設定を行う注釈を強調表示し、「権限」アイコンをクリックします。
- 3 「権限」ダイアログ・ボックスで、権限を適用するユーザー、グループまたは役割を強調表示して、右向き矢印をクリックし、「選択したユーザー、グループ、役割」パネルに移動します。
- 4 「アクセス」ドロップ・ダウンから権限を選択して「OK」をクリックします。

注釈への返答

「変更」または「フル・コントロール」権限を持つユーザーは、Financial Reporting レポートの注釈バブルまたは注釈リスト・パネルから注釈に返答できます。返答時、カテゴリの変更および Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace ドキュメント、コンピュータ上のローカル・ドキュメント、または URL などの添付ファイルの追加ができます。

注： 注釈に返答するとき、「注釈」タブおよび「添付ファイル」タブが使用可能です。

▶ 注釈に返答するには:

- 1 注釈を含むレポートで次のいずれかを行います。
 - 「注釈」をクリックし、「返答」アイコンをクリックして注釈に返答します。
 - 画面の下の注釈リスト・パネルを探し、パネルの表示へ移動してクリックします。次に「返答」アイコンをクリックして注釈に返答します。
- 2 「OK」をクリックします。

注釈の削除

注釈作成者であるかフル・コントロール権限を持つ場合、注釈を削除できます。

▶ 注釈を削除するには:

- 1 注釈を含むレポートで次のいずれかを行います。
 - 注釈アイコンをクリックし、「詳細の表示」アイコンをクリックして注釈リスト・パネルに注釈を表示します。
 - 画面の下の注釈リスト・パネルを探し、パネルの表示へ移動してクリックします。
- 2 削除する注釈を強調表示して「削除」アイコンをクリックします。

注釈の印刷のプリファレンスの設定

注釈またはその要素はレポートとともに印刷できます。「プリファレンス」オプションを使用して注釈の印刷方法を指定します。[12 ページの「注釈印刷プリファレンスの設定」](#)を参照してください。

用語集

! 「感嘆符」を参照してください。

#MISSING 「欠落データ」を参照してください。

2 パス 他のメンバーの計算済の値に依存するメンバーを再計算するために使用される、Essbase のプロパティです。2 パスのメンバーは、2 番目のパスの間にアウトラインから計算されます。

Calculation Manager Planning および **Financial Management** のユーザーがグラフィカルな環境でビジネス・ルールを設計、検証、管理するために使用できる、Enterprise Performance Management Architect (EPMA) のモジュールの 1 つです。

CDF 「カスタム定義関数」を参照してください。

CDM 「カスタム定義マクロ」を参照してください。

Cookie Web サイトによってコンピュータ上に配置されたデータのセグメントです。

EPM Oracle インスタンス EPM System 製品のアクティブな動的コンポーネント(実行時に変更できるコンポーネント)を含むディレクトリです。EPM System コンフィグレータで構成中に、EPM Oracle インスタンス・ディレクトリの場所を定義します。

EPM Oracle ホーム EPM System 製品に必要なファイルを含むミドルウェア・ホームのサブディレクトリです。EPM Oracle ホームの場所は、EPM System インストーラを使用したインストール中に指定されます。

essbase.cfg Essbase のオプションの構成ファイルです。管理者は、このファイルを編集して Essbase サーバー機能をカスタマイズできます。一部の構成は、Essbase クライアントで使用することにより、Essbase サーバーの設定を上書きできます。

EssCell 特定の Essbase データベース・メンバーの交差を示す値を取得するために、Essbase スプレッドシート・アドインのセルに入力する関数です。

ESSCMD Essbase の操作を対話的に実行したり、バッチ・スクリプト・ファイルから実行したりするための、コマンドライン・インタフェースです。

ESSLANG テキスト文字を解釈するために使用されるエンコード方式を定義する Essbase 環境変数です。「エンコード方式」も参照してください。

ESSMSH 「MaxL シェル」を参照してください。

Extensible Markup Language (XML) データに属性を割り当てるタグのセットで構成される言語です。スキーマに基づいて、複数のアプリケーションの間で解釈可能です。

Extract-Transform-Load (ETL) データを抽出してアプリケーションに移行するための、データソース固有のプログラムです。

GUI グラフィカル・ユーザー・インタフェースです。

ID 外部認証におけるユーザーまたはグループの固有の ID です。

Interactive Reporting 接続ファイル(.oce) データベース API(ODBC、SQL*Net など)、データベース・ソフトウェア、データベース・サーバーのネットワーク・アドレス、データベース・ユーザー名などのデータベース接続情報を含むファイルです。管理者は、Interactive Reporting 接続(.oce)ファイルを作成して発行します。

Java アプリケーション・サーバー・クラスタ Java 仮想マシン(JVM)のアクティブ-アクティブ・アプリケーション・サーバー・クラスタです。

Java データベース接続(JDBC) Java クライアントとリレーショナル・データベースにより使用されるクライアントとサーバー間の通信プロトコルです。JDBC インタフェースにより、SQL データベースのアクセスのための呼出しレベル API が提供されます。

JSP Java Server Pages です。

KeyContacts ガジェット Smart Space ユーザーのグループを含み、Smart Space Collaborator へのアクセスを提供するガジェットです。たとえば、マーケティング・チームおよび開発チーム向けに個別の KeyContacts ガジェットを使用できます。「ガジェット」も参照してください。

LRO 「リンク・レポート・オブジェクト」を参照してください。

MaxL Essbase で使用される多次元データベース向けアクセス言語です。データ定義の言語(MaxL DDL)とデータ操作の言語(MaxL DML)から構成されます。「MaxL DDL」、「MaxL DML」、および「MaxL シェル」も参照してください。

MaxL DDL Essbase で、バッチまたは対話的なシステム管理のタスクに使用されるデータ定義言語です。

MaxL DML Essbase で、データのクエリーと抽出に使用されるデータ操作言語です。

MaxL DML の計算済メンバー 分析を目的として設計されたメンバーです。MaxL DML クエリーのオプションの WITH セクションで定義されます。

MaxL Perl モジュール Essbase MaxL DDL の一部である Perl モジュール(essbase.pm)です。このモジュールを Perl パッケージに追加すると、Perl プログラムから Essbase データベースにアクセスできます。

MaxL シェル MaxL ステートメントを Essbase サーバーに渡すためのインタフェースです。MaxL シェルの実行可能ファイル(UNIX: essmsh、Windows: essmsh.exe)は、Essbase の bin ディレクトリに格納されています。

MaxL スクリプト・エディタ 管理サービス・コンソールのスクリプト開発環境です。MaxL スクリプトで Essbase を管理するとき、テキスト・エディタと MaxL シェルの代替として MaxL スクリプト・エディタを使用できます。

MDX (多次元式) 多次元準拠データベースでのクエリーや計算に使用される言語です。

MIME タイプ アイテムのデータ・フォーマットを示す属性により、システムはオブジェクトを開くアプリケーションを判断します。ファイルの MIME タイプはファイル拡張子または HTTP ヘッダーにより判別されます。プラグインはブラウザに対して、サポートされる MIME タイプ、および各 MIME タイプに対応するファイル拡張子を通知します。

NULL 値 データのない値です。NULL 値はゼロに等しくありません。

ODBC Open Database Connectivity の略です。データベース管理システム(database management system: DBMS)の情報処理方法に関係なく、あらゆるアプリケーションにより使用されるデータベース・アクセスの方法です。

「OK」ステータス 集計ステータスの1つです。エンティティが集計済であり、階層の下にあるデータが変更されていないことを示します。

OLAP メタデータ・カタログ Essbase Integration Services における、リレーショナル・データ・ソースから引き出されたデータの性質、ソース、場所および種別について説明するメタデータを含むリレーショナル・データベースです。

OLAP モデル Essbase Integration Services で、リレーショナル・データベースのテーブルおよび列から作成される論理モデル(スター・スキーマ)です。この OLAP モデルを使用して、多次元データベースの構造を生成できます。「オンライン分析プロセス (OLAP)」も参照してください。

Open Database Connectivity (ODBC) 標準のアプリケーション・プログラミング・インタフェース(API)です。これにより、アプリケーションから複数のサードパーティ・データベースにアクセスできます。

Oracle ホーム 特定の製品に必要なインストール・ファイルが含まれるディレクトリで、ミドルウェア・ホームのディレクトリ構造内にあります。「ミドルウェア・ホーム」も参照してください。

POV (視点) 行、列、またはページ軸に割り当てられていないメンバーを選択することにより、データ・フォーカスを設定する機能です。たとえば、FDM での POV の選択項目には、場所、期間、カテゴリ、およびターゲット・カテゴリが含まれる可能性があります。また、Smart View で POV をフィルタとして使用すると、Currency 次元を POV に割り当て、Euro メンバーを選択できます。データ・フォームで POV を選択すると、ユーロ建でデータが表示されます。

Production Reporting 「SQR Production Reporting」を参照してください。

PVA 「期別価額メソッド」を参照してください。

root メンバー 次元分岐における最上位のメンバーです。

Shared Services レジストリ Shared Services リポジトリの一部で、ほとんどの EPM System 製品の EPM System 配置情報(インストール・ディレクトリ、データベース設定、コンピュータ名、ポート、サーバー、URL、依存サービス・データなど)を管理します。

SPF ファイル SQR Production Reporting サーバーで作成される、プリンタに依存しないファイルです。フォント、間隔、ヘッダー、フッターなど、フォーマットされた実際のレポート出力を表します。

SQL スプレッドシート SQL クエリーの結果セットを表示するデータ・オブジェクトです。

SQR Production Reporting データ・アクセス、データ操作、および SQR Production Reporting ドキュメント作成のための専用プログラミング言語です。

Structured Query Language リレーショナル・データベースに対する指示を処理するために使用される言語です。

TCP/IP 「Transmission Control Protocol/Internet Protocol」を参照してください。

Transmission Control Protocol/Internet Protocol (TCP/IP) 異なるオペレーティング・システムおよび内部アーキテクチャを持つコンピュータをリンクする標準的な通信プロトコルのセットです。TCP/IP を使用すると、LAN および WAN に接続する多様なコンピュータとの間でのファイルの交換、メールの送信、およびデータの保管が可能です。

Unicode モードのアプリケーション 文字テキストが UTF-8 でエンコードされている Essbase アプリケーションです。様々な言語に設定されているコンピュータを使用するユーザーが、アプリケーション・データを共有できます。

WebLogic Server ホーム WebLogic Server インスタンスに必要なインストール・ファイルが含まれるミドルウェア・ホームのサブディレクトリです。WebLogic Server ホームは Oracle ホームと同等です。

WITH セクション MaxL DML で、オプションで使用できるクエリーのセクションです。メンバーのセットを定義する再利用可能な論理を作成するために使用されます。WITH セクションでセット(カスタム・メンバー)を一度定義すると、クエリー中に複数回参照できます。

Workspace ページ 複数のソース(ドキュメント、URL、その他のコンテンツ・タイプ)からのコンテンツを使用して作成されるページです。Oracle およびその他のソースからのコンテンツを集約するために使用できます。

ws.conf Windows プラットフォーム用の構成ファイルです。

wsconf_platform UNIX プラットフォーム用の構成ファイルです。

XML 「Extensible Markup Language」を参照してください。

XOLAP アウトラインのメンバーのみを保管し、クエリー時にリレーショナル・データベースからすべてデータを取得する、Essbase の多次元データベースです。XOLAP は、集約ストレージ・データベースおよび重複メンバー名を含むアプリケーションをサポートします。

Y 軸スケール 「調査」セクションに表示される、チャートの Y 軸上の値の範囲です。たとえば、各チャートについて一意の Y 軸スケールを使用すること、すべての詳細チャートに同一の Y 軸スケールを使用すること、または列内のすべてのチャートに同一の Y 軸スケールを使用することが可能です。多くの場合、共通の Y 軸スケールを使用すると、一目でチャートを比較できるようになります。

Zero Administration サーバー上のプラグインの最新バージョン番号を識別するソフトウェア・ツール。

アウトライン 多次元データベースのデータベース構造です。すべての次元、メンバー、タグ、タイプ、集計、および算術的関係を含みます。データは、アウトラインに定義された構造に応じてデータベースに保管されます。

アウトライン同期 パーティション・データベースで、データベースのアウトラインの変更を他のデータベースに伝播するプロセスです。

アクセサ データ・マイニング・アルゴリズムに関する入出力データ仕様です。

アクセス権 リソースに対してユーザーが実行できる一連の操作です。

アクティビティ・レベルの承認 操作対象のデータに依存せず、アプリケーションへのユーザー・アクセス、およびアプリケーションで実行できるアクティビティのタイプを定義します。

アクティブ-アクティブ高可用性システム すべての使用可能メンバーが要求に対応でき、アイドル状態のメンバーがないシステムです。通常、アクティブ-アクティブ・システムは、アクティブ-パッシブ・システムより豊富な拡張性オプションを備えています。「アクティブ-パッシブ高可用性システム」と対比してください。

アクティブ-パッシブ高可用性システム 常に要求に対応するアクティブ・メンバーと、アクティブ・メンバーに障害が発生した場合にのみアクティブ化されるパッシブ・メンバーがあるシステムです。「アクティブ-アクティブ高可用性システム」と対比してください。

アクティブ・サービス 実行タイプが保留ではなく開始に設定されているサービスです。

アセンブリ EPM System 製品またはコンポーネントのインストール・ファイルです。

値次元 入力値、換算値、および連結の詳細を定義する次元。

アダプタ ターゲットおよびソース・システムのデータやメタデータにプログラムを統合するためのソフトウェアです。

アップグレード ソフトウェアの新規リリースをデプロイし、前のデプロイメントから新規のデプロイメントにアプリケーション、データおよびプロビジョニング情報を移動するプロセスです。

宛先 1)Business Rules では、計算済の値が格納されるデータベース・ブロックです。2)Profitability and Cost Management では、割当てモデルでのソースと宛先の関連付けです。割り当てられたコストや収益のフローの方向を制御します。

アドホック・レポート エンド・ユーザーが動的に作成するオンライン分析クエリーです。

アプリケーション 1)特定のタスクまたはタスクのグループを実行するために設計されたソフトウェア・プログラムです(スプレッドシート・プログラム、データベース管理システムなど)。2)必要とされる特定の分析またはレポート(あるいはその両方)に対応するために使用される、次元および次元メンバーの関連するセットです。

アプリケーション移行ユーティリティ アプリケーションとアーティファクトの移行に使用されるコマンド・ライン・ユーティリティです。

アプリケーション管理者 アプリケーションの設定、構成、維持、および制御の担当者です。アプリケーションのすべての権限およびデータ・アクセス権を持ちます。

アプリケーション・サーバー・クラスタ 複数のアプリケーション・サーバーが緩やかに結合したグループです。これらのアプリケーション・サーバーは、信頼性と拡張性を実現するために連携して同時に実行し、ユーザーには1つのアプリケーション・サーバーのように見えます。「垂直アプリケーション・クラスタ」および「水平アプリケーション・クラスタ」も参照してください。

アプリケーションの通貨 アプリケーションのデフォルトのレポート用通貨です。

アペンダ 宛先を意味する Log4j の用語です。

安全率 より安全な投資から期待される利回りです(米国の長期国債など)。

暗黙の共有 メンバーが1つ以上の子を持ち、連結されている子は1つのみである場合、親と子が値を共有します。

アーティファクト 個別のアプリケーションまたはリポジトリ・アイテムです(スクリプト、フォーム、ルール・ファイル、Interactive Reporting ドキュメント、財務レポートなど)。オブジェクトとも呼ばれます。

移行監査レポート 移行ログから生成されるレポートです。アプリケーションの移行に関する追跡情報を提供します。

移行スナップショット アプリケーションの移行のスナップショットです。移行ログに取込まれます。

移行定義ファイル(.mdf) アプリケーションの移行に使用される移行パラメータを含むファイルです。これによりバッチ・スクリプトを処理できます。

移行ログ アプリケーションの移行のすべてのアクションとメッセージを取込むログ・ファイルです。

依存エンティティ 組織内の他のエンティティに属するエンティティです。

一意でないメンバー名 「重複メンバー名」を参照してください。

一意のメンバー名 データベース・アウトライン内に一度のみ存在する、共有されないメンバーの名前です。

一意メンバーのアウトライン 重複メンバー名を使用できないデータベース・アウトラインです。

イメージ・ブックマーク Web ページやリポジトリ・アイテムへのグラフィック・リンクです。

因果関係マップ 企業戦略を形成する要素の関連、およびこれらの要素が組織の戦略目標を達成するためにどのように連動するかが示されているマップです。因果関係マップのタブは、各戦略マップに自動的に作成されます。

インストール・アセンブリ EPM System インストーラへのプラグインを実行する製品インストール・ファイルです。

インデックス 1)疎データの組合せによりブロック・ストレージ・データベースでデータを取得する方法です。2)インデックス・ファイルを指します。

インデックス・キャッシュ インデックス・ページを含むバッファです。

インデックス項目 疎次元の交差へのポイントです。インデックス・エントリはディスク上のデータ・ブロックをポイントし、オフセットを使用してセルを検索します。

インデックス・ファイル ブロック・ストレージのデータ取得情報を保管する Essbase ファイルです。ディスクに常駐し、インデックス・ページを含みます。

インデックス・ページ インデックス・ファイルの低位区分です。インデックス・ページには、データ・ブロックを指すポイントが含まれます。

イントロスペクション データベース固有の関係に基づいて階層を判断するために、データ・ソースを詳細に検査することを指します。「スクレーピング」と対比してください。

インポート・フォーマット FDM で、ソース・ファイルの構造を定義します。これにより、ソース・データ・ファイルを FDM データのロード位置にロードできます。

疎次元 ブロック・ストレージ・データベースで、他の次元と比較した際に、すべてのメンバーの組合せについてのデータを含んでいる可能性が低い次元です。「密次元」と対比してください。たとえば、すべての製品についてのデータがすべての顧客に含まれているわけではありません。

「影響」ステータス 親エンティティに連結する子エンティティの変更を示すステータスです。

エンコード方式 テキストの作成、保管、表示のためにビット組合せを文字にマッピングする方法の 1 つです。各エンコード方式には UTF--8 などの名前が付けられています。各エンコード方式では、それぞれの値は特定のビット組合せにマッピングされています。たとえば、UTF-8 では大文字の A は HEX41 にマッピングされています。「コード・ページ」および「ロケール」も参照してください。

エンタープライズ・ビュー Administration Services の機能の 1 つです。グラフィカルなツリー・ビューを使用して Essbase 環境を管理できます。エンタープライズ・ビューを使用すると、Essbase アーティファクトを直接操作できます。

エンティティ 部門、子会社、工場、地域、製品など、組織での財務報告単位となる組織単位を示す次元です。

エージェント アプリケーションやデータベースの開始と停止、ユーザー接続の管理、ユーザー・アクセスのセキュリティ対策を行う Essbase サーバー・プロセスです。このエージェントは、ESSBASE.EXE と呼ばれます。

お気に入りガジェット Reporting and Analysis ドキュメントへのリンクと URL を含むガジェットです。「ガジェット」も参照してください。

親 直接レポートする依存エンティティを 1 つ以上含むエンティティです。親は少なくとも 1 つのノードに関連しているエンティティであるため、エンティティ、ノード、および親の情報が関連付けられています。

親の調整 親に関連して子に転記される仕訳エントリです。

オンライン分析プロセス(OLAP) 複数ユーザーによりクライアントとサーバー間の計算を行うことができる多次元環境です。集計された企業データをリアル・タイムで分析するユーザーが使用します。OLAP システムの機能には、ドリルダウン、データのピボット、複素数計算、トレンド分析、およびモデリングが含まれます。

会社間消去 「消去」を参照してください。

会社間照合 アプリケーション内の会社間勘定科目の対の残高を比較するプロセスです。会社間の受取勘定科目は、対応する会社間の支払い勘定科目と比較されます。一致する勘定科目は、組織の連結合計から会社間のトランザクションを消去するために使用されます。

会社間照合レポート 会社間勘定科目の残高を比較して、勘定の収支が合っているかどうかを示すレポートです。

拡張リレーショナル・アクセス リレーショナル・データベースと Essbase 多次元データベースの統合です。これにより、すべてのデータがリレーショナル・データベースに保持され、Essbase データベースの要約レベルのデータにマッピングされます。

確認レベル プロセス管理の確認ステータス・インディケータの 1 つです。「開始していません」、「第 1 パス」、「送信済」、「承認済」、「発行済」など、プロセス単位のレベルを示します。

加重 スコアカードのアイテムに割り当てられた値です。スコアボード全体のスコアの計算において、そのアイテムの相対的な重要性を示します。スコアカードのすべてのアイテムの加重を総計すると 100% になります。たとえば、ある製品について新機能を開発する重要性を認めるため、開発者のスコアカード上の New Features Coded のメジャーに Number of Minor Defect Fixes のメジャーよりも大きな加重が割り当てられる可能性があります。

カスケード メンバー値のサブセットに対して複数のレポートを作成するプロセスです。

カスタム・カレンダー システム管理者が作成したカレンダーです。

カスタム次元 ユーザーが作成および定義する次元です。チャンネル、製品、部署、プロジェクト、または地域がカスタム次元になることがあります。

カスタム定義関数(CDF) Java で開発され、MaxL により Essbase の標準計算スクリプト言語に追加された、Essbase 計算関数です。「カスタム定義マクロ」も参照してください。

カスタム定義マクロ(CDM) Essbase のマクロです。Essbase 計算機の関数および専用マクロ関数を使用して記述されます。カスタム定義マクロが使用する Essbase の内部マクロ言語により、計算関数を組み合わせることが可能となり、複数の入力パラメータが処理されます。「カスタム定義関数」も参照してください。

カスタム・プロパティ ユーザーが作成した次元または次元メンバーのプロパティです。

カスタム・レポート 設計レポート・モジュールで作成する複雑なレポートです。コンポーネントの様々な組合せによって構成されます。

仮想アプリケーション・サーバー・クラスタ 同じマシン上に複数のアプリケーション・サーバー・インスタンスが存在するクラスタです。

カタログ・ペイン アクティブ・セクションで使用可能な要素のリストが表示される領域です。クエリーがアクティブ・セクションの場合はデータベース・テーブルのリストが表示されます。ピボットがアクティブ・セクションの場合は結果列のリストが表示されます。ダッシュボードがアクティブ・セクションの場合は埋込み可能セクション、グラフィック・ツール、およびコントロール・ツールのリストが表示されます。

カテゴリ データ編成に使用するグループです(月など)。

株式ベータ 株のリスクを指します。その株の収益と市場利益率の差異により測定され、ベータと呼ばれるインデックスで示されます。たとえば、市場利益率が 1%変動するのに伴って株の収益が通常 1.2%変動するのであれば、その株のベータ値は 1.2 です。

カレンダー ユーザー定義の期間、およびその関係です。暦年または会計年度は、Q1、Q2、Q3、および Q4 から構成されます。

為替レート・タイプ 為替レートの識別子です。異なるレートのタイプが使用されるのは、一定期間および年間について複数のレートが存在することがあるためです。従来より、期末時点でのレートを当期の平均レートおよび期末レートとして定義します。その他、履歴レート、予算レート、予測レートなどのレート・タイプがあります。レート・タイプは特定の時点に適用されます。

換算 「通貨換算」を参照してください。

換算レート 「為替レート」を参照してください。

勘定科目の種別 時間の経過に伴う勘定科目の値のフロー、およびその符号の動作を決定するプロパティです。勘定科目の種別オプションには、支出、収益、資産、負債、および資本が含まれます。

勘定科目の消去 連結時に連結ファイル内で値がゼロに設定された勘定科目です。

勘定科目のブロック 連結ファイルで勘定科目が入力データを受け入れるプロセスです。ブロックされた勘定科目は加算連結プロセスで値を受け取りません。

関数 Data Relationship Management では、パラメータを受け取り、動的値を戻す導出プロパティ式の構文要素です。

感嘆符(!) 一連のレポート・コマンドを終了して、データベースからの情報を要求する文字です。レポート・スクリプトは感嘆符を使用して終了する必要があります。レポート・スクリプト内では複数の感嘆符を使用できます。

管理対象サーバー 内蔵された Java 仮想マシン(Java Virtual Machine: JVM)で実行されるアプリケーション・サーバー・プロセスです。

関連勘定科目 メイン勘定科目に関連し、同一のメイン勘定科目番号にグループ化される勘定科目です。勘定科目の構造体では、すべてのメイン勘定科目および関連勘定科目は同一のメイン勘定科目番号にグループ化されます。メイン勘定科目と関連勘定科目は、勘定科目番号の最初の接尾辞により区別されます。

外部でトリガーされるイベント ジョブの実行をスケジュールするための、時間ベースでないイベントです。

外部認証 アプリケーションの外部に保管されたユーザー情報を使用して、Oracle EPM System 製品にログオンすることを指します。ユーザー・アカウントは EPM System により管理されますが、パスワード管理やユーザー認証は、Oracle Internet Directory (OID)や Microsoft Active Directory (MSAD)などの企業ディレクトリを使用して、外部サービスにより実行されます。

ガジェット EPM のコンテンツを容易に表示し、Reporting and Analysis のコア機能にアクセスできる、軽量で単純な専用アプリケーションです。

期別価額メソッド(PVA) 通貨換算方法の1つです。一定期間における期別の為替レート値を適用して通貨を算出します。

基本エンティティ 組織の構造の一番下に位置し、他のエンティティを持たないエンティティです。

基本次元 1つまたは複数の属性次元に関連付けられている標準次元です。たとえば、製品に香りがあるとすると、Product 次元が Flavors 属性次元の基本次元となります。

基本通貨 日常の業務トランザクションが行われる通貨です。

期末 チャートの日付範囲を調整できる期間です。たとえば、月の期末の場合、当月末までの情報がチャートに表示されます。

キャッシュ データを一時的に保持する、メモリー内のバッファです。

キューブ 3つ以上の次元を含むデータのブロックです。Essbase データベースはキューブです。

キューブ・スキーマ Essbase Studio におけるメジャーおよび階層などのメタデータ要素です。キューブの論理モデルを指します。

キューブ配置 Essbase Studio で、アウトラインを構築してデータを Essbase アプリケーションおよびデータベースにロードするために、モデルのロード・オプションを設定するプロセスです。

兄弟 他の子メンバーと同じ世代で、すぐ上に同じ親を持つ子メンバーです。たとえば、メンバー Florida とメンバー New York はメンバー East の子であり、互いの兄弟です。

共有 Workspace ページ 専用のシステム・フォルダに格納され、組織全体で共有する Workspace ページです。権限を持つユーザーは、共有 Workspace ページの「ナビゲート」メニューからアクセスできます。

共有ストレージ フェイルオーバー・クラスタのすべてのノードで使用できる必要があるデータを含む一連のディスクです。共有ディスクとも呼ばれます。

共有ディスク 「共有ストレージ」を参照してください。

共有メンバー ストレージ・スペースを別の同名メンバーとの間で共有するメンバーです。Essbase アウトラインに複数回現れるメンバーが重複して計算されることを防ぎます。

クエリー・ガバナー Essbase Integration Server のパラメータまたは Essbase サーバーの構成設定です。データ・ソースに対して実行されるクエリーの時間とサイズを制御します。

行の抑制 欠落値を含む行を除外し、スプレッドシート・レポートからの文字にアンダースコアを付ける設定です。

クラスタ 単一リソースとして動作して、タスクの負荷を共有し、フェイルオーバーのサポートを提供する一連のサーバーまたはデータベースです。システムにおける単一障害点となるサーバーやデータベースを排除します。

クラスタ・サービス システムとしてクラスタ・メンバーの操作を管理するソフトウェアです。クラスタ・サービスを使用すると、一連のリソースやサービスを定義して、クラスタ・メンバー間でのハートビート・メカニズムを監視し、これらのリソースやサービスをできるだけ効率よくかつ透過的に別のクラスタ・メンバーに移動できます。

クラスタ内部接続 ハートビート情報に関するノード障害を検出するためにハードウェア・クラスタにより使用されるプライベート・リンクです。

クラスタ棒グラフ カテゴリを横に並べたグラフです。垂直棒グラフでのみ使用されます。

繰返し 同じバージョンのデータを修正して移行する予算またはプランニング・サイクルのパス。

クリーン・ブロック 計算スクリプトによってすべての次元が一度に計算された場合、または計算スクリプトで SET CLEARUPDATESTATUS コマンドが使用された場合の、データベース全体の計算が完了しているデータ・ブロックです。

クロス集計レポート テーブル・フォーマットでデータの分類および集計を行うレポートです。テーブルのセルには、交差するカテゴリに合致するデータの集計結果が保管されています。たとえば、製品販売情報のクロス集計レポートに、列見出しとして Small や Large などのサイズ属性、行見出しとして Blue や Yellow などの色属性を表示できます。テーブルの中で Large と Blue が交差するセルには、サイズが Large のすべての Blue 製品の総売上げが表示されます。

グリッドの POV 行、列、またはページの交差に次元を配置せずに、グリッド上で次元メンバーを指定する手段です。レポート設計者はグリッド・レベルで POV の値を設定し、ユーザーの POV がグリッドに影響を与えないように防ぐことができます。次元に含まれるグリッドの値が 1 つのとき、その次元は行、列、またはページではなくグリッドの POV に配置します。

グループ 複数のユーザーに同様のアクセス権を割り当てるためのコンテナです。

グローバル・レポート・コマンド 別のグローバル・コマンドに置き換えられるか、ファイルが終了するまで実行し続けるレポート・スクリプトのコマンドです。

計算結果アイテム データベースやキューブに物理的に保管される列に対して、仮想の列を指します。クエリー実行時にデータベースにより、または Interactive Reporting Studio の「結果」セクションで計算されます。計算結果アイテムは、関数、データ・アイテム、およびダイアログ・ボックスで提供される演算子に基づくデータ計算であり、レポートに含まれたり他のデータの計算に再利用されることがあります。

計算スクリプト データベースの集計方法や集約方法を定義する一連のコマンドです。集計プロセスとは別に、割当てや他の計算ルールを指定するコマンドが計算スクリプトに含まれることもあります。

計算済勘定科目 変更できない計算式がある勘定科目です。これらの計算式は、作成しているモデルの勘定科目の整合性を保つために固定されています。たとえば、当期純利益、計算済勘定科目の計算式は戦略的財務に組み込まれており、過去実績または予測の期間で変更はできません。

系統データ 割当ての計算後にオプションで生成される追加データです。このデータにより、すべての割当てステップにわたるコストまたは収益のフローについてレポートを作成できます。

系列 異なるメタデータ要素間の関係です。メタデータ要素が他のメタデータ要素からどのように導き出されるかを示し、メタデータ要素を物理ソースまでトレースします。Essbase Studio では、この関係を系列ビューアでグラフィカルに表示できます。「トレーサビリティ」も参照してください。

結合 特定の列または行の共通のコンテンツに基づく 2 つのリレーショナル・データベース・テーブルまたはトピックの間のリンクです。通常、異なるテーブルまたはトピック内の同一または類似するアイテムの間で結合が起きます。たとえば、Customer テーブルと Orders テーブルで Customer ID の値が同一である場合、Customer テーブル内のレコードが Orders 内のレコードに結合します。

欠落データ(#MISSING) ラベル付けされた場所のデータが存在しないか、値が含まれていないか、データが入力されていないかまたはロードされていないことを示すマーカーです。たとえば、勘定科目に当期ではなく過去または将来の期間のデータが含まれている場合は、欠落データが存在します。

権限 データまたは他のユーザーとグループを管理するために、ユーザーおよびグループに付与されるアクセス・レベルです。

検証 アウトラインに対してビジネス・ルール、レポート・スクリプト、またはパーティション定義をチェックして、チェック対象のオブジェクトが有効であることを確認するプロセスです。

検証ルール データの整合性を強化するために FDM で使用されるルールです。たとえば、FDM では、検証ルールによって、FDM からターゲット・アプリケーションにデータがロードされた後に、特定の条件が満たされていることが保証されます。

限界税率 税引き後の負債コストの計算に使用されるレートです。最近計上された所得に適用される税率(所得額に適用される最高の税率区分の税率)を示し、連邦税、州税、および地方税を含みます。課税対象所得と税率区分の現在のレベルに基づいて、限界税率を予測できます。

現地通貨 入力通貨タイプです。入力通貨タイプが指定されていない場合は、現地通貨がエンティティの基本通貨に一致します。

原点 2つの軸の交差です。

子 データベース・アウトライン内で親を持つメンバーです。

高可用性 障害が発生した場合でもアプリケーションが継続してサービスを提供できるようにするシステム属性です。これは、フォルト・トレラント・ハードウェアおよびサーバー・クラスタを使用して、シングル・ポイント障害をなくすことで実現されます。1つのサーバーで障害が発生すると、処理要求は別のサーバーにルーティングされます。

高機能計算 最後に実行された計算以降に更新されたデータ・ブロックを追跡する計算方法です。

交差 多次元データベース内の次元の交差を表すデータの単位であり、ワークシートのセルでもあります。

構造ビュー トピックをコンポーネントのデータ・アイテムの単純なリストとして表示します。

構築方法 データベース・アウトラインを変更するために使用する方法の一種です。データ・ソース・ファイルのデータ・フォーマットに基づいて構築方法を選択します。

個人の反復タイム・イベント 再利用可能なタイム・イベントです。作成したユーザーのみがアクセスできます。

個人用変数 複雑なメンバー選択の特定の選択ステートメントです。

個人用ページ リポジトリ情報を参照するための個人用ウィンドウです。表示する情報、およびレイアウトと色を選択します。

コミット・アクセス Essbase のトランザクションの処理方法に影響する Essbase カーネルの分離レベルです。コミット・アクセスでは、同時トランザクションは書き込みロックを長期間保持し、予測可能な結果を生成します。

コンテキスト変数 タスクフロー・インスタンスのコンテキストを特定するために、特定のタスクフローに定義される変数です。

コンテンツ リポジトリに保管されたあらゆるタイプのファイルの情報です。

コンテンツ・ブラウザ コンテンツを参照して選択し、Workspace ページに配置するために使用できるコンポーネントです。

コントリビューション 子エンティティから親に追加される値です。それぞれの子は親に対するコントリビューションを持ちます。

コード・ページ 一連のテキスト文字へのビット組合せのマッピングです。コード・ページは、それぞれ異なる文字セットをサポートします。各コンピュータには、ユーザーが必要とする言語の文字セットについてのコード・ページ設定が含まれます。このドキュメントでは、コード・ページは非 Unicode のエンコードのビット組合せに文字をマッピングします。「エンコード方式」も参照してください。

差異 プラン値と実績値などの2つの値の差。

サイクル・スルー データベース内で複数パスを実行し、同時に計算します。

再構成 URL ユーザーが Workspace にログオンしているときに、サーブレット構成設定を動的に再ロードするために使用される URL です。

再構築 データベース・インデックス、また場合によってはデータ・ファイルの再生成もしくは再構築を行う操作です。

最新 最新の期間として定義されたメンバーからデータ値を抽出するために使用される、スプレッドシートのキー・ワードです。

最上位メンバー 次元のアウトラインで、階層ツリーが一番上に位置する次元メンバーです。次元メンバー間に階層の関係がない場合は、ソート順で最初のメンバーを指します。階層の関係がある場合、最上位メンバーの名前が次元名と同一となるのが一般的です。

サイレント応答ファイル インストール管理者が提供する必要のあるデータを提供するファイル。応答ファイルを使用すると、ユーザーの操作や入力なしで EPM System インストーラまたは EPM System コンフィグレータを実行できます。

サブ勘定科目のナンバリング 不連続の整数を使用してサブ勘定科目のナンバリングを行うためのシステムです。

サブスクライブ アイテムまたはフォルダが更新されるときに自動的に通知を受け取るように、アイテムまたはフォルダにフラグを付けることを指します。

サポート詳細 セルの値を算出した計算および仮定です。

三角換算法 第3の共通通貨を使用して、ある通貨から別の通貨に残高を変換する手法です。たとえば、残高をデンマークのクローネからイギリスのポンドに変換するには、クローネの残高をユーロに変換してから、ユーロからポンドに変換します。

算出ステータス 一部の値または式の計算が変更されたことを示す集計ステータスです。影響を受けるエンティティについて正しい値を取得するには、再集計する必要があります。

算術演算子 式およびアウトラインでのデータの計算方法を定義する記号です。標準的な算術演算子またはブール演算子が使用されます(+、-、*、/、%など)。

算術データ・ロード データベース内の値に対して演算(たとえば各値に10を加算するなど)を実行するデータ・ロードです。

サンプリング エンティティの特性を判別するためにエンティティの代表的な部分を選択するプロセスです。「メタデータのサンプリング」も参照してください。

サービス ビジネス・アイテムを取得、変更、追加、および削除するためのリソースです(権限付与、認証など)。

サーブレット Web サーバーが実行可能なコンパイルされたコードです。

残高勘定科目 特定の時点の符号なしの値を保管する勘定科目の種別です。

式 Data Relationship Management では、プロパティ値を動的に計算するための導出プロパティにより使用されるビジネス・ロジックです。

式の保存 データ取得中にワークシート内に保持される、ユーザーが作成した式です。

資産勘定科目 勘定科目の1つです。会社の資産の値を保管します。

支出勘定科目 期別の値と年次累計値を保管する勘定科目です。値が正の場合は、純利益が減ります。

市場リスク割増額 国債よりもリスクの高い投資を投資家に呼びかけるための、安全率に追加して支払われる利回りです。予測される市場利回りから安全率を差し引いて計算されます。この数字が示すモデルは将来の市況に近いものとなる必要があります。

システム抽出 データをアプリケーション・メタデータから ASCII ファイルに変換する機能。

子孫 データベース・アウトラインで親の下に位置するメンバーです。たとえば、年、四半期および月を含む次元では、メンバー Qtr2 およびメンバー April がメンバー Year の子孫となります。

シナリオ データを分類するための次元です。たとえば、実績、予算、予測1、予測2などです。

支配比率 所属するグループ内でエンティティが受ける支配の程度です。

収益勘定科目 期別の値と年次累計値を保管する勘定科目です。値が正の場合は純利益が増えます。

集計ルール 階層のノードを集計する際に実行されるルールです。親の残高が正しく集計されるように、顧客固有の適切な式を含めることができます。消去プロセスは、このルール内で制御できます。

修飾名 定まったフォーマットのメンバー名です。重複メンバーのアウトラインにおいて、重複メンバー名を区別します([市場].[東].[州].[ニューヨーク]、[市場].[東].[都市].[ニューヨーク]など)。

集約 集約ストレージ・データベースの値をロール・アップおよび保管するプロセスです。または集約プロセスによって保管された結果を指します。

集約関数 関数の一種です。合計、平均の計算など、データの要約や分析を実行します。

集約スクリプト 集約を構築するための集約ビューの選択を定義するファイルです。集約ストレージ・データベースのみで使用されます。

集約ストレージ・データベース 潜在的に大きな多数の次元に分類される疎に分散した大規模なデータをサポートするように設計されたデータベースのストレージ・モデルです。上位のメンバーと式は動的に計算され、選択されたデータ値は集約、保管されます。通常、集約の合計所要時間が改善されます。

集約制約 集約要求ライン・アイテムや集約メタピック・アイテムに設定する制約です。

集約セル 複数のセルから構成されるセルです。たとえば、Children(Year)を使用するデータ・セルは、Quarter 1、Quarter 2、Quarter 3、および Quarter 4 のデータを含む 4 つのセルに展開されます。

集約ビュー 各次元内のメンバーのレベルに基づく集約セルの集合です。計算時間を短縮するため、値は事前に集約されて集約ビューとして保管されています。取得は集約ビューの合計から開始され、合計に追加されます。

出資比率 あるエンティティが、その親によって所有されている割合。

手動ステージ ユーザーが操作する必要があるステージです。

障害回復 地理的に離れたスタンバイ・サイトにアプリケーションおよびデータ用のリカバリ戦略を用意することで、本番サイトでの自然停電または予期せぬ停電から保護する機能です。

消去 組織内のエンティティ間でのトランザクションをゼロに設定(消去)するプロセスです。

消去済勘定科目 連結ファイルに表示されない勘定科目です。

詳細チャート 要約チャートで、詳細な情報を提供するチャートです。詳細チャートは要約チャートの下にある「調査」セクションに列で表示されます。要約チャートに円グラフが表示される場合、その下の詳細チャートには円の各区分が示されます。

使用済ブロック 最後に計算された後に変更されたセルを含むデータ・ブロックです。子ブロックが使用済である(つまり更新されている)場合、上位のブロックにも使用済のマークが付けられます。

シリアル計算 デフォルトの計算設定です。1 つの計算を複数のタスクに分割して、一度に 1 つのタスクを計算します。

仕訳(JE) シナリオと期間の勘定科目残高の借方または貸方に計上する調整の集合です。

シングル・サインオン(SSO) 一度ログオンすると、再度認証を求められずに複数のアプリケーションにアクセスできる機能です。

シングル・ポイント障害 障害が発生した場合にユーザーが通常の機能にアクセスできなくなるシステムのコンポーネントです。

信頼できるユーザー 認証されたユーザーです。

時間次元 データが示す期間(会計期間、暦時間など)です。

軸 1)測定と分類に使用されるグラフィックを貫通する直線です。2)多次元のデータを整理および関連付けるために使用されるレポートのアスペクトです(フィルタ、ページ、行、列など)。たとえば、Simple Basic でデータ・クエリーを実行する場合、軸では Qtr1、Qtr2、Qtr3、および Qtr4 の値の列を定義できます。Market と Product の階層による合計が行データとして取得されます。

次元 ビジネス・データを整理して値の抽出や保持のために使用されるデータ・カテゴリです。通常、次元には関連するメンバーをグループ化した階層が含まれます。たとえば、Year 次元には多くの場合四半期、月などの期間の単位ごとのメンバーが含まれます。

次元間の無関係性 次元が他の次元と交差しない状況を指します。次元に含まれるデータは、交差しない次元からはアクセスできないため、交差しない次元は無関係となります。

次元構築 Essbase アウトラインに次元およびメンバーを追加するプロセスです。

次元構築のルール データ・ロードのルールに似た仕様です。Essbase でアウトラインを変更するために使用されます。変更は外部データ・ソース・ファイルのデータに基づきます。

次元性 MaxL DML において、セットで示された次元およびその順序です。たとえば、次に示すセットの場合は、含まれている 2 つのタプルはいずれも次元(Region, Year)を反映しているため、同一の次元性であることとなります: {(West, Feb), (East, Mar)}

次元タイプ 定義済の機能を使用可能にする次元のプロパティです。時間のタグが付けられた次元は、定義済のカレンダー機能を持ちます。

次元タブ 「ピボット」セクションで、行と列の間でデータのピボットを実行するためのタブです。

次元テーブル 1)特定のビジネス・プロセスに関する多数の属性を含むテーブルです。2)Essbase 統合サービスでは、Essbase の潜在的な次元を定義する1つ以上のリレーショナル・テーブルのための、OLAPモデルのコンテナを指します。

事前計算 ユーザーが取得する前にデータベースで計算を実行することです。

持続性 Essbase の操作や設定に対する継続的または長期的な影響です。たとえば、ユーザー名やパスワードの有効性について、Essbase 管理者がその持続性を制限することがあります。

実行時プロンプト ビジネス・ルールが実行される前にユーザーが入力または選択する変数です。

実績の頻度 日付のセットを作成して結果を収集および表示するために使用されるアルゴリズムです。

自動逆仕訳 次期に逆仕訳する調整を入力するための仕訳です。

自動ステージ ユーザーの操作を必要としないステージです。たとえば、データ・ロードです。

従業員 特定のビジネス・オブジェクトに対して責任を負う(または関与する)ユーザーです。従業員は組織に勤めている必要はありません。たとえば、コンサルタントでもかまいません。従業員は、認証のためにユーザー・アカウントに関連付けられている必要があります。

重複する別名 別名テーブルに複数存在し、データベース・アウトラインの複数メンバーに関連付けられている可能性のある名前です。重複する別名は、重複メンバーのアウトラインでのみ使用できます。

重複メンバーのアウトライン 重複メンバー名を格納しているデータベース・アウトラインです。

重複メンバー名 データベース内に異なるメンバーを表して重複して存在する同一のメンバー名です。たとえば、ニューヨーク州を示すメンバーとニューヨーク市を示すメンバーが存在する場合、データベースに New York という名前のメンバーが2つ含まれることがあります。データベースに New York という名前のメンバーが2つ含まれることがあります。

重要事業領域(CBA) 部門、地域、工場、コスト・センター、プロフィット・センター、プロジェクト・チーム、またはプロセスに編成された個人またはグループです。責任チームまたはビジネス領域とも呼ばれます。

重要成功要因(CSF) 戦略目標を達成するために確立および維持する必要がある能力です。戦略目標または重要プロセスにより所有され、1つ以上のアクションに対する親となります。

上位レベル・ブロック 少なくとも1つの疎メンバーが親レベルのメンバーになっているデータ・ブロックです。

冗長データ 重複データ・ブロックです。Essbase で更新されたブロックがコミットされるまで、トランザクションの間保持されます。

ジョブ 出力生成のために起動できる特殊なプロパティを持つドキュメントです。ジョブには Interactive Reporting、SQR Production Reporting、または汎用ドキュメントを含めることができます。

ジョブの出力 ジョブの実行によって生成されたファイルやレポートです。

水平のアプリケーション・サーバー・クラスタ 別々のマシンに複数のアプリケーション・サーバー・インスタンスが存在するクラスタです。

数値属性範囲 基本次元メンバーを関連付けるために使用される機能です。メンバーは個別の数値を含み、値の範囲を示す属性を持ちます。たとえば、顧客を年齢別に分類する場合、Age Group 属性次元に 0-20、21-40、41-60、および 61-80 という年齢範囲に該当するメンバーを含めることができます。各 Customer 次元メンバーは Age Group 範囲に関連付けられます。データを取得する際は、個別の年齢の値ではなく年齢範囲に基づいて処理されます。

スキーマ リレーショナル・データベースにおける、データおよびデータ間の関連を表す論理モデル。

スクレーピング データ・ソースを検査して、最も基本的なメタデータ要素を得ることを指します。「イントロスペクション」と対比してください。

スケール スケールによって値の表示方法を決定します(整数、十単位、百単位、千単位、百万単位など)。

スコア ターゲットを達成するレベルです。通常はターゲットのパーセンテージとして表されます。

スコアカード 目標を達成する上での、従業員、戦略要素、または責任要素の進行状況を示すビジネス・オブジェクトです。スコアカードに追加された各メジャーおよび子スコアカードについて収集されるデータに基づき、進行状況が確認されます。

スコープ Essbase の操作または設定により包含されるデータ領域です。たとえば、セキュリティ設定の影響を受けるデータ領域です。通常、スコープには 3 レベルの粒度があり、上位レベルが下位レベルを包含します。これらのレベルは、次に示すように上位から下位の順になります: システム全体(Essbase サーバー)、Essbase サーバー上のアプリケーション、または Essbase サーバー・アプリケーション内のデータベース。「持続性」も参照してください。

ステージ 1)通常は個別のユーザーにより実行される、タスクフロー内の 1 つの論理ステップを形成するタスクの説明です。ステージには手動と自動の 2 つのタイプがあります。2)Profitability では、組織内の割当てプロセスの手順を表すモデルの論理部分です。

ステージ・アクション 自動ステージで、ステージを実行するために呼び出されたアクションです。

ステージ後割当て 割当てモデルにおける割当てです。後に続くモデル・ステージの場所に割り当てられます。

ステージ内割当て 同じステージ内のオブジェクトに対する財務フローの割当てです。

ステージング・テーブル 特定のアプリケーションの必要性に対応するために作成するデータベースです。ステージング領域は、1 つ以上の RDBMS のスナップショット(再構築されたバージョン)です。

ステージング領域 特定のアプリケーションの必要性に対応するために作成するデータベースです。ステージング領域は、1 つ以上の RDBMS のスナップショット(再構築されたバージョン)です。

ステータス・バー 画面下部のバーで、コマンド、勘定科目、およびデータ・ファイルの現在のステータスに関する有用な情報が表示されます。

スナップショット 特定の時点の読取り専用データです。

スポットライト 選択された条件に基づくカラー・コーディングを可能にするツールです。

スマート・カット URL フォームのリポジトリ・アイテムへのリンクです。

スマート・タグ Microsoft Office アプリケーションでのキーワードです。スマート・タグのメニューから利用可能な定義済アクションに関連付けられています。Oracle EPM System 製品でも、スマート・タグを使用して Reporting and Analysis のコンテンツのインポートや Financial Management および Essbase の機能へのアクセスが可能です。

スーパーバイザ サーバーのすべてのアプリケーション、データベース、関連ファイル、セキュリティ機構にフル・アクセスできるユーザーです。

ズームチャート チャートを拡大することにより詳細情報を表示するためのツールです。ズームチャートを使用すると、チャートに表示されるメトリックについて数値情報を詳細に表示できます。

精度 数値に表示される小数点以下の桁数です。

製品 Shared Services における、Planning や Performance Scorecard などのアプリケーション・タイプです。

セカンダリ・メジャー プライマリ・メジャーよりも優先度の低いメジャーです。セカンダリ・メジャーには業績レポートがありませんが、スコアカードで使用したり、次元メジャーのテンプレートを作成するために使用できます。

責任マップ 組織内の責任チーム(重要事業領域とも呼ばれます)の責任、報告、および依存関係の構造を視覚的、階層的に示します。

セキュリティ・エージェント Web アクセス管理プロバイダ(Oracle Access Manager、Oracle Single Sign-On または CA SiteMinder など)です。企業の Web リソースを保護します。

セキュリティ・プラットフォーム Oracle EPM System 製品で外部認証とシングル・サインオン機能を使用するためのフレームワークです。

世代 データベースでのメンバー関係を定義する階層ツリー内のレイヤーです。世代は、次元の最上位のメンバー(世代 1)から子メンバーへと 1 世代ずつ下に配置されていきます。一意の世代名を使用すると、階層ツリー内のレイヤーを特定できます。

設計レポート コンポーネント・ライブラリを使用してカスタム・レポートを作成するための Web Analysis Studio のインタフェースです。

接続ファイル 「Interactive Reporting 接続ファイル (.oce)」を参照してください。

セル 1)多次元データベースの次元の交差を表すデータ値です。ワークシート上の行および列の交差を指します。2)管理ドメインに属するノードの論理グループです。

セル・ノート Essbase データベースでセルに付けられるテキスト注釈です。セル・ノートは LRO の一種です。

選択リスト レポート設計者がレポートの視点(POV)を定義する際に各次元に指定するメンバーのリストです。定義されたメンバー・リストに指定されたメンバーを選択するか、または動的リストの関数に定義された条件に一致するメンバーを選択するだけで、選択リストを使用する次元の POV を変更できます。

戦略マップ 上位レベルのミッションおよびビジョンのステートメントを、構成要素である下位レベルの戦略的達成目標に組入れる方法を示します。

戦略目標(SO) 測定可能な結果によって定義された長期目標です。各戦略目標は、アプリケーション内の1つのパースペクティブに関連付けられ、1つの親(エンティティ)を持ち、重要成功要因または他の戦略目標の親になります。

税金の初期残高 Strategic Finance では、損失の初期残高、収益の初期残高、および納税の初期残高のエントリーは、Strategic Finance の最初の期間に先立つ期間に発生していることを前提とします。

関連サブクエリー 親クエリーの各行で一度評価されるサブクエリーです。サブクエリーのトピック・アイテムを親クエリーのトピックに結合することにより作成されます。

相互割当て 財務フローの割当ての一種です。宛先の1つとしてソースが含まれます。

組織 各エンティティ、およびその関係を定義するエンティティの階層です。

祖先 その下にメンバーを含む分岐メンバーです。たとえば、メンバー Qtr2 とメンバー 2006 はメンバー April の祖先です。

属性 次元メンバーの特性です。たとえば、従業員次元メンバーには、名前、年齢、または住所の各属性がある場合があります。Product 次元のメンバーはサイズ、味などの複数の属性を持つ可能性があります。

属性計算次元 メンバーのグループに対して、合計、カウント、平均、最小、および最大を計算するシステム定義の次元です。この次元は動的に計算され、データベース・アウトラインでは表示されません。たとえば、メンバー Avg を使用すると、製品 Red についてニューヨークでの1月の平均売上の値を計算できます。

属性次元 次元の一種です。次元のメンバーの属性や特質に基づいて分析できます。

属性タイプ 様々な関数(データのグループ化、選択、または計算)を使用可能にするためのテキスト、数値、ブール値、日付、またはリンク属性タイプです。たとえば、Ounces 属性次元は数値タイプを持つので、各製品の属性として指定されるオンス数を使用して当該製品のオンス当たりの収益を計算できます。

属性の関連付け データベース・アウトラインでの関係です。これにより、属性次元のメンバーが基本次元のメンバーの特性を表します。たとえば、製品 100-10 がグレープ味である場合、製品 100-10 は Flavor 属性の関連付けがグレープになります。したがって、Product 次元のメンバー 100-10 は Flavor 属性次元のメンバー Grape に関連付けられることになります。

属性レポート 基本次元メンバーの属性に基づくレポート作成プロセスです。「基本次元」も参照してください。

貸借一致の仕訳 借方の合計と貸方の合計が等しい仕訳です。

対称型マルチプロセッシング(SMP) マルチプロセッシングとマルチスレッディングを使用可能にするサーバーのアーキテクチャです。多数のユーザーが単一のインスタンスに同時に接続した場合でも、パフォーマンスが大きく低下することはありません。

対称トポロジ 本番サイトおよびスタンバイ・サイトの層全体で同一である Oracle Fusion Middleware Disaster Recovery 構成です。対称トポロジでは、本番サイトとスタンバイ・サイトには、同数のホスト、ロード・バランサ、インスタンスおよびアプリケーションがあります。両方のサイトに対して同じポートが使用されます。システムは同一に構成され、アプリケーションは同じデータにアクセスします。

タイトル・バー Strategic Finance 名、ファイル名、およびシナリオ名のバージョン・ボックスが表示されるバーです。

タイム・イベント ジョブ実行のトリガーです。

タイム・スケール 指定された間隔別(毎月、四半期ごとなど)にメトリックを表示するスケールです。

タイムライン・ビューア 特定の場所について、完了したプロセス・フロー・ステップの日時を表示するための FDM の機能です。

多次元データベース 3 つ以上の次元でデータを整理、格納、および参照する方法です。次元のセットが交差するポイントが個別の値となります。「リレーショナル・データベース」と対比してください。

タスクフロー ビジネス・プロセスの自動化を指します。手続きのルールに従って、あるタスクフロー参加者から別の参加者にタスクが渡されます。

タスクフロー・インスタンス タスクフローの単一のインスタンスです。タスクフローの状態と関連データが含まれます。

タスクフロー管理システム タスクフローを定義および作成し、その実行を管理するシステムです。定義付け、ユーザーまたはアプリケーションのやり取り、およびアプリケーションの実行可能ファイルが含まれます。

タスクフロー参加者 手動ステージおよび自動ステージの両方について、タスクフローのステージのインスタンスに関連付けられているタスクを実行するリソースです。

タスクフロー定義 タスクフロー管理システムのビジネス・プロセスです。ステージとステージ間の関係のネットワークから構成されます。タスクフローの開始と終了を示す基準、および個別のステージに関する情報(参加者、関連アプリケーション、関連アクティビティなど)が含まれます。

タスク・リスト 特定のユーザーについて、タスクの詳細ステータスを示すリストです。

タブ Strategic Finance で、勘定科目とレポートのナビゲーションを行うことができるビューです。

ダブル MDX 構文の要素です。セルは、各次元からのメンバーの交差として参照されます。次元が削除されている場合、最上位のメンバーが示されます。例: (Jan); (Jan, Sales); ([Jan], [Sales], [Cola], [Texas], [Actual])。

単項演算子 アウトラインのメンバーに関連付けられている算術インディケータ(+、-、*、/、%)です。単項演算子では、データベースのロールアップ中のメンバーの計算方法が指定されます。

代替階層 共有メンバーの階層です。代替階層はデータベース・アウトラインの既存の階層に基づきますが、次元に代替レベルを持ちます。代替階層により、異なる視点(POV)から同一データを表示できます。

ダッシュボード 業務の要約を対話的に示すメトリックと指標の集まりです。ダッシュボードにより分析アプリケーションを構築して配置できます。

置換 データ・ロードのオプションの 1 つです。データ・ロード・ファイルに指定された期間のすべての勘定科目からの既存の値を消去し、データ・ロード・ファイルからの値をロードします。ロード・ファイルに勘定科目が指定されていない場合、指定された期間に該当する値が消去されます。

チャート・テンプレート ワークスペース・チャートに表示するメトリックを定義するテンプレートです。

抽出コマンド Essbase レポート作成コマンドの 1 つです。データベースから抽出される RAW データの選択、向き、グループ分け、および配列を処理します。小なり記号(<)から始まるコマンドです。

調査 「ドリルスルー」を参照してください。

調整 「仕訳」を参照してください。

調整勘定科目 会社間勘定科目の消去プロセスで均衡しない差額が保管される勘定科目です。

直接レート 為替レート・テーブルに入力する通貨レートです。直接レートは通貨換算に使用されます。たとえば、残高を日本円から米ドルに変換する場合、変換元通貨を日本円、変換先通貨を米ドルとして、為替レート・テーブルに期間/シナリオのレートを入力します。

通貨換算 データベースの通貨の値を別の通貨に変換するプロセスです。たとえば、1 米ドルをユーロに変換するには、ドルに為替レート(たとえば、0.923702)を乗じます(1*0.923702)。変換後のユーロの額は 0.92 になります。

通貨の上書き 任意の入力期間に対して選択した入力メソッドを上書きして、デフォルトの通貨/アイテムとして該当期間の値の入力を有効にする機能です。入力メソッドを上書きするには、数値の前または後にシャープ(#)を入力します。

通貨パーティション アプリケーションでの定義に従って、基本通貨から現地通貨メンバーを隔離する次元タイプです。通貨タイプ(実績、予算、予測など)を特定します。

通常仕訳 特定の期間に一度かぎりの調整を入力するための機能です。通常仕訳は貸借一致、エンティティごとに貸借一致、貸借不一致のいずれかになります。

定義済ドリル・パス データ・モデルでの定義に従って次の詳細レベルにドリルするために使用されるパスです。

適応状態 Interactive Reporting Web Client の権限レベルです。

テキスト・メジャー Essbase では、メジャーが示されている次元で Text としてタグ付けされたメンバーを指します。セルの値は定義済テキストとして表示されます。たとえば、Satisfaction Index というテキスト・メジャーについては、Low、Medium、および High という値を含めることがあります。「型付きメジャー」、「テキスト・リスト」、および「導出テキスト・メジャー」も参照してください。

デフォルト通貨単位 データの単位スケールです。たとえば、千単位で分析を定義するように選択して 10 を入力すると、この単位は 10,000 と解釈されます。

データ関数 平均値、最大値、件数、およびデータのグループを集計するその他の統計など、集約値を計算する関数です。

データ・キャッシュ 非圧縮データ・ブロックを保持するメモリー内のバッファです。

データ・セル 「セル」を参照してください。

データ値 「セル」を参照してください。

「データなし」ステータス 集計ステータスの 1 つです。特定の期間と勘定科目のデータがこのエンティティに含まれていないことを示します。

データ・ファイル・キャッシュ 圧縮データ(PAG)ファイルを保持する、メモリー内のバッファです。

データ・フォーム Web ブラウザなどのインタフェースからデータベースにデータを入力でき、データまたは関連テキストを表示して分析できるグリッド表示です。一部の次元メンバー値は固定され、データが特定の視点から表示されます。

データベース接続 データソースへの接続に使用する定義とプロパティを保管し、データベース参照を移動可能にして広く使用できるようにするファイルです。

データ・マイニング Essbase データベースを検索して、大量のデータの中から隠れた関係やパターンを見つけるプロセスです。

データ・モデル データベース・テーブルのサブセットを示します。

データ・ロック 指定された基準(期間、シナリオなど)に従ってデータの変更を防ぐ機能です。

データ・ロード位置 FDM で、ソース・データをターゲット・システムに送信する報告単位です。通常、ターゲット・システムにロードされる各ソース・ファイルに対して FDM のデータ・ロード位置が 1 つあります。

データ・ロードのルール テキストベース・ファイル、スプレッドシート、またはリレーショナル・データ・セットからのデータをデータベースにロードする方法を決定する一連の基準です。

透過パーティション ローカルのデータベースの一部であるかのように、リモート・データベースのデータにアクセスして変更できるようにする共有パーティションです。

透過ログイン ログイン画面を起動せずに認証されたユーザーをログインさせるプロセスです。

統合 Shared Services を使用して Oracle Hyperion アプリケーションでデータを移動するために実行されるプロセスです。データ統合の定義によりソース・アプリケーションと宛先アプリケーションの間でのデータの移動が指定され、データの動きのグループ化、順序付けおよびスケジュールが決定されます。

統制グループ 証明書および評価の情報を維持および整理するために FDM で使用されるグループです。サーベンス・オクスリ(Sarbanes-Oxley)法の規定に準拠する上で特に役立ちます。

時系列レポート作成 カレンダーの日付(年、四半期、月、週など)に基づくデータのレポート作成プロセスです。

トップ・ラベルとサイド・ラベル 列と行の見出しです。ピボット・レポートの上部とサイドにそれぞれ表示されます。

トラフィック・ライト 2つの次元メンバーの比較、または一定の制限値に基づいて、レポートのセルまたはピンを色分けする機能です。

トリガー ユーザーが指定した基準に従ってデータを監視するための、Essbaseの機能の1つです。基準に一致すると、Essbaseはユーザーまたはシステム管理者にアラートを送信します。

トレーサビリティ メタデータ要素を物理ソースまで追跡する機能です。たとえばEssbase Studioの場合、キューブ・スキーマをそれ自体の階層およびメジャー階層から次元要素、日付/時間要素、メジャー、そして最終的には物理ソース要素まで追跡できます。「系列」も参照してください。

トレース・レベル ログ・ファイルに取り込まれた詳細のレベルです。

トレース割当て Profitabilityの機能の1つです。財務データのフローに対する視覚的な追跡を可能にします。この追跡は単一の交差から、モデル内の前方または後方に実行できます。

トークン 外部認証システム上の1つの有効なユーザーまたはグループの暗号化されたIDです。

トースト・メッセージ 画面右下の隅に現れたり消えたりするメッセージです。

同期 Shared Servicesとアプリケーション・モデルの同期です。

同期済 モデルの最新バージョンがアプリケーションとShared Servicesの両方に存在する状態を指します。「モデル」も参照してください。

導出テキスト・メジャー Essbase Studioで、範囲として表現された定義済ルールによって管理される値を持つテキスト・メジャーです。たとえば、販売高メジャーに基づく導出テキスト・メジャー「販売実績インデックス」は、「高」、「中」、および「低」の値で構成できます。対応する売上が該当する範囲に応じてHigh、Medium、およびLowが表示されるように定義されます。「テキスト・メジャー」も参照してください。

動的階層 集約ストレージ・データベースのアウトラインに限定して、取得時に値が計算されるメンバーの階層です。

動的計算 Essbaseで、動的計算メンバー、または動的計算および保管メンバーとしてタグ付けされているメンバーについてデータを取得する場合にのみ実行される計算です。メンバーの値は、バッチ計算で事前に計算されるのではなく、取得時に計算されます。

動的計算および保管メンバー ブロック・ストレージ・アウトラインで、値を最初に取得したときにのみ計算が行われるメンバーです。計算された値はデータベースに保管されます。2回目以降の取得では計算を実行する必要がありません。

動的計算メンバー ブロック・ストレージ・アウトラインで、取得時にのみEssbaseによって計算されるメンバーです。取得要求の処理が完了すると、計算された値は破棄されます。

動的参照 データ・ソース内のヘッダー・レコードを指すルール・ファイル内のポインタです。

動的時系列 ブロック・ストレージ・データベースで、期間累計のレポート作成を実行するプロセスです。

動的ビュー勘定科目 勘定科目の1つです。勘定科目の値は、表示されているデータから動的に計算されます。

動的メンバー・リスト システムにより作成される名前付きメンバー・セットです。ユーザーが定義した基準が使用されます。アプリケーションでリストが参照される時、リストは自動的にリフレッシュされます。次元メンバーの増減に応じて基準が自動的にリストに適用され、変更内容が反映されます。

動的レポート レポートを実行するときに更新されるデータを含むレポートです。

ドメイン データ・マイニングにおいて、データ内での移動の範囲を表す変数です。

ドライバ Profitability and Cost Managementでは、ドライバを利用する複数ソース間の数学的關係、およびこれらのソースがコストや収益を割り当てる宛先を示す割当て方法です。Business Modelingの場合は、「コスト・ドライバ」および「アクティビティ・ドライバ」も参照してください。

ドリルスルー あるデータ・ソースの値から別のソースの対応するデータに移動することです。

ドリルダウン 次元の階層を使用してクエリー結果セット内をナビゲートすることです。ドリルダウンにより、ユーザーのパーспекティブが集約データから詳細に移ります。たとえば、ドリルダウンにより年と四半期の階層関係、または四半期と月の階層関係が明らかになります。

名前付きセット MaxL DML で、MaxL DML クエリーのオプションの WITH セクションに定義された論理を使用するセットです。名前付きセットはクエリー内で複数回参照することが可能です。

入力データ 計算されるのではなくソースからロードされるデータです。

認証 安全対策としての ID の確認です。一般に、認証はユーザー名およびパスワードに基づきます。パスワードおよびデジタル・シグネチャは認証のフォームです。

認証サービス 単一の認証システムを管理するコア・サービスです。

ネイティブ認証 サーバーまたはアプリケーション内で、ユーザー名とパスワードを認証するプロセスです。

ネスト列見出し 複数の次元からのデータを表示するレポート列の列見出しのフォーマットです。たとえば、Year と Scenario のメンバーが含まれる列見出しはネスト列です。ネスト列見出しでは、見出しの一番上の行の Q1 (Year 次元)が、見出しの一番下の行の Actual および Budget (Scenario 次元)で修飾されます。

ハイパーテキスト・マークアップ言語(HTML) Web ブラウザでのデータ表示を指定するプログラミング言語です。

ハイパーリンク ファイル、Web ページ、またはイントラネット HTML ページへのリンクです。

ハイブリッド分析 リレーショナル・データベースに保管された下位のデータを、Essbase に保管された要約レベルのデータにマッピングする分析です。リレーショナル・システムの大規模スケーラビリティと多次元データを組み合わせます。

反復タイム・イベント ジョブの実行開始点と実行頻度を指定するイベントです。

反復テンプレート 各期間に対して同一の調整を行うための仕訳テンプレートです。

汎用ジョブ SQR Production Reporting または Interactive Reporting 以外のジョブを指します。

凡例ボックス 次元のデータ・カテゴリを特定するためのラベルを含むボックスです。

ハードウェア・クラスタ ネットワーク・サービス(たとえば IP アドレス)やアプリケーション・サービス(データベースや Web サーバーなど)のシングル・ビューを、これらのサービスのクライアントに提供するコンピュータの集合です。ハードウェア・クラスタの各ノードは、独自のプロセスを実行するスタンドアロン・サーバーです。これらのプロセスは互いに通信し、連携してアプリケーション、システム・リソース、データをユーザーに提供する 1 つに見えるシステムを形成します。

バックアップ アプリケーション・インスタンスの複製コピーです。

バッチ POV ユーザーの POV において、バッチに含まれる各レポートおよびブックのすべての次元の集合です。バッチのスケジュールを立てる際は、バッチ POV で選択されたメンバーを設定できます。

バッチ計算 データベースにおいてバッチで実行される計算です(計算スクリプト、すべてのデータベース計算など)。動的計算はバッチ計算とはみなされません。

バッチ処理モード サーバー管理や診断のルーチン・タスクを自動化するために使用できるバッチやスクリプト・ファイルを記述するために、ESSCMD を使用する方法です。ESSCMD スクリプト・ファイルは複数のコマンドを実行でき、オペレーティング・システムのコマンド・ラインから実行したり、オペレーティング・システムのバッチ・ファイルから実行したりすることが可能です。バッチ・ファイルを使用すると、複数の ESSCMD スクリプトを呼び出したり、ESSCMD の複数インスタンスを実行したりできます。

バッチ・ファイル 複数の ESSCMD スクリプトを呼び出して複数の ESSCMD セッションを実行できるオペレーティング・システム・ファイルです。Windows システムの場合、バッチ・ファイルには BAT というファイル拡張子が付けられます。UNIX の場合、バッチ・ファイルはシェル・スクリプトとして記述されます。

バッチ・ローダー 複数ファイルの処理を可能にする FDM コンポーネントです。

バージョン データのシナリオのコンテキスト内で使用される、起こりうる結果です。たとえば、Budget - Best Case と Budget - Worst Case では、Budget がシナリオであり、Best Case と Worst Case がバージョンです。

パターン照合 条件として入力されるアイテムの一部またはすべての文字と値を照合する機能です。欠落文字は、疑問符(?)またはアスタリスク(*)などのワイルド・カード値で表すことができます。たとえば、「Find all instances of apple」では apple が戻されるのに対して、「Find all instances of apple*」では apple、applesauce、applecranberry などが戻されます。

パフォーマンス・インディケータ ユーザーが指定した範囲に基づくメジャーおよびスコアカード・パフォーマンスを示すために使用されるイメージ・ファイルです。ステータス記号とも呼ばれます。デフォルトのパフォーマンス・インディケータを使用することもできますが、無制限に独自のパフォーマンス・インディケータを作成することも可能です。

パブリック・ジョブ・パラメータ 管理者が作成する再利用可能な名前付きジョブ・パラメータです。必要なアクセス権を持つユーザーがアクセスできます。

パブリック反復タイム・イベント 管理者が作成する再利用可能なタイム・イベントです。アクセス・コントロール・システムからアクセスできます。

パレット JASC に準拠し、.PAL 拡張子を持つファイルです。各パレットには相互に補完し合う 16 色が含まれ、ダッシュボードの色要素の設定に使用可能です。

パースペクティブ スコアボードのメジャーやアプリケーションにおける戦略目標をグループ化するために使用されるカテゴリです。パースペクティブにより、主要な利害関係者(顧客、従業員、株主、金融関係者など)またはキー・コンピテンシ領域(時間、コスト、品質など)を示すことができます。

パーティション化 データ・モデルの間で共有またはリンクされるデータの領域を定義するプロセスです。パーティション化は Essbase アプリケーションのパフォーマンスとスケーラビリティに影響することがあります。

パーティション領域 データベース内のサブ・キューブです。パーティションは、データベースの一部からの 1 つ以上のセル領域から構成されます。複製パーティションおよび透過パーティションの場合、2 つのパーティションが同じ形状となるために、領域内のセルの数がデータ・ソースとターゲットで同一となる必要があります。データ・ソース領域に 18 個のセルが含まれる場合、データ・ターゲット領域にも対応する 18 個のセルが含まれている必要があります。

非アクティブ・グループ 管理者によりシステムへのアクセスが非アクティブにされているグループです。

非アクティブ・ステータス エンティティの当期の連結が非アクティブになっていることを示すステータスです。

非アクティブ・ユーザー 管理者によりアカウントが非アクティブにされているユーザーです。

非次元モデル Shared Services のモデル・タイプの 1 つです。セキュリティ・ファイル、メンバー・リスト、計算スクリプト、Web フォームなどのアプリケーション・オブジェクトが含まれます。

非対称トポロジ 本番サイトおよびスタンバイ・サイトの層全体で異なる Oracle Fusion Middleware Disaster Recovery 構成です。たとえば、非対称トポロジには、本番サイトより少ないホストおよびインスタンスを持つスタンバイ・サイトを含めることができます。

日付メジャー Essbase で、メジャーが示されている次元で日付というタグが付けられているメンバーです。セルの値はフォーマット済の日付として表示されます。メジャーとしての日付は時間次元を使用して示すことが困難なタイプの分析に役立ちます。たとえば、一連の固定資産の取得日をアプリケーションで追跡する必要がある場合、取得日の範囲が実現可能な時間次元モデリングの範囲を超えて長期にわたってしまうことがあります。「型付きメジャー」も参照してください。

表示タイプ リポジトリに保存された 3 種類の Web Analysis フォーマット(スプレッドシート、チャート、ピンボード)のいずれかを指します。

標準仕訳テンプレート 各期間に共通する調整を転記するために使用する仕訳の機能です。たとえば、共通する勘定科目 ID、エンティティ ID、または金額を含む標準テンプレートを作成すると、これを多数の通常仕訳の基準として使用できます。

標準次元 属性次元以外の次元です。

ビジネス・プロセス 集散的にビジネス上の目標を達成するための一連のアクティビティです。

ビジネス・ルール 期待される一連の結果値を生成するためにアプリケーション内に作成される論理式または式です。

ビジュアル・キュー 特定のデータ値のタイプを強調表示する、フォントや色などフォーマットの設定されたスタイル。データ値は、次元メンバー、親メンバー、子メンバー、共有メンバー、動的計算、式を含むメンバー、読取り専用データ・セル、読取りおよび書込みデータ・セル、またはリンク・オブジェクトのいずれかです。

ビュー データを年次累計または期別に表示します。

ピボット 取得したデータのパーспекティブを変更します。Essbaseでは、まず次元が取得され、データが行に展開されます。その後、データのピボット(並替え)を行うことにより、異なる視点を得ることができます。

ピン ピンボードと呼ばれるグラフィック・レポート上に配置される対話型アイコンです。ピンは動的です。ピンは、基盤となるデータ値や分析ツールの基準に基づいて、イメージやトラフィック・ライトの色を変更できます。

ピンボード 3種類のデータ・オブジェクトの表示タイプの1つです。ピンボードは、背景およびピンと呼ばれる対話型アイコンから成るグラフィックです。ピンボードを使用するにはトラフィック・ライトを定義する必要があります。

ファイルの区切り文字 データソース内のフィールドを区切る文字です(カンマ、タブなど)。

ファクト・テーブル スター結合スキーマの中心のテーブルです。外部キー、および次元テーブルから取得した要素により特徴付けられます。通常、このテーブルにはスキーマの他のすべてのテーブルに関連する数値データが含まれます。

フィルタ データ・セットで、特定の基準に従って値を制限する制約です。たとえば、特定のテーブル、メタデータ、または値を除外したり、アクセスを制御したりする場合に使用されます。

フェイルオーバー プライマリ・データベース、サーバーまたはネットワークに障害が発生するか、これらがシャットダウンする場合に、冗長性のあるスタンバイ・データベース、サーバーまたはネットワークに自動的に切り替える機能です。フェイルオーバー用にクラスタリングされているシステムは、高可用性、サーバーの冗長性を利用したフォルト・トレランス、および共有ディスクなどのフォルト・トレラント・ハードウェアを提供します。

フォーマット文字列 1) Essbaseでは、セルの値の表示を変換する方法です。2) Data Relationship Managementでは、プロパティ値を返すフォーマットを示す、フォーマットまたはフォーマット済日付の派生プロパティのパラメータです。

復元 データベースが破損または破壊された場合にデータおよび構造の情報を再ロードする操作です。通常、データベースをシャット・ダウンおよび再起動した後で実行されます。

複製パーティション パーティション・マネージャにより定義されるデータベースの一部。あるサイトで管理されるデータの更新を別のサイトで保管されているデータのコピーに伝播するために使用されます。ユーザーは、ローカルのデータベースと同じようにデータにアクセスできます。

負債勘定科目 一定時点における会社の負債残高を保管する勘定科目の種別です。例: 未払費用、買掛金勘定、長期借入金。

フッター レポート・ページ下部に表示されるテキストまたはイメージです。ページ番号、日付、ロゴ、タイトル、ファイル名、作成者名など、動的な関数や静的なテキストが含まれます。

フリーフォーム・グリッド 動的計算のために、複数のソースからのデータを提示、入力、および統合するためのオブジェクトです。

フリーフォーム・レポート作成 ワークシートに次元メンバーまたはレポート・スクリプト・コマンドを入力することにより、レポートを作成することを指します。

フレーム デスクトップ上の領域です。次に示す2つの主要な領域があります: ナビゲーション・フレームおよびワークスペース・フレーム。

フロー勘定科目 期別と年次累計の符号なしの値を保管する勘定科目です。

ブック 1)Financial Reporting においては、類似するドキュメントのグループを含むコンテナを意味します。ブックには、次元セクションまたは次元の変更が指定されていることがあります。2)Data

Relationship Management においては、グループとして一緒に実行可能なエクスポートの集合を意味します。エクスポートの結果は、まとめることも個別に出力することも可能です。

ブックの POV ブックが実行される次元のメンバーです。

ブックマーク ユーザー個人のページに表示されるレポート・ドキュメントまたは Web サイトへのリンクです。ブックマークのタイプには、マイ・ブックマークとイメージ・ブックマークがあります。

ブロック プライマリ・ストレージ・ユニットです。多次元配列であり、すべての密次元のセルを表します。

ブロックされた勘定科目 手動で入力する必要があるために連結ファイルの計算に含めない勘定科目です。

ブロック・ストレージ・データベース 疎次元に定義されたデータ値の密度に基づいてデータを分類および保管する、Essbase のデータベース・ストレージ・モデルです。データ値はブロック単位で保管され、ブロックは値を含む疎次元メンバーについてのみ存在します。

ブロードキャスト・メッセージ Planning アプリケーションにログオンしているユーザーに対して管理者が送信する単純なテキスト・メッセージです。メッセージには、システムの可用性、アプリケーション・リフレッシュの通知、アプリケーションのバックアップなどの詳細な情報が表示されます。

分離レベル データベース操作のロックとコミットの動作(コミット・アクセスまたはアンコミット・アクセス)を決定する Essbase Kernel の設定です。

プライマリ・メジャー 企業および事業のニーズにとって重要な、優先度の高いメジャーです。コンテンツ・フレームに表示されます。

プランナ データの入力と送信、他のプランナが作成したレポートの使用、ビジネス・ルールの実行、タスク・リストの使用、電子メール通知の有効化、および Smart View の使用が可能なユーザーです。プランナは、大多数のユーザーから構成されます。

プランニング・ユニット シナリオ、バージョン、およびエンティティの交差におけるデータ・スライスです。プラン・データの準備、確認、注釈付け、および承認のための基本単位です。

プレゼンテーション Web Analysis ドキュメントのプレイリストです。レポートの分類、整理、並べ替え、配布、および確認を行うことができます。リポトリ内のレポートを参照するポインタを含みます。

プロキシ・サーバー セキュリティを保証するために、ワークステーション・ユーザーとインターネットの間で仲介を行うサーバーです。

プロジェクト 実装でグループ化された Oracle Hyperion 製品のインスタンスです。たとえば、Planning プロジェクトには Planning アプリケーション、Essbase キューブ、Financial Reporting サーバー・インスタンスが含まれることがあります。

プロセス監視レポート FDM データ変換プロセスにおける、場所のリストとその位置を表示します。プロセス監視レポートを使用して、決算手続のステータスを監視できます。レポートにはタイム・スタンプが付けられます。時間データがロードされた場所を判断するために使用できます。

プロット領域 X 軸、Y 軸、および Z 軸で囲まれている領域です。円グラフの場合は、その周りに表示される長方形の領域です。

プロビジョニング ユーザーおよびグループに対して、リソースへのアクセス権限を付与するプロセスです。

並列エクスポート Essbase データを複数のファイルにエクスポートする機能です。並列エクスポートは、1つのファイルにエクスポートした場合に比べて時間を短縮できます。また、1つのデータ・ファイルでサイズが大きくなりすぎた場合の、オペレーティング・システムでの操作上の問題を解決できます。

並列計算 計算オプションの 1 つです。Essbase では計算がタスクに分割され、一部のタスクは同時に計算されます。

並列データ・ロード Essbase で、複数プロセスのスレッドによりデータ・ロードのステージを同時に実行することを指します。

変換 1)アプリケーションの移行後も移行先の環境で正しく機能するように、アーティファクトを変換するプロセスです。2)データ・マイニングでは、キューブおよびアルゴリズムのセルの間で(双方向に)流れるデータを変更することです。

変換先通貨 残高の変換後の通貨です。為替レートを入力して、変換元通貨から変換先通貨に変換します。たとえばユーロから米ドルに変換する場合、変換先の通貨は米ドルです。

変換元通貨 為替レートを使用して変換先通貨に変換される前の、値の元の通貨です。

「変更済」ステータス 集計ステータスの1つです。エンティティのデータが変更されたことを示します。

別名テーブル メンバーの代替名を含むテーブルです。

ページ グリッドまたはテーブルでの情報表示の一種です。しばしばZ軸により示されます。ページには、1つのフィールドからのデータ、計算により得られるデータ、またはテキストを含めることができます。

ページ・ファイル Essbase のデータ・ファイルです。

ページ見出し レポートの現在のページで表示されているメンバーをリストした、レポート見出しの一種です。ページ上のすべてのデータ値には、ページ見出し内のメンバーが共通属性として適用されています。

ページ・メンバー ページ軸を決定するメンバーです。

保管階層 集約ストレージ・データベースのアウトラインのみで使用される用語です。アウトラインの構造に従ってメンバーが集約される階層を指します。保管階層のメンバーには、一定の制限があります。たとえば、式を含むことはできません。

ホスト アプリケーションとサービスがインストールされているサーバーです。

ホスト・プロパティ ホストに関するプロパティです。ホストに複数の Oracle EPM ホームが含まれる場合は、いずれかの Oracle EPM ホームに関するプロパティとなります。

保存された仮定 ビジネス上の主要な計算を推進するための、Planning でのユーザー定義の仮定です(事業所の床面積 1 平方フィート当たりのコストなど)。

マイ Workspace ページ ユーザーにより作成されるカスタマイズ可能な Workspace ページです。リポジトリを移動せずに、1つの場所から簡単にアクセスできるように、特別にマークされます。

マイニング属性 データ・マイニングにおいて、一連のデータを分析する際の係数として使用する値のクラスです。

マスター・データ・モデル 複数のクエリーによりソースとして参照される独立するデータ・モデルです。このモデルが使用される場合は、「クエリー」セクションのコンテンツ・ペインに「ロック済データ・モデル」と表示されます。データ・モデルは「データ・モデル」セクションに表示されるマスター・データ・モデルにリンクされています(管理者によって非表示になっていることがあります)。

マップ・ナビゲータ 戦略、責任、および因果関係の各マップに現在の位置を示す機能です。赤色のアウトラインで示されます。

マップ・ファイル 外部データベースとの間でのデータの送信や取得のための定義を保管するファイルです。マップ・ファイルには異なる拡張子があります(データ送信用は.mps、データ取得用は.mpr)。

マルチロード 複数の期間、カテゴリ、および場所を同時にロードすることを可能にする FDM の機能です。

マージ データ・ロード・オプションの1つです。データ・ロード・ファイルで指定された勘定科目の値のみを消去し、データ・ロード・ファイルの値で置換します。

密次元 ブロック・ストレージ・データベースでは、次元メンバーのすべての組合せについてデータを含んでいる可能性があります。たとえば、時間次元はしばしば密ですが、これは時間次元がすべてのメンバーのあらゆる組合せを含んでいる可能性があるからです。「疎次元」と対比してください。

ミドルウェア・ホーム Oracle WebLogic Server ホーム、および EPM Oracle ホームやその他の Oracle ホームを含むディレクトリです。ミドルウェア・ホームは、ローカル・ファイル・システム、または NFS を介してアクセス可能なりモート共有ディスク上に配置できます。

ミニスキーマ データ・ソースからのテーブルのサブセットをグラフィカルに示したものです。データ・モデリングのコンテキストを表します。

ミニレポート レポートのコンポーネントの1つです。レイアウト、コンテンツ、ハイパーリンク、およびレポートのロード用の1つまたは複数のクエリーを含みます。各レポートには、1つ以上のミニレポートを含めることができます。

耳折れ チャートのヘッダー領域の右上にある、折り曲げられたページの角。

メジャー OLAP データベースのキューブに含まれる数値で、分析に使用されます。メジャーには、利益幅、売上原価、売上数量、予算などがあります。「ファクト・テーブル」も参照してください。

メタアウトライン Essbase Integration Services における、OLAP モデルから Essbase アウトラインを作成するための構造とルールを含んでいるテンプレートです。

メタデータ データベースに保管された、またはアプリケーションにより使用されるデータのプロパティと属性を定義および説明するデータ・セットです。メタデータには、次元名、メンバー名、プロパティ、期間、およびセキュリティなどが含まれます。

メタデータ・セキュリティ ユーザーにより特定のアウトライン・メンバーへのアクセスを制限するための、メンバー・レベルのセキュリティ・セットです。

メタデータのサンプリング ドリルダウン操作で次元に含まれるメンバーのサンプルを取得するプロセスです。

メタデータ要素 データ・ソースから算出されるメタデータ、および Essbase Studio で使用するために保管され、カタログが作成されるおよびその他のメタデータです。

メンバー 次元内の個別のコンポーネントです。メンバーにより、類似する単位の集まりが個別に特定および区別されます。たとえば、時間次元には Jan、Feb、および Qtr1 などのメンバーが含まれることがあります。

メンバー選択レポート・コマンド 兄弟、世代、レベルなどのアウトラインの関係に基づいて、メンバーの範囲を選択するレポート・ライター・コマンドの一種です。

メンバー専用レポート・コマンド レポート・ライター・フォーマット・コマンドの1つです。レポート・スクリプトで現れると実行されます。このコマンドは関連するメンバーにのみ影響し、メンバーを処理する前にフォーマット・コマンドを実行します。

メンバー・リスト 次元のメンバー、関数、他のメンバー・リストを示す名前付きのグループです。システムまたはユーザーにより定義されます。

メンバー・ロード Essbase Integration Services における、次元およびメンバーを(データなしに)Essbase アウトラインに追加するプロセスです。

目標 指定された期間(日、四半期など)についてメジャーに期待される結果です。

持株会社 法的エンティティ・グループの一部であるエンティティです。グループ内のすべてのエンティティに対して直接的または間接的に投資しています。

モデル 1)データ・マイニングで、アルゴリズムにより検査されたデータに関する情報の集合です。より広範なデータ・セットにモデルを適用することにより、データに関する有用な情報を生成できます。2)アプリケーション固有の方法で示したデータが含まれるファイルまたはコンテンツの文字列です。モデルは Shared Services により管理される基本データであり、次元と非次元のアプリケーション・オブジェクトという2つの主要なタイプがあります。3)Business Modeling で、検査対象の領域からの業務および財務上のフローを示し、また計算するために接続されたボックス・ネットワークです。

役割 リソースへのアクセス権をユーザーおよびグループに付与する際に使用される手段です。

ユーザー定義属性(UDA) アウトラインのメンバーに関連付けられ、メンバーの特性を説明する属性です。指定されて関連付けられた UDA を含むメンバーのリストを戻す際に使用できます。

ユーザー定義メンバー・リスト ユーザー定義による、特定の次元に含まれるメンバーの静的なセットです。

ユーザー・ディレクトリ ユーザーおよびグループの情報を集中管理する場所です。リポジトリまたはプロバイダとも呼ばれます。一般的なユーザー・ディレクトリには、Oracle Internet Directory (OID)、Microsoft Active Directory (MSAD)および Sun Java System Directory Server があります。

ユーザー変数 ユーザーのメンバー選択に基づいてデータ・フォームを動的に配置し、指定されたエンティティのみを表示する変数です。たとえば、Department というユーザー変数を使用すると、特定の部署および従業員を表示できます。

要約チャート 「調査」セクションで、同じ列内で下に表示される詳細チャートをロール・アップし、各チャート列最上位の要約レベルにメトリックを描画します。

ライトバック 取得を行うスプレッドシートなどのクライアントが、データベースの値を更新する機能です。

ライフサイクル管理 製品環境で、アプリケーション、リポジトリまたは個別のアーティファクトを移行するプロセスです。

ライン・アイテムの詳細 勘定科目で最も下位の詳細レベルです。

リソース システムにより管理されるオブジェクトまたはサービスです(役割、ユーザー、グループ、ファイル、ジョブなど)。

リポジトリ ビューおよびクエリーに使用するメタデータ、フォーマット、および注釈の情報の格納場所です。

領域 メンバーおよび値の定義済みのセットであり、パーティションを構成します。

履歴平均 多数の履歴期間にわたる勘定科目の平均です。

リレーショナル・データベース 関連する 2 次元テーブルにデータを保管するデータベースです。「多次元データベース」と対比してください。

リンク (1)リポジトリ・オブジェクトへの参照です。リンクはフォルダ、ファイル、ショートカットなどの参照に使用できます。2)タスクフローで、あるステージのアクティビティが終了して次のアクティビティが開始するポイントです。

リンク条件 タスクフローのステージを順序付けるためにタスクフロー・エンジンにより評価される論理式です。

リンク・データ・モデル リポジトリのマスター・コピーにリンクされたドキュメントです。

リンク・パーティション データ・セルを使用して 2 つのデータベースをリンクするための共有パーティションです。ワークシートのリンク・セルをクリックすると、リンク・データベースの次元を示す新しいシートが開きます。これにより、表示される次元をドリルダウンできます。

リンク・レポート・オブジェクト(LRO) セル・ノート、URL、テキスト、オーディオ、映像、画像を含むファイルなどの外部ファイルへのセルベースのリンクです。Financial Reporting では、Essbase LRO 向けにサポートされるのはセル・ノートのみです。「ローカル・レポート・オブジェクト」と対比してください。

隣接する四角形 Interactive Reporting ドキュメントのセクションを個人用ページに埋め込む場合に、Interactive Reporting ドキュメントのコンテンツをカプセル化する必須のパラメータです。高さおよび幅を表すピクセル、または 1 ページ当たりの行数により指定されます。

レイアウト領域 コンテンツを配置可能な Workspace ページの領域です。

例外 事前定義済みの条件を満たす値です。フォーマット・インディケータを定義したり、例外が生成されたときに登録ユーザーに通知したりできます。

レイヤー 1)階層構造内で横並びにメンバーを含む場所です。世代(上から下へ)またはレベル(下から上へ)により指定されます。2)他のオブジェクトに対して相対的なオブジェクトの場所です。たとえば、Sample Basic データベースでは Qtr1 と Qtr4 は同じ年に含まれるので、世代が同一であることとなります。しかし、不均衡階層を含むデータベースの場合、Qtr1 と Qtr4 は同一世代であっても同じレイヤーに位置しないことがあります。

レコード データベースで、1 つの完全な入力項目を形成するフィールドのグループです。たとえば、顧客レコードには、名前、住所、電話番号、および販売データのフィールドが含まれることがあります。

列 Data Relationship Management においては、インポート・ソース、またはクエリー、比較、検証、エクスポートの結果に関連付けられたデータのフィールドを意味します。

レベル 階層ツリー構造において、データベース・メンバーの関係を定義するレイヤーです。レベルは一番下の次元メンバー(レベル 0)から上位の親メンバーへと並べられます。

レベル0のブロック 疎のレベル0メンバーの組合せに使用されるデータ・ブロックです。

レベル0のメンバー 子の存在しないメンバーです。

レポート・エクストラクタ スクリプトの実行時に、Essbase データベースからのレポート・データを取得する Essbase コンポーネントです。

レポート・オブジェクト レポートの設計において、テキスト・ボックス、グリッド、イメージ、チャートなどの動作や外観を定義するプロパティを持つ基本要素です。

レポート・スクリプト 1つまたは複数の運用レポートを生成する、Essbase レポート・ライター・コマンドを格納したテキスト・ファイルです。

レポートの通貨 財務諸表を準備するために使用される通貨です。現地通貨からレポートの通貨に変換されます。

レポート・ビューア レポート・スクリプトの実行後に完全なレポートを表示する Essbase コンポーネントです。

連結 従属するエンティティからのデータを親エンティティに集約するプロセスです。たとえば、次元 Year に Qtr1、Qtr2、Qtr3、および Qtr4 というメンバーが含まれている場合、この連結は Year になります。

連結比率 親に連結された子の値の割合です。

連結ファイル(*.cns) 連結プロセスでチャートまたはツリー・ビューを使用して Strategic Finance ファイルを追加、削除、移動するためのグラフィカル・インタフェースです。連結ファイルを使用して、連結の定義や変更を行うことも可能です。

連結ファイル(親) 事業部門のすべてのファイルが連結されたファイルです。連結の定義を含みます。

ログ・アナライザ Essbase ログのフィルタ、検索、および分析を行うための Administration Services の機能です。

ロケーション別名 データ・ソースを特定する記述子です。ロケーション別名により、サーバー、アプリケーション、データベース、ユーザー名、およびパスワードが指定されます。ロケーション別名は、DBA のデータベース・レベルで管理サービス・コンソール、ESSCMD、または API を使用して設定されます。

ロケール コンピュータで使用される言語、通貨および日付のフォーマット、データのソート順、および文字セットのエンコード方式を指定するコンピュータ設定です。Essbase ではエンコード方式のみが使用されます。「エンコード方式」、「ESSLANG」も参照してください。

ロケール・ヘッダー・レコード スクリプトなど、一部の非 Unicode でエンコードされたテキスト・ファイルの先頭で、エンコード・ロケールを特定するテキスト・レコードです。

ロック済 ユーザーやプロセスがデータを変更するのを防ぐために、ユーザーが呼び出すプロセスです。

「ロック済」ステータス 集計ステータスの1つです。変更できないデータがエンティティに含まれていることを示します。

ロック済データ・モデル ユーザーが変更できないデータ・モデルです。

論理 Web アプリケーション 内部ホスト名、ポートおよび Web アプリケーションのコンテキストの識別に使用される別名付きの参照です。クラスタ化環境または高可用性環境では、分散コンポーネントに対して単一の内部参照を確立する別名です。EPM System において、クラスタ化されていない論理 Web アプリケーションは、その Web アプリケーションを実行している物理ホストにデフォルトで設定されます。

論理グループ FDM で、ソース・ファイルが FDM にロードされた後に生成される1つ以上の論理勘定です。論理勘定はソース・データから導き出される計算済勘定です。

ローカル結果 データ・モデルのクエリー結果です。ローカルの結合で結果を使用する場合は、結果をデータ・モデルにドラッグして挿入できます。ローカルの結果を要求すると、カタログに表示されます。

ローカル・レポート・オブジェクト Explorer で Financial Reporting レポート・オブジェクトにリンクされていないレポート・オブジェクトです。「リンク・レポート・オブジェクト」と対比してください。

ロード・バランサ クラスタ内の個々のアプリケーションに要求を分散し、システムへの唯一のエントリ・ポイントとなるハードウェアまたはソフトウェアです。

ロード・バランシング 複数のサーバー・グループに要求を分散すること。これによって、エンド・ユーザーのパフォーマンスが最適化されます。

ロールアップ 「連結」を参照してください。

ワイルド・カード 検索文字列で単一の文字(?)または文字グループ(*)を示す文字です。

割当て 割当てモデルでのソースと宛先の関連付けです。割り当てられたコストや収益のフローの方向を制御します。

ワークフロー FDM でデータを最初から最後まで処理するために必要なステップです。ワークフローは、インポート(GL ファイルからのデータ・ロード)、検証(すべてのメンバーが有効なアカウントにマッピングされていることの確認)、エクスポート(マッピングされたメンバーのターゲット・アプリケーションへのロード)、およびチェック(ユーザー定義の検証ルールを使用してデータを処理することにより、データの精度を確認)から構成されます。

ワークブック 多数のワークシートを含むスプレッドシート・ファイル全体です。

索引

A - Z

Financial Reporting, 81

関連コンテンツ・サーバーの変更, 27

データベース接続の管理, 33

データベース接続の変更, 29

MIME タイプ

不明, 21

SSL

外部認証用の構成, 27

Workspace

ユーザー・プロビジョニング, 33

Workspace ライブラリ

データ・ソースの変更, 29

あ行

印刷

スナップショット・レポート, 41

ブックおよびスナップショット・ブック, 85

レポート, 41

エクスポート

財務レポート, 23

スナップショット, 23

か行

関連コンテンツ

関連コンテンツ・サーバーの変更, 27

使用, 43

グリッド POV、メンバーの変更, 46

さ行

削除

ブックのレポート, 51

視点(POV)

Financial Reporting, 15

Web のユーザー POV, 41

バッチ・ジョブ用の定義, 91

変更, 41

ページ・メンバー, 43

メンバーの表示, 19

取得

バッチ出力, 99

「使用可能」領域, 57

次元

データ・ソースが同次元であることの検証,
29

スケジューラ

外部, 100

スナップショット

印刷, 43

ソートと表示, 47, 48

スナップショット、Microsoft Office へのエクスポート, 23

スナップショット、表示, 39

スナップショット・ブック

印刷, 69, 85

インポート, 51

説明, 48

名前変更, 69

表示, 48

開く, 68

保存, 67

スナップショット・レポート

印刷, 41

説明、表示, 19

選択

メンバー, 57

メンバー・アイテム, 44

メンバー・オプション, 44

メンバー・リスト, 58

ユーザー POV のメンバー, 45

ソート

スナップショット, 47, 48

た行

デフォルト設定、スナップショット, 39

データ・ソース
 古いデータベース接続, 29
 変更, 29
 リポジトリ, 30
 データ・プロンプト
 応答, 39
 レポートのバッチの定義, 89
 データベース接続
 管理, 33
 削除, 36
 追加, 34
 編集, 36
 特殊メンバー, 58

は行

発行
 情報, 21
 バッチ
 ZIP 圧縮出力ファイル, 99
 宛先と出力, 91
 バッチ POV
 メンバーの選択, 91
 バッチ出力
 取得, 99
 フォーマットと場所の指定, 99
 バッチ・ジョブ
 POV, 91
 出力の取得, 99
 選択でのデータ定義
 バッチ・ジョブの POV メンバー, 91
 定義, 89
 バッチを開く, 88
 メンバー指定, 91
 バッチ、ブックの実行, 50
 バッチ・プロセス
 概要, 89
 表紙
 ブックに追加, 78
 表示
 スナップショット, 47, 48
 説明, 19
 ブック, 47
 別名, 19
 ユーザーの POV, 19
 レポート, 40
 ブック
 印刷, 69

インポート, 51
 作成, 51
 設定, 70
 データ・ソースの変更, 29
 名前変更, 69
 表紙, 78
 開く, 68
 プロパティ, 70
 保存, 67
 「ブック・エディタ」ダイアログ・ボックス, 55
 プレビュー、選択したメンバー, 62
 プロンプト
 定義, 86
 プレビュー時の応答, 42
 レポートのバッチの定義, 89
 変更
 ページ・メンバー, 41
 別名、表示, 19
 ページ
 ブック内の番号設定, 70
 ページ設定、ブックの変更, 70
 ページの向き, 70
 ページ・メンバー
 POV, 43
 変更, 41

ま行

メンバー
 次元, 16
 配置, 16
 バッチ処理のプロンプト, 89
 バッチ・ジョブ用の選択, 91
 プレビュー, 62
 メンバー選択
 レポート間のコピー, 54
 レポートの変更, 56
 「メンバーの選択」ダイアログ・ボックス
 「使用可能」領域, 57
 メンバーの変更
 グリッドの POV, 46
 メンバー・プロンプト, 39
 メンバー・リスト
 プレビュー, 62
 目次、印刷, 70

や行

ユーザーの POV

POV を参照, [41](#)

用紙サイズ, [70](#)

予算台帳

カスタマイズの方法, [83](#)

説明, [81](#)

全体的なプロセス, [83](#)

ら行

リポジトリ、データ・ソースの変更, [30](#)

レポート

データ・ソースの変更, [29](#)

バッチの割当て, [89](#)

表示, [40](#)

ブックから削除, [55](#), [86](#)

ブックに追加, [55](#)

レポートのバッチ、印刷, [41](#)

レポート・ブック、印刷, [85](#)

